



平成 28 年度

社会福祉法人ぷろぼの 事業報告書

奈良で障がいのある方の就労を支援しています



ぷろぼの活動理念

「地域自立」

“ぷろぼの”はラテン語で公共善、よき社会の実現のために…を意味する言葉です。
私たちは、誰もが自立した生活ができる地域社会づくりを目指します。

1. 古都奈良の地を大切にします
2. 人にやさしい福祉ごころを育みます
3. 夢と勇気を持って日々努力します

「夢と目標」

下学して上達す（かがくしてじょうたつす）
身近なことを根気よく学ぶことで、もっと大切なことがわかるようになります。

1. 六ヶ月後は夢を目標にしています
2. 一年後は目標に近づいています
3. 三年後は仕事で頑張っています

「活動方針」

プライドのある自立を目指して…障がいのある方の就労をITで支援します。
“ぷろぼの”は障がいのある方が一般就労に必要な本格的なIT技術を習得できる
就労支援専門の福祉事業所です。
すべての障がいのある方がプライドや生きがいをもって
地域社会で自立した生活ができるようお手伝いをいたします。

目次

理事長挨拶	P3
ふろぼの福祉ビルについて	P5
理事挨拶	P6
I 平成 28 年度 事業報告	P11
当事業年度の事業状況	P12
II 福祉事業（就労訓練）	P17
福祉事業部総括	P18
テクノパークふろぼの生駒	P20
テクノパークふろぼの高の原	P23
テクノパークふろぼの新大宮	P26
テクノパークふろぼの大和八木	P30
IT センター榛原	P34
アースカラーズふろぼの新大宮	P37
III 就労事業（働く場づくり）	P41
IT センター奈良	P42
IT センター大和八木	P52
IV 就業支援	P55
就業支援事業部	P56
V 生活支援・相談支援	P61
生活支援・相談支援	P62
VI 児童支援事業部	P63
ふろぼのスコラ概要	P64
ふろぼのスコラ生駒校	P68
ふろぼのスコラ大和八木校	P72
ふろぼのスコラ新大宮校	P75

目次

Ⅶ ワークグループ	P77
ワークグループの取り組み	P78
利用者法人イベントワークグループ	P78
安全衛生委員会ワークグループ	P81
支援機関連携ワークグループ	P82
奈良クラブ応援プロジェクトワークグループ	P83
職員採用検討ワークグループ	P85
研究開発委員会について	P86
訓練開発ワークグループ	P86
広報・宣伝検討ワークグループ	P89
研修検討ワークグループ	P90
先進事例検討・働き方検討ワークグループ	P92
マテリアルチーム	P93
Ⅷ 地域貢献活動の事業	P97
平成 28 年度 主な地域貢献活動	P98
Ⅸ 利用者の意識調査	P101
平成 28 年度利用に関するアンケート 就労移行支援	P102
平成 28 年度利用に関するアンケート 就労継続支援	P115
Ⅹ 計算書類	P123
資金収支計算書	P124
事業活動計算書	P125
貸借対照表	P126
財産目録	P127
Ⅺ 法人概要	P129
法人概要・役員紹介	P130
まとめ	P131

理事長挨拶

◆平成 28 年度の事業及び活動報告書の作成について

平素は皆様からご高配をいただき感謝申し上げます。平成 28 年度の事業が無事に終了したので事業報告書を作成いたしました。ぷろぼのが障がいのある方の就労支援を始めて 11 年が過ぎました。平成 27 年 7 月には、念願の木造 CLT 工法のぷろぼの福祉ビル（fellow ship center）が完成し、多くの方から温かいご支援をいただきました。これからも障がいがあっても将来に希望が持てる手厚い福祉事業に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



ぷろぼのは 5 年前から「奈良の社会福祉のしくみ」を再構築することを提唱し、“障がいがあっても可能な条件で働くことが、人が生きるために大切なことである”との思いで、働く場の創設と地域貢献活動を進めてきました。幸いにも平成 28 年 6 月 1 日付の全国障害者雇用率の発表では、奈良県が全国で 1 位になることができ、改めて、就労支援を主にした社会福祉の大切さを感じています。

1 平成 28 年度事業実績

福祉事業総額 4 億 283 万円 経常増減差額 2,944 万円

2 「ぷろぼの社会福祉のしくみ」について

これは、障がい福祉事業＋働く場づくり事業＋地域貢献活動の 3 つの Project で構成しています。

Project 1 就労訓練をする事業

障がいのある方が一般企業に就職し働いて経済的に自立した生活を応援する事業です。障害者雇用推進法が本格施行され、民間企業等の障がい者雇用の機運が高まりを見せています。ぷろぼのでは、一人ひとりの就職への思いをお聞きして、目標と成果を個別支援計画にまとめ日々の福祉的な訓練を行います。総合的な支援では独自に開発した「就労支援プログラム」から、「健康のこと」「生活のこと」「社会のこと」「働く技能のこと」の 4 つの項目を下に、働くことのイメージづくりや働き続けるために必要なことを習得していきます。

新規事業では、4 月に榛原事業所ができ、就労経験のない方のために働くための前準備として、新大宮に自立訓練アースカラーズと放課後デイサービスのスコラも開設しました。

Project 2 働く場をつくる事業

障がいのある方が福祉的な支援を受けて、希望する職種で働くことができる事業です。奈良県には、障がいのある方が就職できる企業や職種が意外と少ないので、企業や専門家の協力を得て多様な職場環境を持つ働く場づくりに取り組んできました。主に IT 系、デザイン系、会計処理、データ入力、PC メンテナンス、科学標本の製造、お茶やヨモギの栽培や商品化等があり、バリアフリーな職場で一般就職の前段階として実仕事を経験することができます。新事業としては、IT センター奈良、大和八木に加えて、榛原事業所を開設しました。

Project 3 社会貢献の活動

これは理念にある“古都奈良を大切にする”活動として、地域や学校、企業や NPO などと連携した取組です。奈良県では 4 月に「奈良県障がいのある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」が制定されました。この主旨に沿って障がいのある方が地域で自立した生活ができるための取組をしてきました。障がいのある方も生活する場は地域なので、住居や買い物、通勤などにも皆様のご理解が必要になります。

主に、自治会や学校イベントへの参加、地域の清掃活動、IT を活用した子ども向けの PC メンテナンスやシニア向けの PC 教室を開催しました。また奈良クラブの応援や選手の雇用、サッカーの普及、ぶろぼの食堂をオープンして食事と交流ができる場づくりに取り組みました。

ぶろぼのは IT で障がいのある方の就労を支援する活動をしてきました。就労訓練の過程では、障がい特性によるアセスメントに加えて、成長の段階で生じる心身の発達の遅れなどの感覚統合による基本アセスメントと社会性の要素を包括させた取り組みも始まりました。また近未来の技術の推移を考慮して、最新の IT を活用した Web システムの開発や Pepper 等ロボット制御も始まりました。

私たちにとって“はたらくことは生きるための大切な行い”であることを認識して、これからも多くの方の福祉的な就職支援をしていきます。

以下に担当職員がまとめました個別の事業報告がありますのでご覧ください。

平成 29 年 4 月吉日

奈良の福祉グループ

社会福祉法人ぶろぼの 理事長 

ぷろぼの福祉ビルについて

法人の本拠地として、平成 28 年 7 月に竣工したぷろぼの福祉ビルは、CLT工法を採用し奈良県産の木材を多用した施設です。

私たちは、この木造福祉施設を「Fellow - Ship - Center（フェローシップセンター）」と名付けました。

Fellow - Ship とは、仲間であること、共にすること、共同、協力という意味合いがあります。

障がいのある方はもちろんのこと、地域の高齢者や子どもたち、だれもが仲睦まじく寄り添い合える共同体として地域に根ざしていくことを願っています。



◆『ぷろぼの』の生き方を自問してほしい 梓川 一

この10年余り、障害福祉を取り巻く法制度サービスは目まぐるしく変化してきた。その改正の対応に追われ、主旨と意味、その後の効果と影響をじっくりとらえることができないまま、現場は日々の実践のなかで苦闘し、終わりのない業務に埋没してもがいていたのかもしれない。幸い、最近は大きな改正の波はやってきていないので、今ここで「法制度サービスとは何か」を立ち止まって考えるべきではないかと思う。

個人の生活はますます多様化し、個人の価値観も豊かさと独自性にあふれている。しかし、法制度というマクロ視点からのみ個人の生活をとらえてしまうと、大切な何かを置き忘れることになるだろう。最大多数はすくいあげる、その大きな網の目からこぼれ落ちる人もいるかもしれない。社会全体を見渡す性質をもつ法制度は、社会の全体的な保障や防衛には都合良く機能するが、一人の個人の生活や人生まで保障はしてくれないし、そもそもできない。個人の生活に着目する姿勢、ミクロ視点こそ、今後いっそう必要になるだろう。さらに、この個人が集まり、この人々が地域で生活していくためには、多様な要求（ニーズ）と価値観をもった人々がともにコミュニティを形成していくわけで、そこでどのように共生の社会を創り出し、生活の場面、個人の居場所が出来上がってくるか、ここに本来のノーマルな生活が実現していくのだろう。

見渡せば、地域には、実はたくさんの社会資源があるけれども、意外と人々は気づいていない。現実を言えば、気づくチャンスも少なかったりする。申請しなければ、認めてもらえないお決まりごとも多い。援助する側と援助される

側に分かれた論理が存在する限り、社会資源はリアルに活用できないし、誰のための社会資源なのかと問いたくもなる。そうなると、障がいをもつ人々は社会生活上で不利になってしまうだろう。

これからのぷろぼのに、私が期待したいことは、法制度サービスの改革を効果的に取り入れて、さらなる成長を遂げていくことではない。功利主義ともいえるマクロの支援からこぼれ落ちた、一人の人、生活ができない家族、孤独な人に出会うことができる、声かけができる、そして、その方が「私は孤独ではない」と感じて、「これからも生きていこう」とたとえ弱々しくても思い始めることができる、こうしたたった一人の個人に向きあえる姿を追い求めてもらいたい。

人の苦しみは、他人にはわからない、わかるものではない。人々には気づかれていないまま、ある人は、苦しくて苦しくて、生きていくことに苦しんでいる。この方にどう向きあえるのだろうか。どうすればいいのか、ここに寄り添い続ける姿はあるだろうか。ほんとうにこの方は救われるだろうか。希望がもてないこと、これは生きる力を維持するための自らの可能性もなくしてしまう、絶望へと追いやってしまう。だから、生きていくことがいっそう苦しくなる。

私はいつも思う、どんなに時代や社会が変わっても、人間と人間の向きあいには、根源的で不変的な本質がある、と。ここを見失わない、ぷろぼのの生き方をもち続けてほしい。



◆ぷろぼのへ期待すること 南部 英治

奈良県より福祉事業所の経営改善プロジェクトに参加してほしいとの依頼があり社会福祉法人、NPO 法人を対象に支援を開始したのが福祉との出会いでした。それまで一般企業の仕事しかしていなかった私には、福祉事業がどのようなものか初めは理解できませんでしたが、支援を通じて福祉事業の難しさ、大変さとともに福祉に携わる方々の人を大切にする思いを学びました。

当時ぷろぼのは生駒市で「障がいのある方の就労を IT で支援する」という今までにない業態の NPO 法人を発足されたばかりで、この素晴らしい理念をどのように実践されるのだろうかというのが私の率直な印象でした。

それから現在まで一貫して障がいのある方の就業を支援するため、利用者の意見を反映した独自の就労支援プログラムを作成・実践され、また内部に新規事業の部門を次々と立ち上げ働く場づくりをしてこられました。これらの事は就労経験の少ない利用者の方々の自信になり、またこのことが就職者数の上昇と定着率の向上につながっていると確信して

おります。

さらに新規受注にむけて協同組合を立ち上げ、関係事業所・企業と連携を取りながら地域貢献されていることも、立ち上げ時の理念を実践され、着実な成果となっています。

事業を始められて短期間の間に、ぷろぼのは業容を大幅に拡大し奈良県でも名の通った社会福祉法人になりました。また当初の目標とされていた障がいのある方が安心して集える場所、そして皆さんが自信をもって活躍できる素晴らしい「Fellow Ship Center」もできました。これは、ぷろぼのの皆さんの新しい発想力、時代に合わせた対応力、仕事を着実に積み上げていかれた活動の結果だと思います。

これらの実績をもとに、これからも誰もが自立した生活ができる地域社会づくりを目指して邁進されることを期待しております。



◆ Fellow Ship を大切に、このフォームで走ろう 林田 五郎

先日、理事会での論議で「養護施設の若者支援事業の取組」提案のなか「支援される側の事情をよく理解し、慎重に進めるように」という意見や「来年度事業計画」提案の中で、「事業拡大による、福祉の質の低下への懸念」の意見がでました。どちらも「ぷろぼの」への熱い思いによる、親身な忠告であると感じました。「ぷろぼの」を囲む人たちの温かい愛情に触れ、改めて地域環境の素晴らしさを感じたひとときでした。そしてもう一つ、た

んぽぼの家のアーティスト「澤井玲衣子」さんの作品が「ぷろぼの福祉ビル5階」に展示されていたことです。私は前職で「たんぽぼの家」の播磨理事長さんの影

響を受け、平成 13 年から定年退職まで 11 年間、毎年 1 回、近畿を巡回した「障がい者アー



ト展示会・エイブルアート」を開催する事業をご一緒にさせていただきました。「澤井さん」のお顔も存じ上げ、昔の彼女に出会った時のような、嬉しさと懐かしさを感じました。作品は奈良産の杉板とマッチして、その場に溶け込んだ佇まいで「奈良の障がい者福祉の芯の強さ」を肌で感じました。

「ぶろぼの」はこの10年、理想的なペースで、理想的なフォームで、絵に描いたような、順調なラップを刻んでこられたのではないかと思います。そこには山内理事長を先頭に職員の皆様、地域の皆様の「福祉事業へのこだわ

りと夢実現に向けたご努力」の成果です。ペースもフォームも見事、ホントに素晴らしい。

「あたつく組合」設立は全国的に高く評価されるに値する事業です。課題の解決には地域連携が重要といっても、現実的に非常に困難なことです。先達としての今後の展開を期待しています。

事業は「ひと・もの・かね」と言われています。地域を考えると「ならコミュニティー財団」の立上げが重要な課題ではないかと思われます。素晴らしい奈良の皆さんのパワーと地域をけん引する事業団体を応援しています。

◆よき社会づくりへの尽力を 奥脇 学

ぶろぼのに理事として平成24年から関わり、気が付くとあつという間に5年もたっていました。その間に、社会福祉法人を立ち上げたり、いろいろな事業を始められたり、スタッフの数もどんどん増えてたりと少しご無沙汰していると、状況が刻々と変わっていて、スピード感のある団体だなといつも驚いています。

いつもその基軸にあるのが、地域の課題を様々な側面からとらえ、課題に対し、課題解決のため知恵を絞って考え抜いている所にあるのかな？とも感じています。その課題解決のため、うまく効果的に様々な団体、行政とも連携し、労力・資源を上手に活用してあつと驚くような解決方法を現実化させ、相乗効果的に物事をすすめる。このぶろぼのという団体には、いつも感服しています。

私は障がい者雇用をしている企業の立場ということで関わっていますが、企業を取り巻く障がい者雇用への現状は目まぐるしく刻々と変わっています。最近であれば、障がい者差別解消法に伴う合理的配慮の提供、平成30年度の精神障がい者の雇用義務化に伴う障が

い者雇用率の上昇に対する各企業の対応など、その変化に対応していく必要があります。

雇用率やCSRの観点から障がい者雇用を進め、働く場づ

くりを進めていく企業、雇用率など関係が無くても障がいのある方と共に生き、共に働けるための工夫を惜しまない企業、それぞれの立場で障がいのある方と関わっていく企業がある中で、ぶろぼのとしてはそれらの立場や考えを理解しながら、関わっていく人たちのために尽力していく必要があると思います。

ぶろぼのスタッフはとても熱心で、障がいのある人たちへの取り組む姿勢をはじめ、地域活動などにも積極的に関わり、素晴らしい人たちが揃っていると思います。

今後も関わりを持ちながら、一緒に良い社会づくりを目指していきたいと思っています。



◆「仲間」＝「ぷろぼの」が目指すべき姿 米田 英雄

現在ぷろぼのでは理事と法人事業の統括という立場で、職員一人一人が成長すること、そして利用者が自立した生活を送れることの実現に「何が必要か」を考え、事業所長、部長と共に法人運営に取り組んでいます。障がい福祉業界にも民間企業の参入が著しい今の時代、今後の事業運営、展開をどのように見据えるか、法人は大きな岐路に立っていると感じています。法人が存続・成長し、障がいのある方の就労・自立生活の実現を目指す上で、社会福祉法人であるぷろぼのが担う役割は大きいと考えています。

私にはこういった時期であるからこそ大切にしたい考えがあります。それは、社会の中で法人がどのような戦略をもって事業を展開していくかも非常に大切ですが、法人を形成するのは利用者や職員など「一人一人の人間の集合体」であるということです。

私は、前職では、障がいのある方の地域生活を支える仕事、具体的には身の介護を含めた生活支援を20年やっていました。重度の障がいのある方でしたので、起床の着替えから、食事やトイレ介護、外出の付き添い、お風呂、夜間は寝返りのために横に寝ているという「24時間の生活支援」が仕事でした。時

には、泊り介護など36時間一緒に過ごすことになります。長い時間一緒に過ごす、誰しも着飾って建前であることができなくなります。そのような環境で、地域で自立した生活の実現を共にめざす「仲間」として、年齢や障がいを超え、生の人間同士が、時にはぶつかり合いながら、相手を信頼し一緒に過ごすという経験をさせていただきました。それらは私の大きな財産であり、また今の仕事をしている原点であると感じています。

法人のこれからを見据えた時、今の時代だからこそ、人と人が触れ合って相互に影響しあいながら成長し、皆が前に向かって進んでいけるような「仲間」＝「ぷろぼの」こそが目指すべき姿だと痛感しています。真にそのような組織になれば、職員も利用者も、かわる人みんなが幸せに満足して生活できるはずです。これからの法人がそのような組織になることを現場と共にめざし、日々精進して励みたいと思います。



I 平成 28 年度 事業報告

当事業年度の事業状況

1 事業の経過およびその成果

平成 28 年は、数年来の夢であった”木に包まれた空間”で障害者支援施設を建築することが実現できた年でした。主に障がいのある方が働き自立した生活ができることを支援する福祉活動を行う場所として、障がいのある方々にとって癒される場所を提供したいという思いから端を発し、十分なスペースを確保する狙いからビル構想となり、これらを実現可能とする C L T 工法という最新の建築工法と出会ったことで叶えられた夢でした。

施設は、奈良県産の木材を使った 5 階建てのビルとなり、仲間であること、ともにすることを意味する FellowShip から「FellowShipCenter」と名付けました。

障がいのある方々は勿論のこと、若き企業家、働くママ、地域の高齢者や子どもたち、みんなが仲睦まじく寄り添え合える共同体がここで生まれここで根ざしていくことを願っています。

この施設が出来たこともあり、平成 28 年 8 月には、新たな事業の立ち上げにも取り組み

ました。当法人としては、初めての事業である自立訓練（生活訓練）の開所、生駒・大和八木に次ぐ放課後等デイサービス事業の開始等、さらには、施設の 1 階に設けた食堂を活用した食堂事業にも取り組みました。

また、平成 27 年 10 月に開所した榛原事業所にて、平成 28 年 4 月からは、就労移行支援と就労継続支援 B 型の多機能福祉サービスも開始し、事業規模の拡大を図ることができました。

既存事業の中では、就労移行支援事業が、平成 27 年からの支援機関との連携活動が奏功し、利用カウント数は、前年比 107%と堅調に推移、放課後等デイサービス事業の利用カウント数は、前年比 157%と大幅伸長しました。

これら事業展開と伸長により、当法人の当会計年度のサービス活動収益は、前年比 110.1%（奈良の福祉グループぷろぼの全体の収益から N P O 法人ぷろぼのの収益（地域活動支援センターⅢ型事業の収益）を除いて算出）増収の 4 億 283 万円となりました。

就労移行支援事業

平成 27 年度低迷していた就労移行支援事業の業績が回復、法人収益に大きく貢献しました。特に低迷していた「生駒」においては、体制の見直し、県外（東大阪市）への広報活動を積極的に展開したこと、また「高の原」においても、県外（京都府南部）への広報活動に注力したことが、平成 28 年度の業績回復に繋がりました。

新しい拠点として、平成 27 年 10 月に開所した「榛

原事業所」は、平成 28 年 4 月、「IT センター榛原」として、就労移行支援＋就労継続支援 B 型の多機能事業を開始しました。地域性もあり、利用者の増加が長らく低迷していましたが、年度末近くになり、体験・利用者登録が増えてきました。平成 29 年度は、現在定員 6 名の就労移行支援を定員 10 名に拡げ、一般就職を目指す障がいのある方の支援強化に取り組んで参ります。

また、各事業所の訓練プログラムにおいて、新たなプログラムの開発・導入も進みました。「高の原事業所」における「+ゲーム」「+フォト」、「榛原事業所」における「合気道的からだづくり」など。訓練に取り組む利用者の「楽しむ力」を「働く力」

に繋げていく取り組みを更に展開していきたいと思えます。

就労移行支援事業としてのカウントは、20355 カウント（前年比 107%）、収益は、2 億 1,312 万円（前年比 109.4%）という結果でした。

自立訓練（生活訓練）

ぶろぼの福祉ビルの完成に合わせて、新たに取り組み始めた自立訓練（生活訓練）事業は、通称を「アースカラーズ」と名付け、平成 28 年 8 月より事業を開始しました。アースは大地・地球、カラーズはたくさんのイロドリ、「たくさんの個性ある利用者さん達が、大地に足をつけて日々学ぶことで、明日大きく羽ばたく」という思いを込めています。

長年、就労移行支援をしていて利用者さんには「自己評価の低い方」「社会人としての基本的なことや生活の上での基礎的なことを知らない方」「経験が少ない方」が多いと感じていました。また、特別支援学校の生徒さんの多くが在学中に人生の選

択をしなければならないということに疑問を持っていました。そんな人たちに、いろんな経験をして、楽しいこともいっぱい体験して、その中で自分がやりたいこと、好きなことを見つけていていただきたいという思いから自立訓練（生活訓練）を開業しました。

自立訓練（生活訓練）事業としてのカウントは、645 カウント、収益は、529 万円という結果でした。定員 20 名に対し、年度末では登録者数 12 名に至っており、就労を目指す最初のステップとして、自立訓練（生活訓練）の重要性を再確認できました。

就労継続支援事業

IP ファクトリー・SC ファームを統括する IT センター奈良では、ホームページの制作・更新管理、チラシ・リーフレット・冊子などの印刷物制作を行う「Proide」は、そのクオリティから堅調に収益を伸ばすも、会計入力・データ入力を行う「Pac」、パソコンやパソコンパーツの再生販売を行う「3R センター」は伸び悩み、特に「3R センター」は、市況の停滞が大きく影響した状況となっています。

収益の低迷の対策として、ぶろぼの福祉ビルの「ぶろぼの食堂」における食堂営業、「3R センター」における中古ゲームソフト・DVD ソフトの再生販売など新たな取り組みに着手しました。

IT センター大和八木では、いろいろな「はたらく」を作る動きを展開し、「よもぎ商品」の新商品「よもぎ茶」の販売開始、科学雑貨「サイ◇コロ」のブローチの商品ラインアップの拡充、システムコンサルチームによるシステム開発等により、所期の目標を達成することができました。

IT センター榛原では、東吉野村のよもぎ栽培に取り組み、IT センター大和八木と連携した 6 次産業の取り組みを展開しました。

就労継続支援事業としてのカウントは、13855 カウント（前年比 125%）、収益は、9,476 万円（前年比 131.0%）という結果でした。

放課後等デイサービス事業

ぶろぼのスコラ（ぶろぼにおける放課後等デイサービス事業の通称）の認知度の高まりに伴い、平成 28 年度は、平成 27 年度を大きく上回る

利用実績となりました。

ぶろぼの福祉ビルの完成に合わせて開所した「ぶろぼのスコラ新大宮校」も、定員 10 名のところ、

年度末では、登録者数 9 名に至っており、「この時期にすべきことがある」という利用者や保護者の方々の目線に沿った取り組みの成果を改めて確認しています。

放課後等デイサービス事業としてのカウントは、3127 カウント（前年比 157%）、収益は、2,112 万円（前年比 139.8%）という結果でした。

ワークグループの取り組み

事業や事業所の取り組みを横断的に捉え、牽引していく組織として、「ワークグループ」を編成し活動を展開しました。大きくは、「事業改善委員会」、「研究開発委員会」の二区分とし、それぞれを中堅職員が統括し、各委員会に 5 つのワークグループを設け、若手職員をグループリーダーに抜擢、中堅が補佐する体制として、目標を掲げて取り組みました。

「事業改善委員会」：利用者法人イベント WG、安全衛生委員会 WG、支援機関連携 WG、奈良クラブ応援プロジェクト WG、職員採用検討 WG

「研究開発委員会」：訓練開発 WG、広報宣伝検討 WG、研修検討 WG、先進事例検討・働き方検討 WG、マテリアルチーム

従来、漫然としていた活動も目標の明確化が図れたこと、問題意識が芽生えたこと、思考するステージが出来たこと等により、次につながる取り組みが生まれ始めています。

2 設備投資の状況

当会計年度において実施いたしました設備投資の総額は、463 百万円であります。これは主に、ぷろぼの福祉ビルの建築投資に該当します。

3 資金調達の状況

当法人は、運転資金に必要な資金は自己資金の充当にて対応しておりましたが、平成 28 年度は、ぷろぼの福祉ビルの建築にあたり、次の機関からの借入により調達を行いました。

- ◆ 独立行政法人・福祉医療機構からの借入（長期借入金）204 百万円
- ◆ 特定非営利活動法人ぷろぼのからの借入（長期借入金）71 百万円

4 対処すべき課題

少子高齢化による労働人口の減少が進行する中、労働力の確保は、喫緊の課題であり、国が掲げる「一億総活躍社会の実現」からも伺い知れるよう、社会的弱者の活躍がポイントとなります。当法人が事業の対象としている「障がいのある方」もその対象の一つです。

当法人の理念である「障がい福祉サービス事業を基軸として、誰もが多様な生き方、働き方ができる社会をつくる」ことを踏まえ、「障がいのある方」をこれからの日本にとってかけがえのない存在にすることが当法人の最大

のミッションと捉えています。

このミッションを遂行するためには、事業の存続を図る確固たる基盤の構築と展開、ゆるぎない事業の中核となる人材育成、組織と管理体制の強化が重要な課題であると考えています。

また、社会福祉法人としての成すべき公益活動を見極め、新たな事業領域との相乗効果により、持続可能な事業展開を図ることも肝要と捉えています。

1. 事業の存続を図る確固たる基盤の構築と展開

当法人の根幹を成す「就労移行支援事業」は、奈良県下を基盤とした体制から、奈良県外への展開が急務であると考えています。需要を鑑み、対象は、京都府南部と三重県西部の2拠点を想定しています。

また、「就労継続支援事業」の運営基準の見直しに則り、今まで以上に確実に収益を上げうる体質への転換も急務であると考えています。

他の機関との連携も深めながら、方向付けを模索していきます。

2. 人材育成

職員の評価は、公平を基本としてきましたが、職域や環境を踏まえながら、相対評価する人事評価制度の導入が必要と考え、制度導入に向け検討を進めます。

法人の目標を達成するために部署の目標達成があり、その目標を達成するために個人の目標達成があるという関連性をもって、職員個々の活動を

自己と管理者が評価していくシステムを整えます。

また、個人のスキルアップを図るため、社内研修の内容の充実、外部研修への積極的参加、法人として推奨する資格取得促進等に費用を投下し、スキルに留まらず、人としての成長を促す取り組みを行って参ります。

3. 組織強化

部局毎による縦割り組織ではなく、事業所毎に統括する横断的に部局が関わる組織づくりを中心に進めていくことで機動性の発揮できる組織を構築します。

奈良県下で5拠点到拡がりがあること、将来奈良県外への展開もあることから、事業所或は地域毎に統括する組織が統制面からみてまとまりが得られることが狙いです。

4. 管理体制の強化

介護事業認証制度が導入されたことで、当該認証を取得することを目指し、管理体制の強化を図ります。認証制度で求められる事項は、概ね対応しているも、文書化の動きとしては課題があり、

統制が取られた内容となるよう、ワークグループの活動を深掘りさせながら、管理体制の強化に取り組んで参ります。

5. 公益活動から持続可能な事業への展開

社会福祉法人として、地域への社会福祉活動に積極的に取り組んで参ります。

例えば、すべての子供が将来に夢や希望を持って成長していける社会を実現することを念頭に、養護施設の若者を支援する事業や諸々の事情を背

景に就職困難・生活困窮となっている人に働く場を提供する事業等。社会的養護の状況にある方に対して、法人で長年培ってきたノウハウと資源を活用し、支援の手を差し伸べていきたいと考えています。

Ⅱ 福祉事業（就労訓練）

福祉事業部総括

◆概要

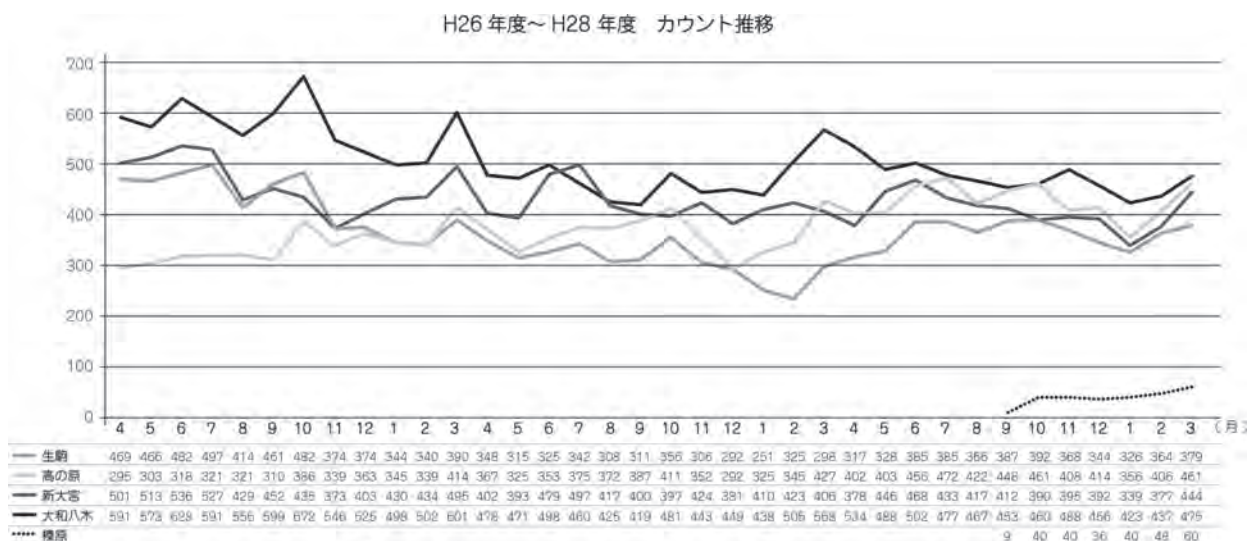
平成 28 年度は 7 月にぷろぼの福祉ビルが竣工し、新大宮で自立訓練が始まりました。自立訓練が就労移行と放課後等デイサービスをつなぐことで、放課後等デイサービス～自立訓練～就労移行～一般就職或は就労継続支援 (A・B 型) という流れが完成しました。これにより、今まで就労移行でやりきれなかった生活の部分を自立訓練が担い、就労移行はより就労訓練に特化することができるようになりました。

また、全事業所で統一しているこれまでの就労支援プログラムに加えて、各事業所のプログラムに特徴を出したものを開発・導入しました。高の原事業所では「ぶろぼの+(プラス)」として「+フォト(写真)」と「+ゲーム」を、榛原事業所では「合気道的からだづくり」を開発。「楽しむ力」を「働く力」につなげていく取り組みとなっています。

1 就労移行の利用状況

就労移行の利用状況は平成 27 年度は低迷していましたが、平成 28 年度は徐々に回復しました。(下図カウント推移グラフ参照) 県外(東大阪市、京都府南部、三重県等)への広報活動を積極的に展開したこと、事業所内の体制の見直し等が業績回復につながりました。日本全体では景気がわずかに上向き、バブル期以来の人手不足と言われており、企業の求人も増え、奈良県でも県外の特例子会社からの

求人があります。また、就労継続支援 A 型事業所が各地で増えています。これらの要因から就労移行を利用せずにそのまま就職される方も多く、逆にこれまで就職は難しいと考えていた方が就職してみようと思えるようになられて就労移行を利用されたりもしています。その為、見学に来られる方もこれまで以上に多様になってきています。



2 自立訓練の利用状況

自立訓練の利用状況はビルの関係でスタートが遅れましたが徐々に増えています。訓練生同士の仲が良く、いい雰囲気になっています。これまでは制度上、就労移行の2年間で就職できる見込みのある方しか受け入れできなかったのですが、自立訓練を開始したことで、短時間から利用を開始し、少しずつ生活リズムを整え、体力をつけていただくということが可能になりました。「

ぶろぼのは敷居が高い」、「優秀な人でないと行けない」、「パソコンができないと行けない」というイメージが変わってきたことを感じます。それが背景にあるのか最近は週1回1時間や、隔週で半日という非常に少ない時間の利用希望の方も増えています。そういう短時間の方がより一層利用しやすいように平成29年4月からは自立訓練で日中一時支援も開始します。

3 自立訓練と就労移行の連携

平成28年度の就職者数は、平成27年度と同等の24人の実績を上げることができましたが、一方では定着率に課題を残す結果となりました。今までも働きつづけるための取り組みを進めていましたが、これまで以上に取り組みを進めていくことが重要であることを改めて確認することができました。

「地域で自立した生活をする」、「働き続ける」ために必要となる「生活する力」。これは、就労移行の2年間で就労訓練と生活訓練の両方をしながら得ることは難しく、歯がゆい思いがありました。自立訓練

ができたことにより、生活訓練は自立訓練で、就労訓練は就労移行で、それぞれに必要な要素を盛り込んだカリキュラムを作ることが可能になりました。平成28年度は自立訓練の利用者の様子を見ながらカリキュラムを作りました。平成29年度は、自立訓練ですることと就労移行ですることを整理し、補い合いながら、「地域で自立した生活をする」ことができるよう支援をしていきたいと思います。障がいのある方が夢を持って人生を選べるように支援していきます。

テクノパークぶろぼの生駒

◆事業所概要

生駒市は、奈良県北西部に位置し、江戸時代に創建された生駒聖天・宝山寺の門前町として歴史を感じさせる地域です。現在は、大阪市・奈良市のベッドタウンとして知られ、また大阪都市圏中心部への通勤率は県内で最も高い市です。そんな生駒市にある生駒事業所は、生駒駅から山手に向かって徒歩5分の場所にあります。自然環境豊かな街並みと、ノスタルジックな商店街、近代的な百貨店が混在する地域で、いつもご協力くださる地域の方々とかかわりながら事業所運営をしています。

1 大切にしていること

当事業所のテーマは「地域の中で就労訓練をする」ことを大切にしています。地域で誰もが暮らし続ける仕組みを実現しようと、地域の他分野事業所が協力して、利用者さんと一緒にイベント運営・地域での職場実習などに参加しています。「人とのかかわりの中で働く、自分の考えを相手に伝える、人の話を聞く、声を掛け合う、助け合う、主体的に動く」など、利用者さんが事業所の訓練で学んだことを事業所の外

で実践することが大切です。利用者さんが訓練で気付きを得て、職員と一緒に振り返り、ご自身が達成したこと、ご自身に必要な配慮事項の整理、練習して改善したいこと・改善する優先順位など、利用者さんが主体的に見通しを持つ経験をしていただきます。利用者さんが、さまざまな協力を得ながらご自身の選択をもとに働き続けることを職員一同応援しています。

2 訓練プログラム

利用者さんの目標やご希望に合わせて、訓練をご提案させていただきます。働く力とは、生活を管理する力、人と上手(うま)くかかわりながら仕事をする力、仕事の技術力の三つを意識して取り組んでいます。

通常訓練

■ 基礎訓練

IT 基礎、いこまっする(筋トレ)、グループワーク、チャレンジプログラム(作業評価)、職場体験、ジルボーノ(調理プログラム)、ソーシャルスキルトレーニング

■ 応用訓練

IT 上級、街頭・イベントでのお茶販売、会計ワーク、プレゼンキング、就職準備講座



■ 定期実習

ぷろぼの内の働く場での実習の他に、あすのす図書館では閉館時に、返却図書を整理する作業、奈良教育大学ではアナログデータをデジタルデータに変換する事務作業をしています。

■ 地域での実習

生駒市役所、生駒商工会議所、高齢者介護施設、病院、薬局 調理補助など。近隣地域で、職場実習を体験し、利用者さん自身が働くイメージをもつことができました



■ 就職活動

秋以降毎月2～3回の大阪の合同面接会に積極的に参加しました。就職が決まる方、面接を体験して自己表現がうまくなるなど、利用者さんが本番に向けて自信をつけるきっかけになりました。

特別プログラム

■ 生駒バンドでのリサイクル活動

音楽好きの職員と、利用者さんでバンド活動を始めました。生駒リパティコンサート、生駒夢リサイクル、らら祭りのオープニングイベントに参加させていただき、楽しくなる音楽を地域の皆様にお届けすることができました。新しいことにチャレンジすること、メンバーとしての責任感、コミュニケーション力が上がるなど、参加されている利用者さんが自信をつけるプログラムとなっています。



■ 就職者の集いを月に1回実施

卒業生が、定期的集まり、近況を報告し合うなど、楽しみにしていただける時間を提供できるようになりました。

■ 地域活動支援センター・日中一時支援活動

利用者さんの居場所として日中活動を提供しています。
花壇管理活動は生駒市の「花と緑の景観まちづくりコンテスト」で審査員奨励賞をいただけることになりました。
なら風パソコン講座は地域の高齢者の方にパソコンを学ぶサロン活動を実施しました。
クリーンナップは、月に一度地域の清掃活動を実施しています。
卒業生へのお守り作成活動、就職される方に向けて手芸作品を作ってプレゼントしています。

3 成果と課題

成果としては、3つ挙げられます。アビリンピック（障がい者技能競技）大会への取り組みを積極的に実施することで、利用者さんがいきいきと訓練に取り組み始めました。夏に奈良大会が実施され、生駒事業所の移行利用者の方2名、スコラ生駒校1名が山形で実施された全国大会に出場されました。身近な仲間が全国大会で認められることで、訓練生どうしで応援しあう関係性が生まれたこと、自分もチャレンジしたいと前向きな高揚感を感じる訓練生が増えました。事業所全体に積極的な雰囲気があふれました。

就業支援事業部との連携や地域のつながりで、約40件の職場実習や企業見学に利用者さんが参加できました。平成27年度は年間3回程度だった合同面接会の参加でしたが、平成28年度は13回の合同面接会に参加しました。雇用につながる方や、一次面接に合格される方など、実際の面接経験を積み重ねて利用者さんが自己表現に主体的に取り組まれるようになりました。

地域の福祉施設とボッチャ競技大会を実施したり、花壇活動が生駒市に表彰されるなど、利用者さんとともに地域を豊かにする活動に参加できました。チームで活動することの楽しさや大切さを、利用者さんに体験していただきました。

課題としては、就職される方が増えたため定着支援の充実が必要となりました。就職者の集いを毎月実施することや、イベントにお誘いし、余暇支援の提供を充実しました。卒業生に楽しみにしていただいています。

また、利用者さんにおいて就労だけでなく生活を支援することが必要な方が多くなりました。訪問看護サービス、相談支援サービスなど他事業所との複数サービスで支えることを大切にしています。今後も継続して地域の社会資源と連携し、利用者さんの働く、働き続けることを支援する事業所としてサービスを充実してまいります。



テクノパークぶろぼの高の原

◆事業所概要

近鉄高の原駅から徒歩5分。サントウンアカデミーと同じ建物内にあります。近くには緑豊かな公園があり、事業所も木目の壁と温かみのあるじゅうたんの床で落ち着いた雰囲気の中で訓練を受けることができます。ワンフロアで職員スペースと訓練スペースに間仕切りがなく、職員・利用者の心の距離が程よく近いことも高の原事業所の特色です。



1 大切にしていること

当事業所のテーマは「はたらくをともに えがく」です。仕事の技術を身につける訓練はもちろん、自分のできることの再発見、人との関わり方、社会で自立するための心構えという「働きつづける」ために必要なことを総合的に習得できるように取り組んでいます。

訓練内容も事業所内に留まらず、地域社会への参加の機会や余暇充実のためのイベントを大切に、自分の出来そうなことから始め、様々

な体験や経験を積み重ねていくことで、一人ひとりの「はたらく」を支援しています。

また平成28年7月から、利用者の多様性を尊重した就労支援の新しいカタチ「ぶろぼのプラス」を開始。このような高の原事業所独自の訓練プログラムも含め、多角的に就労支援に取り組んでいます。

2 訓練プログラム

利用者本人の気持ちを大切にしながら、職員とともに支援計画に沿って訓練内容を選んで取り組んでいきます。

通常訓練

■ 就職準備性を整えるための基礎訓練

IT 基礎訓練（汎用性の高い Word・Excel 等のオフィスソフト等の訓練）

作業系訓練（ピッキング、商品製作、PC 再生部門の消耗品製作等）

社会人スキル・ビジネスマナー・コミュニケーションスキル・グループワーク

■ 応用訓練（基礎訓練を習得後、本人の希望に合わせて専門性の高い技術習得を支援）

WEB コーディング、イラストレーター・フォトショップ・事務訓練、会計入力、簿記

■ 職業能力評価（就労に向けた自己整理：作業適正を中～長期的に評価）

チャレンジプログラム

■ 就職活動の支援

就職活動にかかる書類作成・面接練習・法人内実習・企業見学・企業実習・各種セミナー・面接会の参加

就労支援の新しいカタチ「ぷろぼのプラス」

「楽しむ力を働く力に」のコンセプトとした就労支援の訓練プログラムです。

「楽しみ」を就労支援の手段として、以下の段階を意識しながら取り組みました。

1. 個人の興味から 就労意欲・自己肯定感の育成
2. 関連する 関連する作業や技術の取得・チームでのグループワーク
3. チームとしての地域社会への参加 社会性の育成
⇒「働き続ける」のための就職準備性を調える

■ + GAME アナログゲームをテーマにした就労訓練

1. WEB 講義による自己整理・社会性・対応力の育成

アナログゲームによる自己整理のための講義。東京在住の就労支援・療育の専門家であるアナログゲーム療育アドバイザー松本太一氏とWEB(テレビ電話)で事業所とつなぎ、各個人の潜在している課題や特性を、通常作業とは別角度から捉え整理します。

またゲームによる効果はコミュニケーションスキルの向上のみならず、「ルールを守りながら、自分の目的を達成する」という条件下で「予測不能な状態になる」ため、社会性や対応力についても個人の特性が浮き彫りになり、それを整理することで育成につながります。



2. ゲーム制作による作業技術の習得・製品販売による社会参加

自分たちでゲームを制作することで、イラストレーター等の技術・印刷データ入稿・マニュアル作成・チラシのデザイン・レイアウト・箱詰め・ピッキング・検品等を作業チームとして取り組み、通常訓練の実践の場として技術が習得できます。

またその製品を来場規模 5000 名のゲームマーケットに平成 28 年 3 月に出展。販売・接客・会計・在庫管理と共に、「自分たちの作品」が製品化されることで自己肯定感が生まれ、社会参加の場としての大きな経験につながりました。

■ + PHOTO

1. 余暇活動の充実としてのカメラ講座

働き続けるために重要な余暇の形成や充実を目的としたカメラ講座。奈良県在住のプロカメラマンである都甲ユウタ氏による一眼レフを使った「写真で表現する」ための講座です。社会との関わりが希薄で人間関係が苦手であったり、自分の価値観・世界観で物事を見て判断する傾向にある受講生に対して、「写真撮影」という余暇活動の充実により就労意欲や自己肯定感につなげます。



2. 自己表現としてのカメラ講座・展示会による社会参加

講師である都甲氏からは、記録としての撮影技法のみならず、自己表現としての撮影をテーマとした講座により、受動的だったメンバーが自分の作品を発信し、積極性・自主性が垣間見えました。また受講したメンバーの作品展示会を平成 29 年 3 月ぶろぼの福祉ビルで開催。チームによる企画・準備・設営・運営により、多くの人とのふれあいの中で、表情が豊かになり、社交性の育成や、作品に対する社会からの評価から自己肯定感の育成につながりました。

独自の取り組み

■ 地域に根差したグループワーク

ココットプチマーケット（商品販売）・自治会活動（夏祭り・広報配布）
スcolaパソコン教室（障がいのある高校生対象）

■ 人間性の回復をめざした訓練

青空トレーニング（季節を感じる活動・創作活動）・体力づくりトレーニング
奈良クラブ選手による心構えトレーニング

3 成果と課題

平成 28 年度は 7 月に開始した新しい試みである「ぶろぼのプラス」が、展示会の開催やオリジナルの商品製作など、事業として想定以上の成果を収めることができ、その成果を訓練生に分ち合い、大きな経験や自信として還元できたと感じています。また従来から取り組んでいる訓練の個別対応や面談による支援も含め、

訓練生の『こころ』に寄り添う支援を引き続き手厚く行えたように感じています。

平成 29 年度はこうした成果を高の原事業所にとどまることなく、法人全体に波及し訓練生に還元できるように取り組んでいきたいと考えています。

テクノパークぶろぼの新大宮

◆事業所概要

近鉄新大宮駅から徒歩 5 分、JR 奈良駅から徒歩 15 分の場所にあります。平成 28 年 7 月に事業所を引越し、現在はぶろぼの福祉ビル内で事業を行っています。

利用者さんには若い方やお仕事の実験がない方も多く、「働くこと」をイメージしづらいことがあります。「仕事」「働く」とはどういうことなのか感じていただけるよう、できるだけ職場に近い形で訓練を行っています。



1 大切にしていること

仕事を含めて利用者さんがこれからどう暮らしていくか、どんな生活を送りたいかを一緒に考え、実現に近づけていくことを大切にしています。生活するうえで仕事は大きな意味を持ちます。働くことで金銭だけでなく人とのつながりや達成感、自信を得ることができます。そのため「就職すること」だけでなく「働き続けること」も目標に、仕事の技術以外の部分も大切にしています。

あいさつ、お礼、謝罪、定時出勤、話を聞く姿勢・態度、言葉遣いなど、どの職場でも必要になることがたくさんあります。働き続けるためには、技術だけでなく挨拶・定時出勤などの習慣や、ビジネスマナーや社会のルールを守っ

てよい人間関係を築いていくことが大切であることをお伝えし、「職場では教えてくれないけれど求められること」を学んでいただけるようにしています。

また、「働きたいけれど何ができるかわからない」という方には、自分にできる仕事の整理や、働く条件、何のために働くのかといったことも一緒に考えていきます。「やったことがないからできない・やらない」と「やってみた結果できなかったからやらない」では大きな差があります。苦手なことでもチャレンジしていろいろな経験をし、自分に何ができるかを知ることによって将来について具体的に考える力になればと考えています。

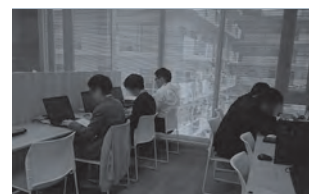
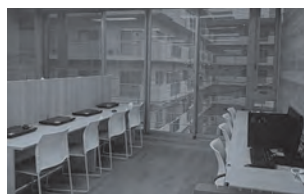
2 訓練プログラム

利用者さんのニーズや障がい特性に合わせて、相談しながらその方だけのカリキュラムを組んでいきます。ご本人の状況に合わせて柔軟に対応しています。

通常訓練

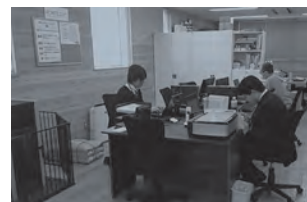
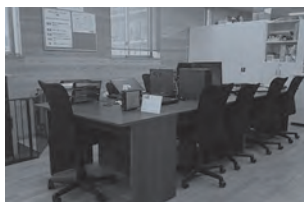
■ 基礎訓練

IT 基礎（パソコンの基礎知識・Word・Excel）
ネジ組立、LaQ 組立



■ 事務系応用訓練

IT 応用（HTML、CSS、Photoshop、Illustrator）
会計ワークプログラム、一般事務ワークプログラム



■ 作業系応用訓練

ピッキング、清掃、クッション材制作、
レターパック台紙制作、ブックマーカー製作、
サイ◇コロブローチ製作



■ 講座等

ビジネスマナー、アサーション、
社会人基礎講座、面接準備講座、面接練習

■ グループワーク

料理、利用者ミーティング（月 1 回テーマについて話し合い、発表）

■ アセスメント

チャレンジプログラム

■ 1 ヶ月の振り返り

月末にその月の振り返りをしています。振り返りの後は「ちゅらライフ」を作成して発表します。「将来の夢」「住んでみたいところ」「尊敬している人」など、毎回変わる 3 つのテーマについて画用紙に書いていただきます。一人ひとり発表していただくことで、お互いの理解やモチベーションを高めることにつながります。

特別プログラム

■ ゼミ

新大宮事業所独自のグループワークプログラムです。通常訓練では指示された内容に個人で取り組むのに対し、ゼミではグループで自由に考え、試行錯誤しながら自分たちで一つのものを上げていきます。冊子制作、イベント企画・運営、CM 制作などの大枠は決まっていますが、どんな内容にするかは自由に話し合って決めます。3 ヶ月程度の期間でスケジュールを組み、最後の発表に間に合うよう協

力して作業を進めます。役割分担、意見交換、進捗管理など人と協力することが重要なプログラムで、チームで仕事をする練習になります。

期限に間に合いそうになかったり、意見がぶつかったりすることもありますが、困難を乗り越えて完成させた作品はとても素晴らしいものばかりです。発表の時には大きな達成感が得られ、毎回笑顔にあふれています。

■ 当番

事業所内の仕事をシフト制で担当していただいています。朝礼当番、休憩準備当番、買出しなどがあります。責任を持って仕事に取り組むことや、協力して仕事を経験していただくのが目的です。用事で当番に入れない場合には、誰かに仕事を

頼む練習にもなります。急遽当番の方が不在になったときは、他の方がフォローしています。困った状況に気づき、自分にできる範囲で手伝う習慣が身につきます。

■ イベント

仕事だけでなくいろいろな体験をして楽しんでいただくことや、卒業しても気軽に遊びに来られる事業所を目指して様々なイベントを開催しています。夕べの集い（夕食会）、初詣、お花見、BBQ、夏祭り、

燈花会、ハロウィン、クリスマス、奈良クラブ応援プロジェクト、カラオケ、映画鑑賞、忘年会などがあり、季節のイベントも大切にしています。

■ 地域貢献

月2回ボランティアで花壇の手入れやゴミ拾いをする「さわやかクリーン奈良」の活動を行っています。

3 成果と課題

成果

ぶろぼの福祉ビルに引っ越し、木に囲まれた広々とした空間で落ち着いて訓練ができるようになりました。引越しと同時に自立訓練を行うアースカラーズぶろぼの新大宮が開所し、働く前に身に付けていただきたいことを訓練する場と、職場を想定した訓練をする場が分かれました。その結果、就労移行訓練ではより仕事に特化した訓練ができるようになっていきます。オフィスを想定した仕事では利用者さんに事業所内業務を一部お任せしたり、作業系訓練では共同で一つの仕事に取り組んでいただいたりしています。以前よりも利用者さんが主体的に行動

する場面が増えたように感じています。

平成27年度から引き続き行っているゼミや当番作業によって、仲間意識と共に自分にできることを考える、人に頼む、任せる、責任感を持つ、といった力が高まっています。さらに平成28年度は、利用者さんが新規利用の方や体験利用の方に対して掃除の仕方やイベントの説明を自主的に行っている場面がよくみられました。休日イベントも利用者さん同士で誘い合って参加されることもあり、自分と周囲の人、仲間という意識がいつそう強くなっています。

課題と改善について

引っ越しによって事業所の雰囲気が変わり良い環境で訓練ができるようになりました。しかしながら、訓練ということでどうしても緊張感が薄れてしまったり、職場の雰囲気が感じにくくなってしまったりするときもあります。また、今取り組んでいる訓練が仕事にどう役に立つのか、見通しが持ちづらいこともありました。今後は、IT センター奈良と同じビルになり働く場がより身近に感じられるようになったことを活かし、職場実習の実施をさらに積極的

に行っていきます。また外部企業への職場体験・職場実習の機会も増やしていきたいと考えています。実際の仕事を経験して見えてきた得意な部分や課題については、訓練で集中的に取り組めるよう既存のプログラムを洗練していくとともに、達成目標や就職までの見通しを具体的にイメージできるよう、利用者さんによりわかりやすくフィードバックする体制を整えていきます。

テクノパークぶろぼの大和八木

◆事業所概要

大和八木事業所は、近鉄大和八木駅から徒歩7分、八木西口駅から徒歩3分のかしはらビルの6階にあります。事業所からは、大和三山が、遠くには二上山が見えるなど、見晴らしが最高です。近所には今井町やおふさ観音、耳成山などの観光スポットや自然もあり、ゆったりした環境です。

1 大切にしていること

大和八木事業所では、「チームでの動きを大切にし、思いやりを持って働けるようになること」が大切と考えています。困っている人がいれば「声をかける」「助け合う」など訓練生同士が周囲の状況を見て気づいて動けるようになることで、事業所の雰囲気も良くなります。メンバー同士の結束力も高まります。

そして対人関係を良好に保てる力を身につけることが就労し続ける力に結びついていくと考えています。

また、中南和という地域の拠点として、ITセンター榛原と訓練を共同で実施するなど、地域における法人内の連携も八木事業所の特色です。

2 訓練プログラム

トレーニング期

■ パソコン訓練

パソコンの基本操作（Word・Excel 基礎）、
P 検、パソコン応用訓練（word、Excel、Photoshop、Illustrator、HTML）

■ 手作業トレーニング（グループ作業）

ブックマーカー製造、ネジ組立・分解、ネジ封入

■ アセスメント・自己整理プログラム

チャレンジプログラム

■ コミュニケーション講座

ビジネスマナー講座



■ グループワーク

調理、お助けワーク、ノープロ（即興演劇・自己表現）

チャレンジ期

■ 面接練習 & ジョブガイダンス

■ 施設外就労（イベント 21 様にて）

■ IT センター大和八木実習

事務実習・作業実習、農作業

マッチング期

■ 企業実習、就職活動（ハローワーク同行）

特別プログラム

■ グループワーク

大和八木事業所では、「チームでの動きを大切にし、思いやりを持って働けるようになること」を普段の訓練から実践してほしいということで、「グループワーク調理」「お助けワーク」「ノープロ」の3つのグループワークのいずれかに参加していただいています。

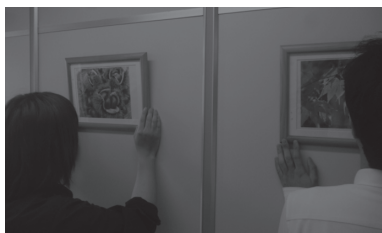
「グループワーク調理」では、1週間に1回利用者全員分のお味噌汁を作ります。「お味噌汁」という同じメニューを繰り返し作ることで、手順を覚え、先の見通しを自分で持つことができるように設定しています。それぞれが声を掛け合って動き、作業を分担することを練習します。必ずおいしく仕上げるのが目的ではなく、結果や過程を振り返り、同じ失敗を繰り返さないためにみんなで対策を考えることが大切です。

「お助けワーク」では、事業所の困りごと・依頼を受けて、グループで活動をしています。例えば事業所の備品のチェック・発注、普段行き渡らない箇所の掃除、事業所の模様替えなどです。依頼に対して1つずつ協力してやり遂げることで、仕事にやりがいを感じる経験を積み、他者と協力する力を付けることを目指しています。

「ノープロ」では、「インプロ（即興劇）」やゲームを取り入れ、自己表現や他者との関係を学びます。ルールは、「決して相手を否定しないこと」「素直に自分の気持ちを表現すること」です。身振り手振りで表現したり、ジェスチャー



をしたり、とっさの振りに対応することになるため、最初はほとんどの方に恥ずかしさ・ぎこちなさが見られますが、回を重ねるうちに生き生きと自分を表現するようになります。



施設外就労

■ 株式会社イベント 21 様

八木事業所では、株式会社イベント 21 様と平成 27 年より実習の連携を開始しました。毎日職員 1 名と実習生 3～5 名が交替で作業に従事しており、現在では、働くための実践的な力を付ける場として、また企業就労へのステップとして大きな役割を担っています。

実習現場ではイベント 21 社員さんと密に連携をとることで、何か問題が生じればその都度相談し、職場環境・業務内容の改善を協力して行ってきました。ミスはほとんどなく、確実に丁寧な作業を行うことで、実習生の作業には大きな信頼を寄せていただいています。

現在行っている主な作業は、返却されたレンタル商品のメンテナンス作業です。その他に、発送伝票の作成や発送商品の準備作業、運送会社への対応なども行います。実際の仕事を任せられることは大きな責任もかかっていますが、緊張感を持って作業を行うことで実習生は精神面を大きく鍛えられています。

また、作業には大きな商品・重い商品も含まれており、実習生同士の協力は欠かせません。全員が声掛けを心がけ、安全かつ速やかに作業する姿勢を身につけることで、互いに協力して作業することで相手の気持ちを考える力を養っていきます。効率よく動くにはどうしたらよいかを考え、改善点があれば提案するなど、一人一人が真剣に作業に取り掛かっており、企業就労に向けた力を確実につけていきます。

今後もイベント 21 様との連携を深め、訓練生が実践的な力を身につけ、企業就労にステップアップするための場として、実習生とともに成長することを目指します。



3 成果と課題

成果

平成 28 年度の大きな成果として、内部実習の充実と企業実習の開拓により、平成 27 年度より就職者が増えたことが言えます。

これらの背景として、IT センター大和八木への事務実習参加者が増えたこと、手作業においてもこれまで訓練と実習を合同でしていたところを分け、実習と位置付けての参加に変更したことも大きかったと思われます。また基礎訓練を終えた方、或いは基礎訓練中の方に積極的に施設外就労に参加していただき、実践的な場で力を付けることを意識してきました。また、企業実習についても、連携していただける地域の企業が増えました。積極的・定期的な実習が増え、その結果として就職の機会が増大したといえます。

さらに、八木事業所と榛原事業所で「チャレ

ンジプログラム」の訓練を共同で実施するなど、中南和地域における法人内の連携も強めてきました。八木事業所からは、榛原事業所の「農作業」「加工作業」の訓練に参加しています。結果として、中南和という地域で利用者に多様な仕事及び訓練の機会を提供することができるようになっていきます。

年度を通じて、事業所内の「トレーニング期訓練」から「チャレンジ期の内部実習・施設外就労」、そしてマッチング期の「企業実習や雇用前提実習」といった流れが明確になってきました。今後も中南和地域の地域連携といった強みを生かし、利用者の「就職したい」「長く続けられる仕事がしたい」という想いの実現と一緒に目指します。

課題と改善について

平成 28 年度は就職者 10 名を目標とし、企業就労 6 名、A 型就労 4 名の計 10 名の方が就職に至りました。企業就労 10 名を達成できなかったことは課題とも言えます。平成 29 年度には 2 年目を迎える方も多く、企業就労 10 名を目標に取り組めます。具体的には、積極的に地域の企業への外部実習・雇用前提の実習を提供します。また、就労上の課題についても、施設の中だけで取り組むのではなく、内部実習・施設外就労など実践的な場に環境を変えることも積極的に行っていきます。これまでの事業所の経験から、環境を変え、新たに挑戦する中で、利

用者自身で多くの気づきや経験を積むことができ、就労に向けて大きく成長することができると思っています。

体調・体力に不安が強い方、生活面の力をまずつける方が良い方の中には、利用日数・時間が利用上の課題になる方がいらっしゃいます。生活・体調管理の力をつけるためのステップとして、自立訓練事業所の設立を平成 29 年度中に行う予定です。地域の支援機関と連携し、様々なステップの方が八木事業所につながり、就労に向けて目指していける場になるように取り組んでまいります。

IT センター 榛原

◆事業所概要

近鉄榛原駅から徒歩 1 分にあるマンションの 1 階に IT センター 榛原があります。

事業所周辺は、多くの木々に囲まれ豊かな自然を身近に感じることができます。その環境を事業所内にも取り入れ、訓練で使用する机は、東吉野村産の杉を伐採、製材、加工までを自分たちで行い、木のぬくもりを存分に生かした事業所づくりを進めています。

また天井も高く開放感があり、訓練生がのびのびと作業や訓練に取り組める空間となっています。



1 大切にしていること

訓練生、一人ひとりの想いや特性に合わせたプログラムを構成し訓練を通じ社会に必要な基本的な事を学んで頂きながら、御家族と連携をとりながら将来像を共有し「働き続けること」に重点を おき訓練に取り組んでいます。ま

た、地域とのかかわりを大切に他の福祉施設や関係機関と連携を強め地域に根ざしたイベント、行事に参加し様々な経験を積むことで人間性を育む支援をしています。

2 訓練プログラム

通常訓練

■ IT 訓練

パソコンの基本操作（Word・Excel 基礎）、パソコンの応用訓練（word・Excel、ビジネス実践問題）

■ アセスメント・自己整理プログラム

チャレンジプログラム（八木事業所との合同）

■ ビジネスマナー・コミュニケーションスキル

■ 農作業

東吉野村でのよもぎ栽培

■ 加工作業

よもぎ商品製造・加工、外部受託作業

■ グループワーク

合気道的からだづくり、リノベーション、調理

■ 30 分トレーニング

デッサン、プレゼン、表情トレーニング

特別プログラム

■ 合気道的からだづくり

合気道は、勝ち負けを決めたり、他人と競い合うことを目的とするのではなく、自然と一体になった無理のない動きを身につけ、生きる力を高めるための武道です。

榛原事業所では、この合気道に含まれる古武術のからだの使い方や呼吸法、礼儀作法を取り入れて「働き続けられるからだづくり」を目指した訓練を行っています。

働き続けるために体力をつけたい、という悩みをお持ちの方は多くいらっしゃいます。合気道は、全身を連動させるからだのつかいかたを身につけ、「ねじれないからだ」をつくっていきます。この結果、負担のかからないからだの使い方や常に「正面」を意識することで、礼儀の基本を身につけることもできます。

また呼吸法では、おへその下にある臍下丹田というツボを意識した「深い呼吸」をゆっくりと行っています。現在ではこの要素だけを取り出した「マインドフルネス」が、国内外のさまざまな企業でも行われています。

このグループワークでは、全身をつかって深い呼吸をすることで、精神の安定や集中力の持続など、さまざまな効果が得られています。実際に「午前から続いていた理由のないイライラが、からだを動かすことによって少しずつ解消されていくのを感じました。特に呼吸の段でそれは顕著で、今後も気が高ぶった際は今日習ったことを応用していきたいです」という、利用者さんからの声をいただいています。



■ リノベーション

榛原事業所の室内は、天井が高く、開放感がある一方、無機質な雰囲気がありました。特にエントランスは白い壁しかなく殺風景なため、利用者さんをはじめお客様を、気持ちよくお迎えできないのではとの想いから、職員間で意見を募り、利用者さんの力で改装が始められました。

テーマは「木のぬくもり」で、東吉野村で管理した利用者さんも制作が進むにつれ自信をつけ、積極的に参加してくれるようになりました。完成時には

ている「森」をイメージしました。杉の葉をパターン化した図案を壁面に描き、その上に着色した角材をランダムに配置しました。エントランスから続くITルームは、角材を均等に貼りつけた壁に、アクセントとして時計を設置し、落ち着きのある空間に仕上げました。木材は全て東吉野村の杉を使用し、約9カ月で完成に至りました。はじめは戸惑っていた達成感に包まれ、自然に笑顔がこぼれていました。

その他の取り組み

■ イベント、映画会

月に一度、第3土曜日に映画鑑賞会（HAIBARA CINEMA）を行っています。利用者の方々から観たい映画のリクエストを事前に募り、翌月の映画を決定。準備、片付けを協力しながら行うことで団結感も生まれ、人気のイベントとなっています。

■ 職員向け合気道

利用者向けに行っている合気道のワークを、Fellow Ship Center で職員向けにも行いました。股関節と肩甲骨を中心にからだを動かし、深い呼吸法をすることで心身をリフレッシュ。また伝統的なからだの使い方を体験することで、普段の生活で形作られた「ゆがみ」を意識してもらえたと思います。

3 成果と課題

ぶろぼの全事業所対抗で決まったテーマをもとに、プレゼンテーションを行い総合力を競うプレゼン☆キングに初出場で2つの賞を受賞しました。

人と協力して1つの目標に向かって取り組むことが苦手な人、人前で話すのが苦手な人、大勢の人がいる場所が苦手な人達でチームを組みました。外からサポートし協力してくれた仲間のお陰で本番では練習の成果を存分に発揮することが出来ました。ある訓練生は、声を掛け合い訓練終了後に残って練習する姿を見かけると利用開始時は、下を向いてしか挨拶が出来なかった姿が嘘のように成長した姿がそこにはありました。また今回、応援にまわった訓練生の

一人は、発表している訓練生をみて「あのステージに来年は私が立つように頑張る」と良い刺激を受ける機会にもなり、チームとして取り組むことで苦労や努力を重ね、達成感を共有することができた取り組みになりました。

一方、課題は、多機能型の事業所で「訓練する場」「働く場」が同じ作業を行う事がありなかなかピリッとした空気感を作りきれなかった1年だったと考えています。見学に来られた方は緊張感があると感じておられますが、訓練を重ねると徐々に緊張感が薄れてしまうらしく平成29年度からは、ステップアップできる環境を作りより実際の会社のような空気感のある事業所を作っていきたいと思っています。

アースカースぶろぼの新大宮

◆事業所概要

近鉄新大宮駅から徒歩5分、JR奈良駅から徒歩15分の場所にあります。平成27年7月に完成したぶろぼの福祉ビルで、8月から開始した新しい事業です。木の香り漂うやさしい空間になっています。自立訓練ではフロアを土足禁止にして、木の床に座ったり、バランスボール等での運動ができるようにしています。就労移行の2年間という限られた期間内ではやりきれなかった日常生活をする力を中心に生活リズムを整えたり、自己肯定感を高めたり、就職を目指したベースとなる訓練をしています。



1 大切にしていること

ぶろぼの就労移行を利用される方の中には「自己評価の低い方」「社会人としての基本的なことや生活上の基礎的なことをご存じない方」「経験が少ない方」が多くいらっしゃいます。人生で「働く」ということは非常に大きな要素ですが、「生活する」というベースの部分をしっかりと作っておくことが大切です。日常生活で必要なことをいっぱい知って経験するということをしていただきたいと思います。

初めてのことをするのは勇気がいります。失敗するのは辛いものです。できるだけハードルを低くして、少しずつできることを増やしてい

けるようにプログラムを考えています。「できた」という経験が次のチャレンジや自信につながります。いっぱい経験することで自分の得意なこと、やりたいことが見えてきます。「できた」「やってみたらできた」「うまくいなくても大丈夫」という体験を重ねて自己肯定感やチャレンジ精神を育み、自分の夢・人生・未来を見つけていただきたいと思います。



2 訓練プログラム

通常訓練

■ パソコン

タイピング：入力が速く正確にできるようになることで自信につながります。

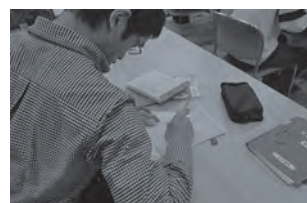
Word、Excel：会社でよく使うソフトの使い方を自分のペースで学びます。

スクラッチ：プログラミングの基礎が楽しみながら学べます。思った通りに動かなかった時にどこが間違っているのかを見つけて訂正することで、間違ってもそこを変えればいいだけだという経験になります。



■ 公文式

70～100点取れるくらいの問題をしていただくことでマルがいっぱいつくので自信につながります。基礎学力が身につく、自信になります。続けていくことで、やった課題(プリント)が目に見えて積み上がっていくので達成感があります。



■ 生活力

金銭管理、洗濯、アイロン、掃除、食器洗い、整理整頓等日常生活をする上で知っておいて欲しいことを実習形式で練習します。



■ 料理

レトルト食品・インスタント食品・冷凍食品の調理方法、包丁の使い方、焼く・煮る・炒める、献立の立て方等を実際に調理をしながら学びます。



■ 社会人基礎

ビジネスマナー、公共交通機関の使い方、ニュース(時事、社会情勢)、予定の立て方等についてロールプレイをしたり、実習したりしながら学びます。



■ コミュニケーション

人の話を聞く、自分の気持ちを相手に伝える、お願いする、断る、雑談する等をロールプレイで練習します。



■ 体力作り

バランスボールを使ったり、手を使ったゲームをしたりしながら筋力を鍛えたり、体の使い方を練習したりします。



3 成果と課題

成果

平成 28 年 8 月から徐々に利用者数を増やしてきました。その中には、ひきこもっていたり、退院後体力に自信がない等で週 1 回半日利用という、これまで移行では受けられなかった方を受け入れることができるようになりました。1 コマの利用人数が 3 ～ 8 名と少人数の為、その

時のメンバーに合わせてきめ細やかに対応しながらプログラムを実施してきました。楽しく、和気あいあいとした雰囲気の中で一体感が感じられます。

また、自立で自信をつけて移行に移られた方も 1 名ありました。

課題

事業開始半年が過ぎ、制度上原則 2 年以内の利用と考えた時に、残りの時間でどこまでできるのかとその後の進路について、見通しを立てていく必要があります。特に、生活リズムの整っていない方、体力のない方等週 1 回半日利用の方は訓練カリキュラムをいろいろ準備しても受けていただけるカリキュラムが非常に少ないという現状があります。それぞれの方の目標と着地点をどうするのか、本人・ご家族とよく話し合って決めていきたいと思っています。

平成 29 年度の養護学校からの新卒利用が 3 名と予想より少なく、養護学校卒業後は就職(一般・就労継続 A 型)か生活介護・就労継続 B 型というイメージがまだまだ強いと感じます。本人の人生を考えた時に社会に出る前の準備期間を少し長めにとって、たくさんの経験をしておくことがその後の人生を豊かにするということを言葉と実績で示していけるようにしていきたいと思っています。

Ⅲ 就労事業（働く場づくり）

IT センター奈良

◆事業所概要

IT センター奈良はソーシャルインクルージョンの理念から、「障がいがあり、働くことに配慮が必要」な方々に、健康で文化的な生活を実現する手段として仕事の間を創設しています。

就労移行支援事業で一定の訓練を終了し、職業準備性（仕事につくための力）の整った方が、福祉的な配慮を受けて働くことができる職場です。また就職前の実習生を受け入れて、実際の仕事をする中で、働くイメージをつくりあげるための支援もしています。

仕事を通じ、一人ひとりの心身の状況に配慮しながらも、その人が持つ可能性を引き出すことでキャリア形成や生きる力の向上、そして働きたい気持ちを何よりも大切にする職場を目指しています。

平成 28 年 7 月に木造のぷろぼの福祉ビルの完成に伴い「記帳、入力事業」「Web・DTP 制作、システム開発事業」の 2 事業は福祉ビル 2F へ移転、「3R 事業」は既存事業場所の面積拡大と各事業の職場改善が図られたほか、福祉ビル 1F では「食堂事業」が新たに開始されました。

福祉サービス事業所名

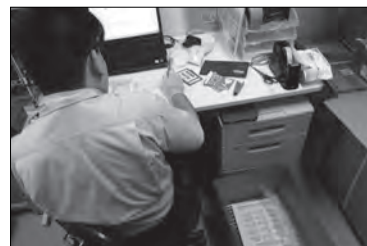
- ・就労継続支援 A 型事業：IP Factory ぷろぼの（19 名 平成 29 年 3 月末現在）
- ・就労継続支援 B 型事業：SC ファームぷろぼの（23 名 平成 29 年 3 月末現在）

1 福祉 3R センター PC・メディア再生・ロボティクス事業

使用済みの OA 機器を再活用し社会に貢献していく公共性と、障がいのある方が専門的な技術を習得することで就労を支援し、社会的自立を促すことを方針としています。パソコン再生作業などの実績や経験を増やし、ソーシャルビジネスとしても成長しています。

取り組み

平成 28 年度は、パソコン再生以外の商品取り扱いを計画し DVD ゲームなどソフト再生販売を開始しました。次年度に計画している VHS を DVD にダビングする委託業務の準備を行いました。また、パソコン搬入数を上げる為、データセキュリティルームを新設し企業様からのニーズに対応できるようになりました。



■ パソコン再生販売 パーツ再生販売

PC パーツの市場価値下落が止まらない為、業務縮小し所内の工程も一ヶ所に集め解体作業で得られるパーツに対応出来る範囲に集約しました。

パソコン本体の再生事業を拡張し大量搬入に対応出来るようにしました。本体販売は Windows10 への移行時期で入替案件が増えており売上を伸ばしています。また、データセキュリティルームを新設、入口は電子ロックや機械警備作業記録により PC 内の顧客情報はしっかり守られ、HDD 内情報は米国防省標準 DoD 方式で削除され商品に対して付加価値を増す事ができました。

株式会社アンカーネットワークサービス様大阪工場内で、パソコンやネットワーク機器の解体作業を始めました。解体したパソコンパーツを 3R センターで再生販売しています。今後の障がいがある方の働く機会を考え、さらなる連携に取り組んでいます。



■ メディア再生販売

リネットジャパン株式会社様と、アスラネット株式会社様にご協力頂き、廃棄されるゲームソフト・DVDを再生販売する事業をはじめました。メモリ等の再生で得た経験を元に障がいのある方が働きやすい工程を構築しヤフオクと Amazon にて販売しています。

■ ロボティクス事業

ソフトバンクグループ株式会社様より Pepper を 1 台導入、様々な角度から研究し人間の仕事をサポート出来るアプリ開発を進めました。平成 28 年度は、プレゼン用アプリ・受付案内アプリ・教育指導用アプリを開発し実際に受注案件を受け業務を行う事が出来ました。

平成 29 年度の開発は、あたくし組合様・奈良先端大学様・奈良教育大付属中学校様と協力し、事業所の訓練や面談などを行えるアプリ開発、企業への業務用アプリ開発を行い障がいのある方がロボットを使った新時代の仕事場を作ります。



■ CSV・CSR 活動

◆ PC 海外寄贈プロジェクト

貧困や格差によって教育・就労の機会に恵まれない人を支援する為、3R センターで再生したパソコンを発展途上国の学校へ寄贈するプロジェクトです。

8 月 21 日に第 2 回目、3 月 25 日に第 3 回目となる“パソコンリユース海外寄贈イベント”をふろほの福祉ビルにて開催しました。

このプロジェクトで連携している、NPO 法人 Class For Everyone の高濱様を迎え、小中高生とご家族の皆さん、奈良教育大付属中学校の先生や生徒の皆さんにご参加頂きました。 <http://class4every1.jp/>



第2回目は14台のノート型パソコンを再生し、パプアニューギニアへ寄贈。第3回目は6台のノート型パソコンを再生し、アフリカ ナミビア共和国へ寄贈しました。

今後も、奈良から海外に社会貢献する輪がますます広がるよう取組めます。



◆ オージス総研 再生パソコン「はじまるくん」寄贈プログラム

大阪ガスグループのオージス総研様が取組まれているパソコン寄贈プログラムに平成28年も参加、委託業務を行いました。

7月25日、株式会社アンカーネットワークサービス様協賛。再生パソコン15台を大阪大東市福祉施設に寄贈。

9月8日、大阪ガスグループ様協賛。全体で140台の内、再生パソコン44台を奈良県内の福祉施設に寄贈。

10月4日には、大阪ガスLPG様協賛。再生パソコン10台を社会福祉法人「大阪府障害者福祉事業団」に寄贈。

大阪ガス16カフェテリア様協賛。再生パソコン12台を奈良県内の児童養護施設に寄贈。それぞれ、贈呈式にて感謝状を頂戴しました。



平成29年度の取り組み

◆ スローガン「新しい時代に挑戦」

■ 活動目標

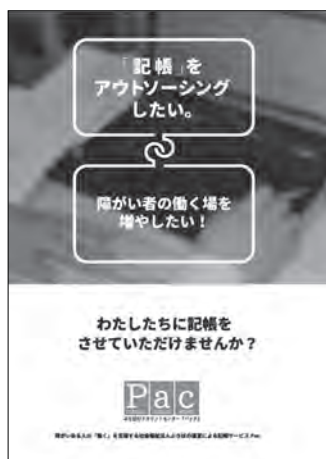
1. ロボティクス事業を確立する。
2. 就労収支、増収増益を目指す。
3. CSVと共にSDGsを意識した事業、持続可能な開発目標を進める。

2 ぷろぼのアカウントセンター(Pac) 記帳、アンケート・データ入力事業

全国の会計事務所様・個人事業主様より、領収書や通帳コピーなどの会計資料をお預かりし、会計ソフトへ会計データを入力する仕事をしています。ご契約していただいている会計事務所様は、大阪が中心ですが、石川、東京、神奈川の会計事務所様とも契約しており、全国を視野

に入れた事業展開を行っております。全国的にも珍しい会計入力を行う障がい者施設です。

また、会計入力を行うことで培った「入力が得意」というノウハウを活かして、アンケートなどの入力や集計業務を専門に行っている入力チームも活躍しています。

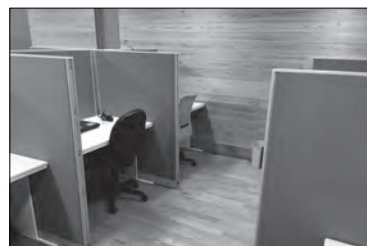
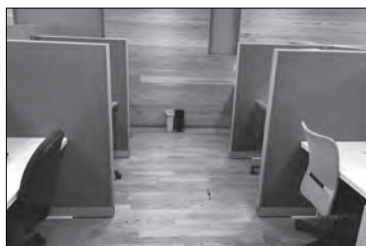


新ビルへの移転

平成 28 年夏、ぷろぼの福祉ビル（Fellowship Center）が完成しました。

これに伴い、ぷろぼのアカウントセンターは、

ぷろぼの福祉ビル 2 階へと移転しました。事務所面積が拡大し、より多い人員体制での業務が可能となりました。



会計事務所様との関係について

平成 28 年度も会計事務所様のパーティーに招待していただくことがあり、良好な関係が維持できております。ぷろぼのアカウントセンターを、ご理解していただいている証拠であると感じております。

契約している会計事務所様のご紹介によって、新たな会計事務所様の見学も増えており、ぷろぼのアカウントセンターの活動への理解も広がっております。

平成 28 年度まとめと、平成 29 年度に向けて

平成 28 年度、2 名の新スタッフが誕生（うち 1 名は初の女性スタッフ）し、さらに、1 名が就労継続 B 型職員から、就労継続 A 型職員となりました。

平成 27 年度から発足した入力チームは受注が増えており、県から入力業務を受注することもできました。

すでに 10 社を超えるお客様との契約しておりますが、今後の事業と雇用の拡大を考慮すると現状の顧客・受注数では足りません。

平成 29 年度は支援機関との連携活動に注力し、新規顧客の獲得を目指していきます。

3 Proide Web・DTP制作、システム開発事業

Web・DTP制作、システム開発事業を展開している部署名をProide（プロイド）と名乗っています。

Proideはぷろぼの理念にある「プライドのある自立を目指して、障がいのある方の就労をITで支援します。」に沿って、probono+prideを合わせた新しい言葉です。

主に奈良県下の官公庁・企業・福祉団体などから依頼を受けてホームページや、チラシ・リー

フレット・冊子などの印刷物の制作、システム開発をしています。

平成28年度はB型で働いていた方1名のA型雇用や、新規B型2名および、パート1名の採用があり12名※のスタッフと実習生(2名)で協力しながら日々の業務に取り組みました。

※総合職員2名、A型スタッフ6名、B型スタッフ3名、パート1名 平成29年3月31日現在

印刷物制作（DTP）事業

Adobe Illustrator, InDesignなどのソフトを用いて、名刺・チラシ・リーフレット・ポスター・冊子ほか、さまざまな印刷物のデザイン制作を行っています。

平成28年度は、外部の制作会社やデザイナーと連携し、印刷物を作る上で不可欠で、手間のかかる画像加工や地図作成などのお手伝いをする機会

がこれまで以上に増えました。さまざまな案件に関わることができ、スキルの向上につながっています。

画像加工では、画像の切り抜き、リサイズ、色味の調整等を行っています。地図作成では、Google Mapや手書きの地図をもとに、印刷できるデータを作成します。

画像切り抜きの例



マップ作成の例



ホームページデザイン・制作

お客様からの依頼に応じ、サイトのデザインから製作・サイト製作後の更新までを幅広く行っています。



デザイナーがサイトの色合い・装飾等の見た目を作成します。



デザインを基に、実際にPC・スマートフォンで見られるようにhtml・cssと呼ばれる言語でページを作成します。

平成28年度は27年度までに比べて、スマートフォンの普及を反映して、PC・スマートフォンのどちらからでも見やすいように制作する手法を取り入れる案件が増加しました。

また、社内で全てを制作するのではなく、外部デザイナーがデザインされたものを社内スタッフで仕上げるという形の案件も増加しました。

システム開発

外部のシステム制作会社様に協力していただき、ECサイトの構築・改修をメインに行っております。また、ホームページ内にこのような機能が欲しいというお客様の要望に応える、機能開発も行っております。

平成28年度は、イベントを登録可能なカレン

ダー表示機能やゲスト購入機能など、複雑な機能の開発をさせていただきました。また、パートナー企業と密に連絡を取り合うことによって、急なシステムエラーの調査・修正などにも、対応させていただきました。

4 大和農芸 農業事業

大和農芸の事業も2年目となりました。主な作業は、奈良県北東部にある大和高原で無農薬・無施肥による茶作りに取り組む健一自然農園様の三年番茶の製茶（12月から3月）及び三年番茶畑の管理（4月から10月）と茶の種拾い（11月）です。

大和高原は昼と夜の寒暖の差が大きく、早朝霧が立つこともしばしばという、おいしいお茶ができる条件が揃ったこの地域で、古くからお茶作りが盛んに行われてきました。ここで作られる三年番茶は近年、食養的志向やナチュラル志向の消費者の間で、急速に人気を伸ばしています。

三年番茶の製茶 12月から3月

三年番茶の製茶は、収穫した枝葉の選別と、枝葉の刻みを行います。

収穫した枝葉の選別については、スタッフが徐々に作業に熟練してきており、このことはお茶の精度向上、生産量増につながっています。

枝葉の刻みとは、三年を経た茶木の枝葉をチップパー機にかける仕事です。機械の扱いや点検作業を理解しているスタッフも増えてきており、安定した生産につながっています。



三年番茶の畑管理 4 月から 10 月

今期は 1.2 ヘクタールの管理業務を行いました。茶畑の草引きが主な業務です。ここで三年間伸びた茶木が三年番茶になるのです。

茶の樹より高く生い茂った笹は、のこぎり鎌で刈っていきます。笹は刈った後は尖ると危ないですし、作業場所も急な斜面なので、安全第一でゆっくりと作業しています。身体が動作をしっかりと覚えたら、いつの間にか手早くなるのでそれまではゆっくりと作業します。圃場によっては、へくそかずらの根っこをひたすら取っていく作業があり、地面に這いつくばって、ひも状の蔓をたどって根っこの塊を取り除いていきます。また別の圃場には、羊歯が茶の樹の上に生い茂っていて、根っこごと引き抜いていきます。



平成 28 年度に新規開拓した管理茶畑

三年番茶圃場について 2 反ほど管理圃場が増えました。各利用者の手が早くなっているので、今後も増加を見込んでいます。

平成 28 年度に新規開拓した 11 月の茶畑仕事

11 月は、茶の種拾いを行います。茶の種は、分量に合わせた歩合制なので売上が立ちやすい業務となります。



平成 28 年度に新規開拓した健一自然農園以外のクライアントについて

公共施設の草刈り業務を受託しました。作業日数は年間 3 日。
山添村グリーンティー工場より、工場清掃、茶畑草引き受託しました。作業日数は年間 15 日ほど。

自然の中で働くことの魅力

茶農芸には、感じる、(植物と) 過ごす、育てる、採る、利用するなど、多くの人の興味をひく要素があります。楽しみながら心と体を使い、健康を育んでいきます。その結果、ストレス軽減、意欲回復、認知機能の維持・向上、日常生活に必要な

能力の維持・向上、社会性の向上、生活の質の維持・向上など、様々な健康上の効果が期待できます。

日々、ぶろぼの農芸チームのメンバーが元気に遅しくなっているのを感じています。

■ 心身の健康

朝日が昇り、太陽とともに生きる、地球のうえで生きる、緑豊かな茶畑で動く。土をつくり、種を蒔き、育て、収穫し、食べ、保存する。一連の農芸活動の中には、私たちの暮らしに欠かせないさまざまな生活要素や運動機能が含まれています。また、うれしい、

きれい、懐かしい、悲しい、静まる、おいしい、よい香り、いい手ざわりなど、五感に訴えるものが多く含まれています。こうした農芸活動が持つ特性を、心や体のリハビリ、社会復帰、生きる力の回復などに役立てていきます。

■ 仕事の確保

健一自然農園様の三年番茶は、マクロビオティックの世界で注目されており、今後も生産量は増え続けます。放棄茶畑が増大していますので、茶畑の

確保は容易です、農芸チームの仕事は今後も増え続けますので障がいのある方の働く場の拡大につながります。

■ 自然環境の保全

日本の多くの茶園ではヨーロッパへの出荷が不可能なほど、大量の肥料農薬を散布しています。しかし健一自然農園様の茶畑では、肥料農薬の散布を行

いません。河川上流域の茶畑がこのようなになれば、山河の生き物たちはイキイキとし、川の水が流入する海的环境保護にも大きく貢献しています。

5 ぷろぼの食堂 Fellow Ship 店 飲食事業

平成28年7月に木造のぷろぼの福祉ビルが完成し、その1階がぷろぼの食堂としてオープンしました。ぷろぼの食堂は社員食堂で職員、訓練生などがランチを食べています。また食数は多めに作っていますので一般の方も来店して

いただいています。メニューは家庭的なおかずと、大和高原の水源地で作られた美味しいお米を精米してから炊飯、手作り味噌を基本とした定食で普通だけど、すごく上質なものを提供しています。

地域の人が交流できる場

◆ 5階でセミナー 1階で交流会

最上階の5階はセミナールームとして学習会、後援会、企画展、ワークショップなどにできるスペースがあり、その会合終了後にそのまま降りて食堂で交流会ができます。リーズナブルな予算で食べて飲んで語り合い、場合によっては生オケで歌ってもらったりできます、おかげさまでオープンからたくさん利用していただきました。



定食

◆昼食タイムは 11:30 ~ 14:00 定食またはカレーで 550 円

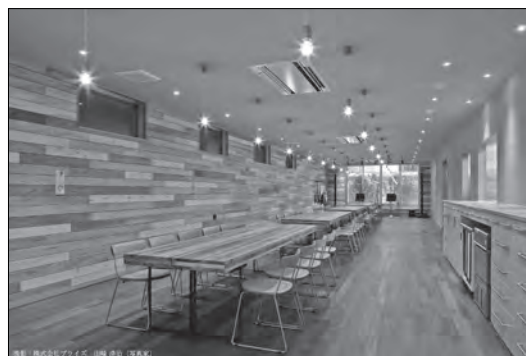
ご飯と味噌汁とお茶、水が美味しいと評判の大和高原産のお米を炊飯する前に精米してから炊いています。味噌汁は無農薬大豆を使った2年以上熟成させた味噌を使用して発酵の旨みが豊かです。お茶はぶろぼの農業チームが農業委託をうけて作業している健一自然農園の無農薬無施肥のお茶です。

おかずは日替わりで焼き魚、揚げない豚カツやから揚げ、ハンバーグなど家庭的な手間をかけ業務用の半製品は使わずできるだけ手作りで提供しています。定食のほかにはカレーもあり、お好きなほうを選んでいただけます。



店内

内装は赤見の塗り壁と12種類の奈良県産材を使った木の壁でできています、テーブルは建材に使われたCLT工法の10人掛けのもの、椅子は飛騨産業の圧縮杉でできた滑らかな窪みがあり背もたれのアール加減とともに座り心地が良いです。照明は優しい暖色のLEDライト、暖房はペレットストーブです。



木使い

ペレットストーブは木を碎いて圧縮した粒状のものを燃料にするストーブです。煙突の必要な薪ストーブは市街地では難しいのですが煙も出ず、灰も少ししかでません、木質バイオマス燃料を活

用しようと暖房に使っています。トレーと割りばしも奈良県産材の杉で作られていて気持ちよく使っていただいています。

厨房

障がいのある方が調理できるようシェフいらすといわれているスチームコンベクションオーブンを導入、焼き魚でもハンバーグでも入れるだけで自動調理ができます。素材の旨さが一番出る浄水

器を設置、ブラストチラーという急速冷蔵できるものや真空包装機があります。これらを工夫して使うことにより障がいのある方の働く場が広がります。

ライブ

デジタルミキサーや自然な音の BOSE スピーカー、豊富なマイクなどアコースティックライブに最高の機材、LED スポットライトなどが整っています。



夜営業

◆ 火曜日～金曜日 17:00～22:00

晩御飯でもお酒だけでも OK なお店になります、チャージはいりません。おにぎりと味噌汁のセットが 200 円、1 品が 300 円、ひじきやキンピラが 100 円とリーズナブルな価格で提供させていただいたします。

お酒もビールや焼酎もありますが、自慢は奈良の地酒を 40 種類以上置いています、ほとんどが日本酒の旨さがわかる生酒です（1 杯 300 円～500 円）。

あと店長が時々仕入れという名の釣りに行きます、その翌日は夜営業に高級魚が並びます。

集って食べて飲んで歌える 楽しい店を目指します。



IT センター大和八木

◆事業所概要

IT センター大和八木は平成 26 年 10 月に、中南和地域の仕事づくりの拠点としてオープンしました。デザイナーや企業の方とのパートナーシップを大切にし、ともに事業を作り上げていくことがコンセプトです。開設以来 2 年半の間、パートナーシップを生かした事業を立ち上げ

展開しています。事業は大きく 3 つに分かれており、①オリジナル商品の企画販売などを行う独自事業、②パートナーから受託する外部委託事業、③ぷろぼの内部の仕組みを支える内部委託事業があります。

1 独自事業

1. サイ◇コロ事業（製造販売）

平成 27 年 4 月、ぷろぼのとデザイナー kakusan のオリジナルブランド「サイ◇コロ」を立ち上げました。「サイ◇コロ」は「サイエンス（科学）」をテーマにしており、自然や科学をモチーフにしたかわいい雑貨を企画・製造・販売しています。昆虫や微生物、宇宙などの「科学標本ブローチ」「ラベルピン」を展開中です。

関西・関東の科学館・博物館を中心に取引先も増え、平成 28 年度には東京で開催された展示会「EXTRA

PREVIEW#13」にも出展しました。また、ネットショップ「ぷろぼの商店街」にも「サイ◇コロ」サイトがあり、いきもの好きの方々に好評いただいています。

また博物館や雑貨店のオリジナル商品も制作する機会が増え、琵琶湖博物館ミュージアムショップおいでや様や株式会社フェリシモ様との共同で商品を開発しています。



2.NATURE-style 事業 (ヨモギ商品の販売)

身体にも自然にも優しい商品をお届けするオリジナルブランド「NATURE-style」を立ち上げ、ぷろぼので栽培・加工したよもぎ商品を販売しています。平成27年度より販売を開始した「よもぎ風呂」に加えて、平成28年より「よもぎ茶」を販売開始

しました。ネットショップ「NATURE-style」および「ぷろぼの食堂」でもご好評いただいています。

取引先として、関東、東海、奈良の雑貨店や鍼灸院、クリニック、道の駅などでご販売いただいています。



2 外部委託事業

1. 商品製造委託事業／販売委託事業 (EC/BtoB)

デザイナーの方々より、商品の製造及び販売を受託しています。奈良県東吉野村在住のエーヨン様や岡山県の民芸新時代様など、デザイナーが企画した商品を製造から販売まで引き受けることで、デザイナーがよりクリエイティブな業務に集中できるようにする関係を目指しています。そのかわりから新たなつながり・事業が展開する可能性

も大きいと考えています。

商品のピッキング、梱包、納品書作成、伝票記入など、発送作業の手順を1つ1つチェックリスト化することにより、メンバーと実習生だけでほとんどの業務を進めることができるようになっていきます。



2. システム開発（株式会社エム・エー・ディー様）

システム開発会社のエム・エー・ディー様と連携し、システム開発の上流工程を担う仕事を行います。このチームでは、アプリ・システムの開発だけでなく、新しいクリエイティブな仕事・仕組みを生み出すことを目指しています。最初は利用者1名から始まった事業も、今では担当職員1名、A型スタッフ2名、実習生3名、外部のプログラマー3名のチームとなりました。主に EC-Cube のシステムを活用し、取引先のシステム開発・改修業務をメンバーで取り組んでいます。



3 内部委託事業

1. 顧客管理事業

顧客情報は、組織にとっての大切な財産です。その顧客情報を管理するためのシステムの導入・運用、それを事業運営や事業展開に効果的に活用できる仕組みづくりをお手伝いしています。具体的には、名刺などの入力による顧客データベースの作成と更新、メールマガジンの送信などです。

ぶろぼのグループの顧客情報管理も IT センター大和八木で行っています。顧客情報をシステムに登録し、メールマガジン「プロボノプレス」を配信しています。顧客情報を事業運営や事業展開に効果的に活用できる仕組みになるように取り組んでいます。



2. レーザーカッター加工事業

丸紅財団様の助成金を頂き、レーザーカッターをモノづくりの機器として導入しました。レーザーカッターはその特徴として、一度加工用のデータを作ると、木材、アクリル板、ポリプロピレン板などの彫刻・裁断作業を正確かつ容易に行うことができます。

ぶろぼの福祉ビル Fellow Ship Center のオープン時には、「Fellow Ship Center」のロゴを彫刻した木製コースター・プレートを製造しました。また看板制作やボードゲームチップの制作なども行っています。



IV 就業支援

就業支援事業部

1 働き方を考える、障がいのある方が楽しく働き続けるために

就業支援事業部も2年目を迎え、事業部としての方針を整えて取り組んでまいりました。就労支援員として、それぞれの障がい特性に合わせた無理のない働き方とはどういったものかを良く考える事、勤務時間や支援者の存在、キャリアアップ制度の有無など働きやすい環境かどうか、自分の目で見て確認することを大切にしています。

また、働き続けるための支援体制を構築す

る事も、就労支援員の仕事であることを明確にしました。定期的な職場訪問による上司の方や職場担当者とのケース会議、本人や場合によってはご家族との面談などを通じて課題を明確にし、職場の方と一緒に本人の成長を見守るように心がけています。

また、就労支援員としての「行動の指針」を3つあげて、取り組んでいます。

1. アクティブな組織体

就労支援員みんなで協力して、企業の開拓や実習先の確保を行いました。毎月の定例会議を通じて情報の共有化を図ることや、新規の企業訪問を繰り返し行いました。

2. 一つでも多くの就職先をつくろう

障害者はたらく応援団ならをはじめ、知人の紹介など大阪や京都の企業へも訪問し、平成27年度の新規開拓とは別に、平成28年度は12社で新たに会社見学や実習を行いました。

3. 働き続ける人の応援団

就職された企業の定期訪問から始まって、ケース会議の実施やご家族との連携まで働き続けるための支援を行っています。また、就職後も各事業所では就職者の夕食会やイベントへの参加呼びかけなど、気兼ねなく訪問できて話ができる環境を作っています。

2 その他に主な活動として

平成28年9月には利用者法人イベントワークグループと一緒に、武田薬品工業の特例子会社様から3名の方に来ていただき講演会を行いました。「就労に向けた準備と会社が求める人材について」のテーマで

当事者の方と責任者の方からそれぞれ講演をいただきました。入社するまでの、障がい特性ゆえの苦労話や失敗談などユーモアを交えての2時間でした。当事者からの身近な話に、訓練生からの質問も多く飛び出

し、「これからの就職活動に大いに参考になった」との意見が寄せられました。

次に、障がい者雇用が進んでいる好事例を収集しました。建物や設備と言ったハード面の工夫と、研修制度や人事制度などのソフト面の事例を整理しています。企業訪問の際は、必要に応じて適応できる事例をご紹介しますこともあります。企業によっては、ご紹介した事例を実際に取り入れられ、それが職場定着のために役立ったケースもありました。

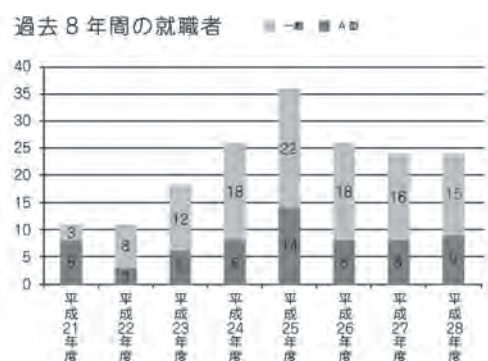
また、企業の人事担当者や指導員の方々を対象にアンケートを実施しました。詳

細は101ページ以降、「Ⅸ 利用者の意識調査」を参照頂きますが、障がい者雇用を通じて、職場での会話が増えてきたことや、周りを思いやる気風が芽生えてきた、みんなで助け合う雰囲気になってきたなど、職場環境のいい変化が見られたようです。また、就労支援機関を通じて就職した人は、挨拶や身だしなみなど、一定のビジネスマナーが整っているとの評価が出ています。

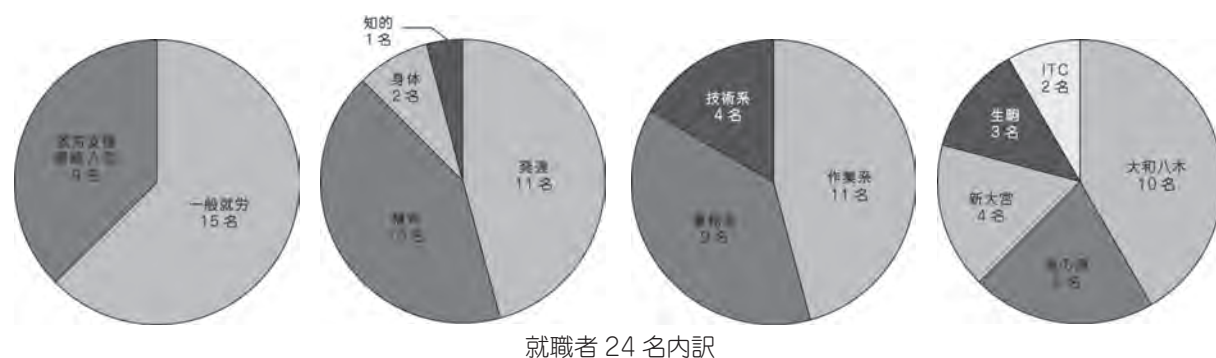
平成29年度も、今まで培ってきた就職までの支援や職場定着の経験をもとに、さらに就労支援の内容をブラッシュアップして取り組んでまいります。

3 就職者の状況

平成28年度の就職者は24名で、企業等への一般就職は15名、就労継続支援A型が9名となりました。大阪にある日本生命や東京海上などの特例子会社に就職される方が増加しています。また、奈良県の地元で就職を目指して訓練に励み、意中の企業に就職された方もおられます。障がい種別では、精神障がい者10名、発達障がい者11名、身体障がい者2名、知的障がい者1名となっています。職種別では、書類や帳票の作成から請求業務などの事務的な仕事を中心とした業務に9名、量販店などのバックヤードや倉庫でのピッキングといっ



た作業系の職種に11名が就職しています。また、ホームページの制作やプログラマーなどの専門的な技術職にも4名が就職しています。



4 職場見学会・職場実習

平成 28 年度に行った職場実習を通じて、就職や就職内定に至った方は 18 名に上っています。平成 27 年度から、職場実習の新規開拓を積極的に行ってきましたが、その成果が出てきました。平成 28 年度も、新規に訪問した企業は 12 社になり、お付き合いの幅も広がってきたと感じています。

平成 28 年度の会社見学会は、ダイキンサンライズや JR 西日本あいウィルを始め 16 社のべ 127 名の参加者になりました。

また、職場実習は長いところでは 1 ヶ月間、概ね 1 週間から 2 週間の期間で実施していますが、平成 28 年度は 17 社でのべ 58 名の訓練生が参加しました。

見学会や実習の参加者は、平成 27 年度の 2 倍近い人数となっています。就労支援員を中心として、新しい企業様との繋がりを大切にしてきた結果がでています。これは、平成 29 年度の就職者数の増加にも寄与すると思われます。

平成 28 年度職場見学会一覧

	見学先	訓練生数		見学先	訓練生数
5 月	ダイキンサンライズ	30 名	9 月	ハウスあいファクトリー	1 名
6 月	JR 西日本あいウィル	14 名		ライフイノベーション	1 名
	第二ツセイニュークリエーション	6 名		アクセプト（株）	3 名
7 月	エルアイ武田	6 名	10 月	エルアイ武田	1 名
	オリエンタルシューズ	4 名		ライフイノベーション	1 名
8 月	ハウスあいファクトリー	9 名	11 月	（株）CWS	8 名
	タビオ奈良	10 名	2 月	奈良医大	8 名
	有限会社コーナー	4 名	3 月	東京海上ビジネスサポート	5 名
9 月	東京海上ビジネスサポート	3 名		済生会中和病院	5 名
	放課後等デイ tuna	1 名		タビオ奈良	7 名
合計					127 名

平成 28 年度職場実習一覧

	実習先	訓練生数		実習先	訓練生数		実習先	訓練生数
4 月	奈良県立医大	4 名	9 月	タビオ奈良株式会社	1 名	11 月	かんでんエルハート	1 名
	かんでんエルハート	2 名		ハートフルコープなら	3 名		タビオ奈良株式会社	3 名
5 月	タビオ奈良株式会社	1 名		ライフイノベーション	1 名	12 月	近商	1 名
	奈良県立医大	7 名		東京海上 B S	1 名		タビオ奈良株式会社	2 名
6 月	タビオ奈良株式会社	1 名		エルアイ武田	1 名	1 月	CWS	3 名
	かんでんエルハート	1 名	(有) コーナー	1 名	関西メディコ		1 名	
	SMBC グリーンサービス	1 名	近商	1 名	佐藤薬品		1 名	
	奈良県立医大	2 名	エルアイ武田	2 名	近商		1 名	
7 月	かんでんエルハート	1 名	10 月	タビオ奈良株式会社	5 名	2 月	ウェルシア	1 名
	放課後等デイサービス tuna	1 名		ライフイノベーション	1 名		3 月	奈良県立医大
8 月	ニッセイニュークリエーション	1 名		ハウスあいファクトリー	1 名			合計

内 16 名が就職内定、就職

5 職場定着支援

過去3年間に就職された方々を対象に、就労支援員が中心となって企業訪問を行っています。職場の上司の方や直接指導いただいている先輩社員との面談を通じて、仕事を進める上での課題についてケース会議を行っています。職場定着の上で、必要に応じてご家族

と面談する場合があります。また、その症状によっては、本人と診療の同行をおこない、服薬管理へのアドバイスや就労上の注意点などを整理して、企業の方々と一緒になって職場定着のために支援を行いました。

6 企業アンケート

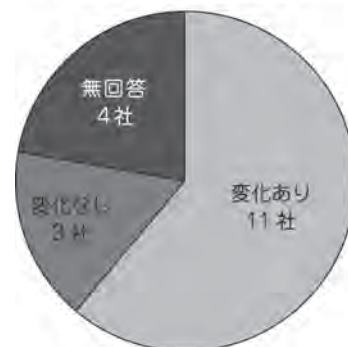
平成28年の7月～8月にかけて、企業18社に障がい者雇用に関するアンケートを実施しました。主な内容は、障がい者雇用を始めてからの職場での変化、障がいのある方のキャリアアップ制度の有無などの質問を無記名で実施しました。

1. 障がい者雇用を始めてから職場に変化がありましたか？

障がい者雇用を始めてから、職場に変化があったと答えたのは18社中11社で全体の6割でした。その内容は、「職場で助け合うようになった」と答えた企業が6社ありました。ほか、「戦力になった」や「職場の雰囲気がよかった」という声が多かったです。具体的な事例などを上げてもらった所「最初は、上手く関われるか不安だったが、自分の子どもと同じように接することで、職場内のつながりが生まれるようになった。そこから職場に一体感が生まれてきた。」
「工場の機械を使用してもらうにあたり、現場の職員が自主的にマニュアルを整備した。機械にもラベルを貼付するなど工夫を凝らした。障がいのある人だけでなく、一般の人にも優しい仕組みが作れた。また、職場に会話が増えてきたように思う。」

など、周りの人にとっても「働きやすい職場」が出来上がった様子を伺う事が出来ました。

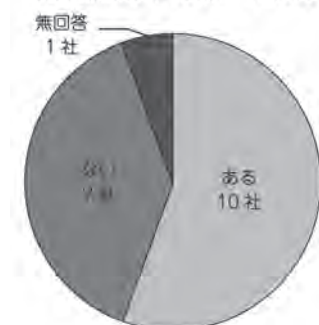
1. 障害者雇用での変化



2. 障がい者のキャリアアップ制度はありますか？

18社中、11社に何らかの社内制度があり、リーダーや課長職までの登用がある企業もありました。また、SSTなど社員の研修制度を整えておられる企業もありました。

2. 障がい者のキャリアアップ（職域拡大や役職）の制度



V 生活支援・相談支援

生活支援・相談支援

1 GHぷろぼの（グループホーム）

平成 25 年 2 月より奈良市内のアパートと契約を締結し、現在 5 室をグループホームとして、共同生活支援事業を行っています。

この場所は、ぷろぼののサービスを利用中または利用後就職した方が、地域で自立した生活を送るために生活支援を受けながら、自分らしく暮らしていく場所です。

平日の夕食は、世話人が栄養管理した食事を提供します。グループホームは利用を希望する声があり、今後拡充を検討して参ります。



2 障がい福祉サービス利用に関する計画相談・モニタリング

障がい福祉サービスの利用にあたっては、その手続きのうえで、利用者個々の状態や生活状況及び意向等のニーズに基づいたサービス提供となることを目指します。

障がい福祉サービス利用時の計画相談支援や利用後の定期的なモニタリングは、利用者の望む生活の実現に繋がります。

Ⅵ 児童支援

ぶろぼのスコラ概要

◆概要

放課後等デイサービス事業は、第一に安心安全に児童が生活できる放課後の居場所であることが原則です。「ぶろぼのスコラ」は原則を基本としたうえで、卒業後の選択肢を広げるための社会的マナーや基礎体力作りをプログラムに取り入れ、楽しみながら取り組めるように心がけてまいりました。そのプログラムは社会的にも注目され、第5回キャリア教育アワードにて最優秀賞（経済産業大臣賞）を受賞しました。

個別の課題を設け、一人ひとりが積極的に取り組める工夫をしています。やりたいことにチャレンジでき、乗り越えたらまた次の課題に取り組みます。これを繰り返すことで、成功体験を得ながら、本人が持っている能力がたくさん引出されていきます。それらは利用者たちの自己肯定感を生み出すことにつながります。そのようにして卒業までの期間をいきいきと過ごしてもらうことを課題として取り組んでまいり

ました。

1日の具体的な流れを説明します。

利用者は来所するとまずはスタッフや他の利用者に挨拶をして、洗面台で手洗いうがいを済ませ、自分のファイルに本日の目標を記します。全体挨拶を行い、体幹を鍛えるバランスボールと、挨拶や自分の意思を伝えるために欠かせない発声練習をします。それから週替わりの運動系プログラム、社会的マナーを意識したプログラムまたは創作プログラム、資格取得を目標としたITか、或いは個別の創作活動に取り組みます。それから自分たちで使った道具やパソコンを片付け、教室の清掃をして、全員で輪になり終わりの挨拶といった流れになります。

学校で疲れているのに、またスコラで身体と頭を使うのですから、もう疲労困憊といった子どもも確かにいますが、集中した二時間を過ごしたあとは充実感や一体感のようなものが生まれます。

1 スコラプログラム紹介

4つのジャンルにプログラム分類し、目的や効果に即した支援を行っております。スコラ支援プログラムについては「スコラテキスト」として平成28年秋に発行いたしました。

IT

パソコンの知識や基礎技術を学ぶためのプログラムです。ソフトを使用して文章・表の作成を行い、パソコンや周辺機器の操作を学びます。パソコン

を操作するにあたっての注意事項について理解し、安全な操作ができるように取り組みます。

ソーシャル

社会的スキルを学ぶためのプログラムです。社会に出た時に必要とされるコミュニケーションの取り方や相手との距離感、伝え方や関わり方を学

びます。社会を取り巻く環境や行事についても体験し、行事や季節感なども醸成します。

体力

筋力や体幹を鍛えるためのプログラムです。姿勢や体勢を維持するためにトレーニングを行ったり、様々なポーズで体の可動域を増やしたり、自分のイメージと体の動作をリンクさせたり、自分

の体の使い方を学びます。協力してのプログラムでは、相手とのバランス感覚や力加減にも挑戦します。

創作

自由創作を通して、自己表現の方法について学ぶためのプログラムです。対象物の模写や絵を描く平面の表現、様々な素材を用いた立体表現等、自分の意思を伝えるためにどのような表現方法が

あるか、どの表現方法が得意かを学びます。指示や説明の理解力やイメージを形にする創造性を育みます。

2 平成 28 年度の取り組み

ぷろぼのスコラ新大宮校開校

平成 28 年 8 月にぷろぼのスコラ新大宮校が開校しました。各養護学校の見学依頼も多くあり、週 5 日開所で京都府南部や奈良市在住の利用者が集

まっています。またエレベーターも設置しているため、身体に障がいのある方も積極的に受け入れています。

定期的な合同イベントの開催

各校の利用者が集まって一緒に楽しんで学ぶイベントを平成 28 年度は数多く開催することが出来ました。また「森の中のギフト合同 BBQ 大会」「な

ないろサーカス里山ピクニック」など、他団体様と協力してイベントを開催することもできました。

■「スコラ☆カレー選手権」

チームごとに異なるレシピのカレーを作りました。レシピは 4 人分ですが、12 人前を計算して材料をスーパーで購入し、調理しました。スタッフと保護者ボランティアでフォローをしながら実施。最後にはおいしいカレーを食べることができました。

■「防災ワークショップ」

家庭や学校以外の場所で地震に遭遇した時どうすればいいのか、クイズ形式や避難のポーズを体験して学びました。

■「生活費シュミレーション」

給料袋を渡され、1か月の生活費を順番に払っていくシュミレーションをしました。給料は14万円と言われたのに袋には全額入っていないところからスタート。税金や保険料が引かれていること、また、使いたいだけ使うと最後にはお金が残らないことを経験しました。

■「しおんじ山古墳体験ツアー」

夏休みに八尾のしおんじ山古墳体験館へ社会見学に行きました。自分たちでしおりを作り、バスの乗り方を体験したり、古墳館では埴輪ストラップを作ったりクイズラリーを楽しみました。

■「合同スころく大会」

1マスがA4サイズの巨大すごろくを床の上に広げ、各校で考えた「ミッションマス」「クイズマス」に書かれた指示をチームで協力しながら取り組みました。

■「合気道ワークショップ」

受け身の姿勢や歩き方などの普段できない体の使い方を体験しました。ほぼ全員受け身が出来、とても盛り上がりました。

■「ドミノ倒し選手権」(ぷろぼの法人全体)

「スコラ」の文字をドミノで作りました。後半集中が切れてくると倒してしまう場面が多く、気持ちを切り替えてできるまで何度も取り組みました。

■「プレゼン☆キング」(ぷろぼの法人全体)

平成28年のテーマは商品開発。自分たちが考える、「こんな商品があったらいいな」と思うものについて発表しました。大勢の前で発表するので緊張しますが、本番は上手に発表できていました。

■「ロボット選手権」

定期的にアーテックブロックを利用したプログラミング教室を開催しました。チームに分かれてロボットを作るメカニックとプログラミングの担当に分かれて、試行錯誤をしながら課題に取り組みました。



保護者向け事業所見学会・交流会の開催

6月と10月に就労移行等の見学会と保護者懇談会を開催しました。成人の福祉サービスや進路の選択肢についてお話しする機会にもなり、またスコラスタッフ、移行職員と保護者の方どうしの交流も図ることができました。卒業後の進路についてともに考えることができました。

「スコラだより」刊行

保護者の皆様にスコラでの取り組みを知っていただく機会として、「スコラだより」を毎月の郵送物に同封しています。各校の取り組みや合同イベントの様子、プログラムの目的や効果について、周知することができました。

利用者アンケートの実施

平成 28 年度も利用者アンケートを実施しました。定期的な面談や子どもたちの成長の様子など、さまざまなご意見、ご要望が寄せられました。この結果をもとに次年度の取り組みについて検討していきたいと思えます。

スコラテキストの発行

平成 28 年 10 月に刊行しました。スコラプログラムの概要がわかる支援ブックです。今後広報と活用を進めていきます。



ぷろぼのスコラ生駒校

◆概要

ぷろぼのスコラ生駒校は4年目を迎えました。保護者の方からの紹介や、各支援機関での認知度が高まってきたこと、また、他のデイサービスにおいて、子ども向けのプログラムが合わなくなった中学2、3年生の受け入れも始めたこともあり、16名の新規利用者を受け入れました。

同級生が通っている安心感から、すぐになじみ、休日のイベントも含め様々な活動に積極的に参加。先輩の姿をよく見て学び、飛躍的にできることが増えていく様子は、一人一人の個別の課題や成長に寄り添い、ともに喜んできた成果と思っています。

平成28年度に特に力を入れた取り組みは、土日の体験イベントやワープロ検定の定期実施などです。これらを通じてさまざまな場面での子どもたちの成長や活躍には目を見張るものがあります。また、夏

休みなどの長期休暇は午前開所を実施し、ウォーキングで体力作り、職場体験でいろいろな作業をする体験をしました。作業場を設定することで、個別作業が向いているのか、チーム作業が向いているのかなど利用者の職業特性を把握したり、集中力を保って作業する練習になりました。

平成28年度の卒業生は14名と非常に多く、進路としては一般就労10名、自立訓練3名（内ぷろぼの1名）、就労移行1名となりました。春の時点から、事業所見学会や交流会などで定期的に情報提供を行い、進路についてさまざまなご相談を受けて参りました。就職後のご相談にも対応できる態勢をお伝えすることにより、ご本人やご家族が安心して就労のステップに踏み出せたのではないかと考えています。

1 大切にしていること

「楽しく社会人スキルを学ぶ」をテーマに、利用者のやってみたい気持ちを尊重しながら、必要なところをサポートして、様々な場面でチャレンジすることやリーダーシップを発揮することを経験していただいています。社会に出ていくうえにおいて不可欠な、成功体験や自信を体得していただきたいと考えています。

保護者の方に定期的に必要な情報をお伝えしたり、お話しすることも大切にしています。進路選択に必要な様々な場面での様子をスコラレポートで日々お伝えするとともに、どんな配慮や環境であれば力を発揮できるか、続けていくことができるかなどについて面談時にお話するようにしています。

2 訓練プログラム

主なプログラム

■ 運動プログラム

筋力トレーニングやストレッチなど、週ごとにプログラムを設定しています。平成 28 年度は体の動かし方に詳しいスタッフが加わり、より本格的なトレーニングを実施しました。



■ ソーシャルプログラム

音読などの発声やコミュニケーションについてゲームを通じて練習しています。ゲーム性を持たせることでコミュニケーションの目的がはっきりし、成功と失敗も明確になるので、意欲的に取り組むことが出来ます。平成 28 年度は新たに「サイコロトーク（1 分間スピーチ）」や「似顔絵探偵（犯人の顔の特徴を具体的に伝える）」を実施しました。

■ 創作プログラム

季節の掲示物やイベントの飾りなど、折り紙や絵を描いて各自工夫して表現を楽しみました。お雛様やハロウィンの顔を自分なりに工夫して描いたり、夏祭りの屋台の看板の絵をタブレットで画像検索して描いたり、個性を出して取り組むことができました。

■ IT プログラム

ほぼ全員がパソコンのタイピングや文書作成、エクセルの表作りに取り組んでいます。パソコン検定も定期的で開催し、たくさんの合格者を出すことが出来ました（ワープロ検定準 2 級 1 名、4 級 2 名、パソコンスピード検定 3 級 1 名、5 級 5 名、表計算検定 4 級 1 名）。

賞状授与の場面を見た他の利用者のやる気にも火がつき、毎回数名の受験者がいました。

3 イベント

事業所内イベント

平成 28 年度は利用者が企画や準備をして進めるイベントを開催しました。

■ スクラッチ講座

スクラッチの基本的な操作を集中して教える講座を開催しました。

■ スコラフェスタ（夏祭り）

みんなで準備をして、店員と客に分かれて、かき氷、たこせん、射的、ストラックアウトを楽しみました。最後に歌やダンスの出し物をして盛り上がりました。

■ ハロウィンイベント、クリスマス会

■男子会、女子会

男性同士、女性同士で話しあう機会を作りました。男性は外食先に向かう道で、女性はおやつを囲みながら、ふだん話せないことを友達やスタッフと話すことができました。

■スコラ卒業式

卒業生は卒業制作、在校生は出し物を準備しました。卒業生の集大成になる発表では、利用当初の写真も映し出され、3年間の大きな成長に保護者の方とともに感動させてもらいました。



合同イベント

■バーベキュー（就労移行合同）

春と秋の2回開催をしました。ピザ体験や火や食材の準備など、いろいろな役割に分かれて準備し、みんなで楽しく昼食をいただくことができました。

■コンサート（就労移行合同）

就労移行支援のチームにパークッションで参加しました。大勢の前でも臆することなく演奏することができました。

他事業所との交流イベント

■「I-Net主催ボッチャ大会」

生駒市内の福祉施設がチームを組んで、ボッチャのトーナメント戦を行いました。スコラでも練習を重ね、準優勝を飾ることができました。

■森の中のギフト対スコラサッカー大会「生駒カップ」

近隣の中高生を対象としたデイサービス「森の中のギフト」様とサッカー対決をしました。両事業所とも奈良クラブのサッカー選手を雇用している縁もあり、試合はとても白熱しました。



■「ワンステップ合同ハロウィンイベント」

小中学生を対象とした放課後デイサービス「ワンステップ」様とハロウィンイベントを開催しました。お互いの仮装を披露したり、ゲームやおやつを食べて楽しみました。

■「ワンステップ合同ボウリング大会」

年度末にはボウリング大会を開催しました。ワンステップ様からの卒業生がスコラに数名在籍しており、事業所を超えて楽しみました。

4 ボランティア活動

活動内容

■ ららぽーと清掃活動

長期休暇中に週1回、ららぽーと様の市民活動団体の活動紹介の棚の掃除を行いました。

■ エコキャップ活動

集めていたエコキャップを生駒市衛生社様に収めました。感謝状をいただきました。

■ 「ららまつり」着ぐるみボランティア

ららぽーと様のイベントに着ぐるみとお茶販売のボランティアで参加しました。



5 成果と課題

数値実績としては、登録者 39 名、1 日平均利用者数 8 名と順調でした。高校 3 年生のイベント参加がとて多く、休日イベントは 10 名以上の参加となりスタッフ総出で支援することもしばしばありました。

卒業者は 14 名（内一般就労 10 名）、多くの就職者が出たことは非常に喜ばしいことでした。新規利用者は 16 名と多く、奈良東養護学校、奈良西養護学校、デイサービス（無限、にっこり、ぴよぴよ会）などから紹介を受けました。相談支援事業所（かざぐるま、あすなろ、たん

ぽぽ、ぴよぴよ会、ばくのゆめ、しおん、岡谷会、きららの木）と連携しながら計画相談、モニタリング時に支援の方向性について話し合いました。

支援としては、保護者との定期面談を実施し現状把握と進路についての相談を前期から行うことができたのが成果と言えます。一方、通常プログラムでの個別課題や支援を充実させ、質を上げることは、今後も継続テーマして取り組んで参りたいと思います。

ぷろぼのスコラ大和八木校

◆概要

大和八木駅から徒歩7分、畝傍駅から徒歩10分の場所にあり、ぷろぼの就労移行や就労継続A型・B型の事業所があるビルの3階にあります。バランスボールを使った体操や運動プログラムをするための

十分な広さがあり、利用者さんたちが楽しく話す声でいつも賑やかです。それぞれが得意なところを伸ばしていこうと、日々努力している姿は頼もしく見えることがあります。

1 大切にしていること

スコラ大和八木では「みんなで楽しくみんなが学ぶ」ということを大切に、日々を過ごしています。また、多くのプログラムの中で一人ひとりの興味に合わせて活動し、それぞれの方法で理解を深めていきます。社会に出たときに会うであろう経験を今のうちから経験して、社会に出てもうまくいくように自信を持って行動することや、対処の仕方を知っていきま

す。「楽しく社会人スキルを学ぶ」という通り、スコラでは、「楽しい」と感じてもらえること、もっとやりたいと意欲を持ってもらうことを大切にしています。自分が行動することで周りの人が笑顔になること、一緒にやる仲間がいることで挑戦できるという体験をして、自分の可能性をどんどん引き出すことができるようにと考えています。

2 訓練プログラム

主なプログラム

■IT系プログラム（タイピング、マウスの達人等）

マウス操作やタイピング練習を行います。パソコンが好きでどんどん上達する人や、苦手意識は持っているけれども、自分のできるところから段階的に取り組むことで興味を持ってくれる人など、一人ひとりのペースで取り組んでいただくことが可能です。ローマ字入力も苦手でも、あきらめずに挑戦できます。また、プログラミングソフトを使った講座など、自分で考え工夫していく取り組みも行っています。



■ ソーシャル系プログラム（グッドトイ SW、スピリットーク等）

カードゲームやボードゲーム、スコラオリジナルのゲームもあり、ルールの中でコミュニケーションをとったり、自分から話したり人前で発表すること、人の話を聞くことを習慣づけていくことができます。また、声をかける時の正しい言葉使いを知ること、商品の値段を予想して金銭感覚を身に付けていくものもあります。



■ 体力系プログラム（BB きたえまスコラ、ちょいトレ等）

バランスボールを使ったり様々な動きを通して、体幹を鍛えたり、身体感覚を養います。思い切り体を動かすことが得意でも、正しい姿勢を維持することが苦手であったり、自分のイメージと実際の動きがずれていたりすることがあるため、思った通りに身体を動かせるということが重要になります。

大和八木校では、講師の方を招いて「体育あそび」を行っています。マットや鉄棒などの用具を使い、体の使い方や動きを理解しながら体を鍛えていきます。



■ 創作系プログラム（すこっちスケッチ、3D クラフト等）

絵を描くことや工作を通して、手や指先を動かし、道具をうまく安全に使えるようになっていきます。また、自由な表現をすることにより、自発性や意欲を高めていくことも期待されます。自分がどう見えるのか、どう感じるのかを表現することは難しいことでもあります。自分が作った作品には愛着がわいてきます。



3 イベント

長期休暇中や休日に、事業所の外に出かけ地域のイベントに参加したり、ぷろぼのの他事業所と合同でイベントを企画したり、お菓子作りやクラフトなどの事業所内で楽しむことのできるプログラムを行っています。また、スコラの3校の合同イベントとして、社会に出るためのスキルを学ぶ「スコラ☆おとな講座」や、スポーツやレクリエーションを通して交流する「スコラ杯」などを行っています。



それぞれのプログラムは相互に関係し合い、相乗効果として本人の変化となって現れます。得意なものや苦手なものなど、自分のことを知ったり相手のことが分かったり、今まで自分が過ごしてきた生活や環境では見えなかったものが徐々に見えてくると思います。様々な経験を通して、自分の世界をさらに広げてもらいたいと考えています。

4 成果と課題

スコラ大和八木も2年目を迎え、3月に初めて5名の卒業生を送り出すこととなりました。進路はそれぞれですが、自分の将来を考え選んだ道へと進むことができたのではないかと思います。ご本人から「パソコンが上達してよかった。」「実習に行ってあいさつや言葉遣いをほめてもらった。」「相談に乗ってもらえるところがあってよかった。」等々、利用していただく中で成長を感じてもらえました。下級生も「先輩みたいになれるように頑張りたい。」など、新たに目標を語ってくれることがうれしく感じます。そういった変化を保護者の方にも感じてもらえているようで、「スコラに行くと元気になって帰ってくるようになった。」という声や「将来が明るくなったように感じる。」ともおっしゃっていただきました。

スコラで過ごす時間の中で、思い切り楽しむことも、マイペースで進めることも、時にはいやな思いをすることもあるかもしれません。でもそれはきっと社会に出てからも同じように感じることもあるのだと思います。自分には合わないと感じる人と一緒になったり、行きたくないと感じたりもするでしょう。でも、今のうちに誰かに相談することや、いやなことをいやだと伝えること、相手を傷つけないような伝え方を知っておくことなど、今のうちにたくさん練習をしてほしいと思います。スタッフは少しずつ、その手助けをしていきます。まだまだ活動に関しても模索中ではありますが、ご本人や保護者の方と信頼関係を築きつつ、卒業後の選択肢や可能性を広げていきたいと思っています。

ぷろぼのスコラ新大宮校

◆概要

平成 28 年 8 月にぷろぼのスコラ新大宮校がぷろぼの福祉ビルの完成に合わせて開校しました。近鉄新大宮駅から徒歩 5 分、JR 奈良駅から徒歩 15 分、最寄のバス停からは 2 分の距離にあり、公共交通機関を利用しやすい立地にあります。当法人の放課

後等デイサービス事業としては 3 校目であり、生駒校、八木校で確立してきた支援の手法を活かし、障がいのある中高生が卒業後に様々な進路を選択できるように支援を行って参ります。

1 大切にしていること

初めは新しい環境に慣れることを重視し、職員との信頼関係を築いていくことを大事にしています。慣れない環境や不安などから人の輪に入ることが難しかった利用者も、慣れてくると自分から話しかけたり、苦手なことにも挑戦できるようになってきました。また、職員との信頼関係ができたことで会話が弾み、学校や家庭での様子がわかり、生活習慣などの把握につながっています。

スコラのプログラムは楽しく取り組みながら少しずつ成功体験を重ねられるように工夫しています。苦手なことにも挑戦してみようという気持ちを育んだり、苦手だったけどできたという体験ができるように構成しています。



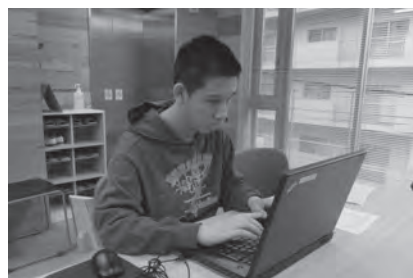
2 訓練プログラム

主なプログラム

■ IT 系プログラム（パソコン操作、タイピング練習、支払い技術検定）

まずはパソコンの基本的な操作を覚えるところから始めます。普段からパソコンに触れる機会や、興味があるかどうか事前に聞き取りを行い、それぞれに応じた教材を提供しています。基本的な操作ができている利用者は、タイピングの練習に取り組んでいます。得点が表示されるソフトを使用しており、自分で記録を付けながら取り組むようにしています。パソコン検定の資格取得を目標に受験に向けて頑張っている方もいらっしゃいます。

また、タブレット端末で配信されている知育アプリ「支払



い技術検定」を活用しています。指示通りにお金を支払っていくゲーム形式なので興味を持ちやすく、点数に応じて評価がされることも合わせて人気のアプリです。初めはうまく支払えなかった方が今では記録を順調に伸ばし続けています。

■ ソーシャル系プログラム（グッドトイ SW）

新大宮校では特にカードゲームが人気です。ゲームに慣れた人も初心者と一緒にプレイしますが、慣れた利用者がプレイ中にも関わらず初心者に優しくやり方やコツを教えてください。自分が勝ち抜けたあとは初心者の後ろに行きアドバイスすることが自然に行われています。利用当初は他の人とのコミュニケーションが苦手だった方もゲームを通じて積極的に参加できるようになってきました。また、カードゲームを通じてルール理解やチームプレイ、考える習慣などが身につけてきています。



■ 職場体験

同じビル内に当法人の就労継続支援 A 型、B 型事業である IT センター奈良があり、利用者が長期休暇期間中に職場体験をできます。平成 28 年度は春休みにぷろぼの食堂で清掃体験を実施しました。ぷろぼの食堂のシンボルでもある木のテーブルとイスを拭く作業を担当し、手順通りに拭くこと、速さよりも丁寧さを大事にすることを目標に取り組みました。まだ始まったばかりではありますが、平成 29 年度の夏休みには新大宮校だけでなくスコラ全体でもっと多くの利用者が体験できるように作業内容を整え、体制づくりを行って参ります。



3 成果と課題

平成 28 年度の登録者数は 10 名でした。開始当初は週 1 回だけの利用が多かったため利用者よりも職員の方が多かったこともありましたが、今では半数の方が週 2 回以上の利用になり、1 日の利用者数が増えた為、プログラムの幅も広がってきました。また、利用者からの積極的な会話や行動が増え、職員との信頼関係が少しずつ厚くなってきたことを実感しています。

平成 29 年度は新大宮校としての支援の流れを確立していきます。利用者の目標や課題は千

差万別です。ぷろぼのスコラを利用しながら他の利用者の取り組みに刺激を受けて「やってみよう」「やってみよう」という気持ちになれる仕組み作りを行っていきたいと思います。また、保護者の方へは定期的な面談やスコラ全体での保護者会を設け、卒業後の進路や「障がい児から障がい者へ」の制度の切り替わり等についての情報提供を行っていきたいと考えています。

VII ワークグループ

ワークグループの取り組み

◆事業改善委員会について

事業運営においては、既存の活動を改善していくこと、見える化を図ること、ミッションの明確化を図ること等により、従来の延長線上から飛躍して事業の付加価値を増大させることができます。

法人では、事業改善委員会を発足させ、次の5つのワークグループを立ち上げ、この取り組みに注力しました。

- ・利用者法人イベント WG
- ・安全衛生委員会 WG
- ・支援機関連携 WG
- ・奈良クラブ応援プロジェクト WG
- ・職員採用検討 WG

以下、各ワークグループの活動を報告いたします。

利用者法人イベントワークグループ

1 ビジョン

訓練では得られないことを利用者の皆さんが体得できる機会づくり

2 目標

「グループワークの楽しさ」を体験してもらう。

「就職に関するスキルや知識」、

「生活するうえで知ってほしいこと」を学んでもらう。

3 活動報告

ドミノ倒し大作戦！（法人イベント）

「グループワークを楽しむ。」という目的で法人イベントを開催し、82名が参加されました。

事前のグループワークで仕掛けや配置を決め、当日は各事業所の代表者が交代しながらドミノ牌を並べました。

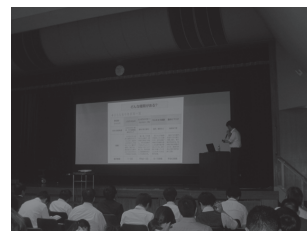


就職支援セミナー

■ SNSの利用と著作権、肖像権について

講師：奈良市消費生活センター様

SNS、インターネットの活用方法やトラブルに巻き込まれないようにするために予防策と解決方法を教えていただきました。



■ 訓練や日常生活での食中毒について

講師：奈良市保健所様

事業所にお弁当を持参する利用者も多く、暑い時期に増える食中毒についての知識や対策法を教わりました。

■ 生活に関わる身近な法律問題について

講師：奈良弁護士会様

普段、生活するうえで、法律とはかかわりが無いように思われがちですが、就職や結婚、相続といった人生の節目や交通事故まで法律が関わっている事、トラブル時の解決策を教えていただきました。



■ 身だしなみセミナー

講師：資生堂ジャパン株式会社様

第一印象は、55%が見た目で決まる。男性編・女性編に分かれて開催しました。
就職活動に必要な整髪・整容について実技をしながら教えていただきました。



■ 就労に向けた準備と会社が求める人材

講師：株式会社エルアイ武田様

特例子会社の指導員の方から、就職した人がどのように働き、どんなサポートを受けているのかについて、また障がいのある方にも登壇いただき、働き始める前にどのような事を身に付ければ良いかなどを教えていただきました。

■ 健康管理のヒント

講師：奈良市保健所様

生活習慣病についての知識や、予防法を教えていただきました。ウォーキング時の正しい腕の振り方などを知っておくと便利な知識を身に付けることが出来ました。

■ 親亡き後のライフプラン

主催：一般財団法人無限様

講師：大阪府障害者福祉事業団様

相続や生命保険などの重要性や、お金の使い方、人生設計までをファイナンシャルプランナー・終活アドバイザーである講師の方に教えていただきました。

4 成果と反省

法人イベントの『ドミノ倒し大作戦!』では、全法人の利用者を対象にしたイベントでした。ドミノ牌を試行錯誤しながら並べること、チームで協力して完成させることで楽しみながらグループワークが体験できたイベントです。平成29年度も同様のイベント主催を考えております。

就職支援セミナーでは、季節や時期に応じて6回の講演を開催することが出来ました。訓練では伝えきれない事、よりよい就職活動ができるように、生活課題編・就職課題編に分けて更にニーズに合った講演を主催しようと考えております。

安全衛生委員会ワークグループ

1 ビジョン

職員、訓練生が心身ともに健康で安心して働ける職場環境の実現

2 目標

- ・ 安全な職場環境の構築
- ・ 職員の安全面、衛生面への意識向上
- ・ 緊急時対応の強化

3 活動報告

平成 28 年度は大きく分け 3 つの目標を設定し推進してきました。

1 つ目の目標は「安全な職場環境の構築」を掲げヒヤリハット調査と 5S を実施しました。ヒヤリハットでは 7 月に各事業所に御協力いただき、報告いただいたヒヤリハットについて実施すべき対策という切り口で集計を行いました。

その結果、事業所では①注意喚起、②職場環境の改善、③整理整頓という区分で不注意や職場環境の問題で、災害に繋がる課題を抱えていることが浮き彫りとなりました。

5S では事業所面談時にチェックして頂き事業所内だけではなく事業所外の環境整備にも意識を向けた項目を設定し外部の目が入ることによりよい安全な職場作りを目指しました。

2 つ目の目標「職員の安全、衛生面の意識向上」ではメンタルヘルスについて平井氏から職員の心の健康やストレスとの付き合い方などについて学びました。

3 つ目、「緊急時対応の強化」では防災マニュアルを作成しました。火事、地震などに加え、交通事故時の対応や行方不明者が出た際の対応もマニュアル化することで咄嗟の時も落ち着いて行動できればというニーズ作成に至りました。実際に事故が起こってしまった場合を想定し、各事業所に消防隊員の方に来て頂き救命講習を実施しました。応急処置、心肺蘇生、AED の使用方法など有事の際の処置と対応について人形や機具を用い実際に体験しながら学びました。

4 成果と反省

平成 28 年度はぶろぼのがより一層、安全で衛生的に働く事ができる職場になるようメンバー全員で考え試行錯誤しながら進めました。

成果としてヒヤリハット調査や 5 S チェック

を実施してから、ヒヤリハットを継続されている事業所が現れた事です。反省として安全衛生委員会からの振り返りやその後の対策を立てることができませんでしたので平成 29 年度は調

査したデータをもとに改善策を提案できるよう進めていきたいと思っています。

職員の安全面、衛生面の意識向上ではメンタルヘルス研修でストレスとの向き合い方を改めて学ぶ機会を作ることができよかったと感じていますが、1年を通じ意識向上できる取組みを設定できませんでした。平成29年度では毎月、その季節に合った安全や衛生の注意点について情

報発信できればと考えています。

緊急時対応として防災マニュアルを作成しましたが、今後マニュアルを活用することが無いように日頃から安全面、衛生面に注意を払って頂けるよう安全衛生委員会WGとして平成29年度はより一層活動を推進できればと思っています。

支援機関連携ワークショップ

1 ビジョン

連携活動、見学会を効果的な時期に行ない、支援機関等との連携強化に取り組む。

2 目標

データ収集と分析

3 活動報告

2016 年

- 5 月：WGの方針決め、年間計画・連携活動スケジュール作成
- 7 月：連携活動報告をまとめるためのデータベースの検討・作成開始
- 8 月：法人全体の連携活動状況確認、連携訪問先の情報収集、データベース試作
- 9 月：データベース使用者の意見まとめ、データベースに必要な項目の検討
- 10 月：データベースの項目・レイアウト決定
- 11 月：上半期振り返り、各部署への連携活動に関しての聞き取り内容決め
- 12 月：連携活動について各部署への聞き取り調査

2017 年

- 1 月：平成29年度のWGの動き検討、訪問先リストのまとめ、4月と9月を連携強化月間と設定
- 2 月：訪問先リストを各部署へリリース、訪問希望事業所のとりまとめ
- 3 月：訪問希望部署をまとめたリストを作成、訪問希望が重複した部署へ日程調整依頼、データベースをPortのようなシステム化にする検討

4 成果と反省

成果

- ・ 連携訪問先リスト
- ・ 各訪問先への訪問希望事業所のまとめが完成。各部署へ連携報告を上げてもらう促しを始めた。
- ・ 連携活動報告のデータベースに必要な項目の洗い出しが完了。

反省

- ・ 連携活動報告のデータベースが完成できなかった。
- ・ 連携報告の入力が少ない。入力が定着しなかった。
- ・ 現状が情報収集の段階のため、分析まで出来なかった。

等があり、平成 29 年度においては、次の取り組みを踏まえ成果を上げていきたいと思います。

- ・ 連携訪問先リスト、連携活動報告をまとめたデータベースの完成。
- ・ 活動報告入力への促しをする仕組み作り。
- ・ 法人全体の年間営業計画の作成。
- ・ 連携活動、見学会の効果を分析する。
- ・ 連携活動をシステム化し、連携活動マニュアルを作る。

奈良クラブ応援プロジェクトワークグループ

1 ビジョン

訪問イベント（選手が各事業所を巡回訪問するイベント）に参加する利用者に、身体性を重視したアクティビティを通して、コミュニケーションの多様性を感じ、普段の訓練にはない気づきを得てもらう。

2 目標

1. 法人アピールにつながる素材を収集・作成して、広報の実施につなげる。
2. 訪問イベントは楽しさを第一優先にしつつも、アクティビティごとに具体的な狙いを設けることで内省を深めるきっかけを提供し、社会生活を送るうえで糧となるイベントの基盤づくりをする。

3 活動報告

訪問イベント

(1) 延べ 18 箇所

(2) うち 1 箇所は、初となるぷろぼの外の法人との合同イベント

(3) 夏場には、堤選手の出身地である熊本県の地震を受けた講座「平成 28 年熊本地震～災害から学ぶこと～」を巡回実施

(1)…訪問イベントの意義および伝えたいこととして、「訓練の要素を取り入れる」「身体を動かすことで、ふだんの訓練では見られない一面があらわれるようにする」「成功体験を味わってもらう」「集団のなかで楽しんでもらう」を設定しました。サッカーの経験がない人でも楽しめるウォーミングアップやアクティビティで身体と心をほぐしてもらい、最後は恒例の選手対事業所のフットサルを実施。選手たちに負けずに一致団結して臨む試合は毎回白熱しました。ハーフタイムに作戦会議を設けたり、イベント後書いてもらうアンケートを定期的に改善したりして、ふだんの訓練とはまたちがった気づきを得てもらえるように工夫をしました。

(2)…奈良クラブ所属の選手が勤務していた放課後等デイサービスの事業所から声をかけていただき、ぷろぼのスコラとの合同イベントを開催しました。訪問イベント開始以来、初となるぷろぼの外の法人と連携したイベントとなりました。

(3)…堤選手が現地で撮影してきた画像を使って、熊本県の現状を報告。どんな災害支援があるのか、自分が災害にみまわれたときのためにどんな備えをしておけばよいかなどを学んでいただきました。参加者には、くまモンを描いてツイッター上に投稿する運動「くまモン頑張れ絵」にも協力していただきました。

◎ メディア出演

岡山一成選手がパーソナリティをつとめるラジオ番組「奈良クラブ～奈良劇場ラジオ～」に、選手三人がそろって出演。奈良クラブのホームゲームで開催された人権啓発活動「みんなが人権サポーター～スポーツはみんなのもの～」と連動して、パラリンピックや人権の話をさせていただき、オープンしてまもなかったぷろぼの福祉ビルのことも紹介させていただきました。

4 成果と反省

訪問イベントは、ただ選手たちがやってきて楽しく身体を動かすというイベントにとどまらないように、ふだんの訓練とはまたちがった一面が見られたり、気づきが得られたりするよう狙いを定めて内容を工夫しました。受け入れ先となる各事業所の職員にもその狙いが伝わる

ように、法人内のグループウェアでウォーミングアップやアクティビティの詳細を報告しました。開始当初は手探り状態で職員のフォローが必要だったイベントも、ほぼ選手たちだけで運営と改善のサイクルが回るようになってきて、ビジョンおよび目標の二つ目については一定の

成果が出てきたと感じています。

一方、一つ目については、選手雇用による恩恵が各事業所内にとどまりがちで、法人全体、ひいては奈良という地域に届いているとはいえない現状です。平成 29 年度はこれまでの業務を見直し、新しく『奈良クラブの選手』としての働き方を作っていきたいと考えています。『奈良クラブの選手の本業は、サッカー選手である』ということをお前提とし、(1) 各事業所の選手ではなく、「ぶろほの」の選手になる。(2) 新しい形で利用者の中に入っていく、ファンを増やす（奈良クラブの選手として、夢やあきらめない心構え・プロとしての取り組み方を伝えていく）。(3) これらの見直しを、従来よりも業務負担が増えることのないようにして実現する。以上のことに取り組んでまいります。



職員採用検討ワークグループ

1 ビジョン

「若くて活力のある人材が欲しい。」法人運営を持続させるためには、新しい職員を積極的に迎え入れる必要があります。

新卒採用という期待と不安が交差する学生

に、ぶろほのの魅力ややりがいをしっかり伝えていきたい。そんな思いで新卒採用にクローズアップするための活動を始めました。

2 目標

「ぶろほのの活動に共感し、ファンになってもらう。」

職員として、ぶろほのの事業、活動をしっかり伝えていく。作業を体験してもらう。そして一緒に働きたいと思ってもらえる仕組みを作っていきたいと考えました。

何となく、あまりわからないままにという感

覚で仕事をしていても長く仕事を続けられるかといえば疑問がわきます。

ぶろほのの活動に共感して是非とも働いてみたいと思ってくれる学生を一人でも増やしていきたい、そんな思いを実現できる環境を整える事が大きな目標となりました。

3 活動報告

- ・近畿圏を中心に求人情報の掲示。
- ・ハローワークへの新卒求人募集の登録。
- ・新卒採用対象の採用試験を実施。大和八木事業所での一日体験を実施。
- ・7月～9月にかけて奈良県大学連合インターンシップ制度に伴う学生インターンを実施。

4 成果と反省

成果としては、採用試験の一環として、事業所での一日体験を取り入れたことが上げられます。事業の内容、事業所の雰囲気を肌で感じてもらえる機会を作ることができたことは、求職者の事前に思い描いていた仕事内容とのギャップや手応えを感じながら試験に挑んでいく姿勢をつくれたと感じています。

一方、反省事項としては、学生へアプローチする時期がずれ込み、十分な PR ができなかったことです。採用活動は求職者と事業者が出会うタイミングが大切であり、機会の損失によって、採用に結びつかない難しさを痛感しました。

研究開発委員会について

事業運営においては、今までにない視点で、既存の枠に捉われない施策を構築し、新たな枠組みで事業を進めていくことが、事業の価値増大につながります。

法人では、研究開発委員会を発足させ、次の5つのワークグループを立ち上げ、この取り組みに注力しました。

- ・ 訓練開発 WG
- ・ 広報宣伝検討 WG
- ・ 研修検討 WG
- ・ 先進事例検討・働き方検討 WG
- ・ マテリアルチーム

以下、各ワークグループの活動を報告いたします。

訓練開発ワークグループ

1 ビジョン

- ・ 現在の就労支援システムを整理・再構築し、Port、書類含めより効果的なシステムに昇華させる。
- ・ 放課後等デイサービス・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援 A 型 B 型から一般就労という流れの中で、それぞれの役割を整理しスムーズな連携ができる仕組みを作る。
- ・ 職員のマンパワーに頼らず一定の支援の質が保てる体制を作る。

2 目標

3つのビジョンを実現するため、就労支援システム全般についての検討・改善・開発を行うとともに、それらを運用ルールも含めて体系化することを目指す。

3 活動報告

平成28年度は、平成27年度システム委員会が取りまとめた各事業所の訓練に関する資料と成果をもとに、現在各事業所で実施している訓練の状況把握と整理を行うこと、また自立訓練と就労移行支援でできることを整理するという目標を設定しました。

現在、各事業所が独自に開発した訓練プログラムや、変容したプログラムがあり、事業所ごとに訓練名や内容が異なるという実態があります。どの事業所でもベースとしては同じ訓練が受けられること、各事業所の持つノウハウを共有することを目指し取り組んできました。

当初は各就労移行支援事業所の訓練状況を把握し、就労移行での統一マニュアルを作ること目標に活動を行っていました。調査をすすめ、WG内と研究開発委員会で検討する中で自立訓練と就労移行支援との棲み分けや目的につ

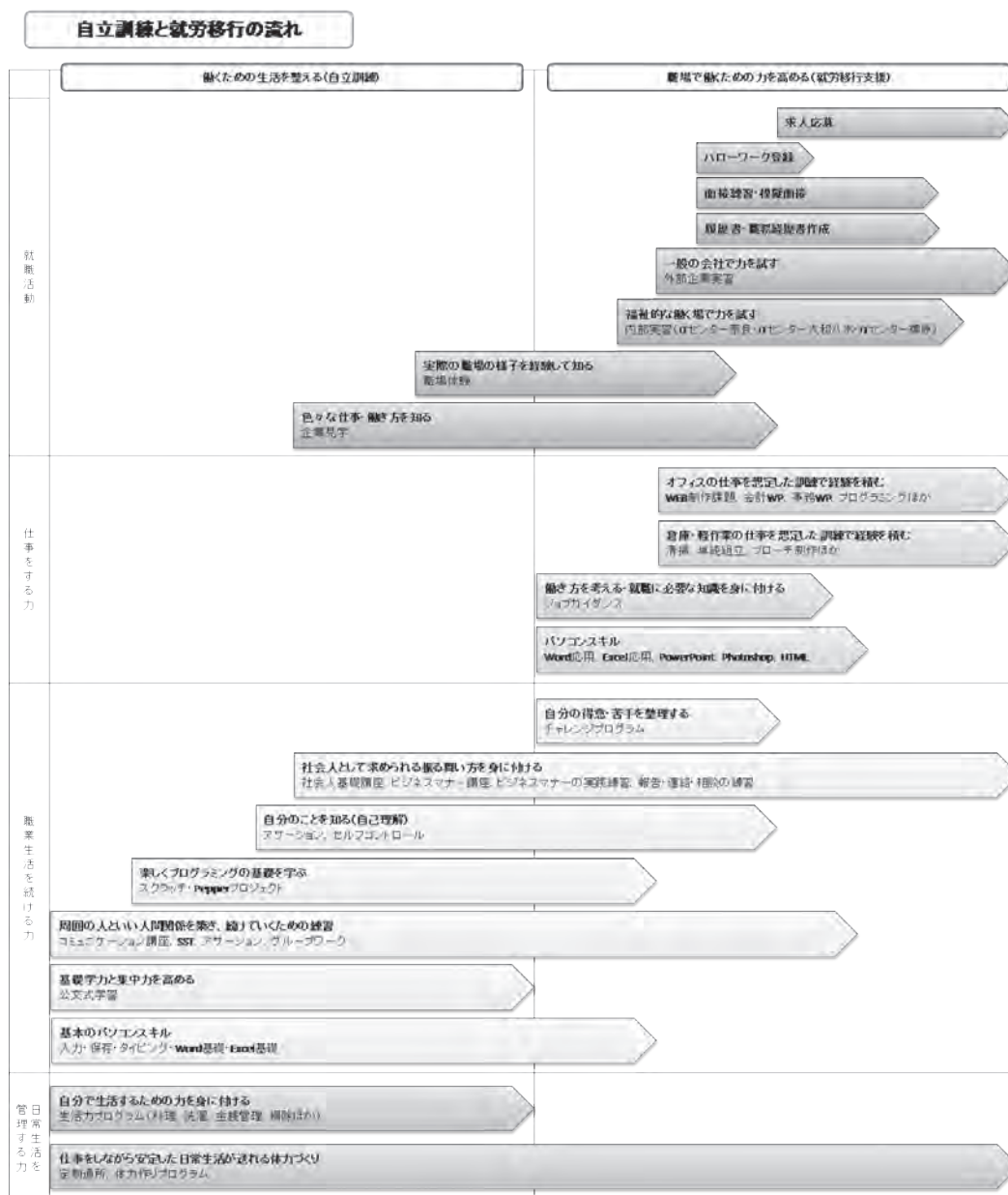
いて整理し、役割を明確にした方がいいのではないかという意見が出てきました。その上でカリキュラムの再構築を行うこと、運用ルールを定めて事業所独自の形に変容しないよう管理体制を作ることを決めました。

同時に、それぞれの訓練について、事業所合同でできるものは実施するという方針が出てきました。大和八木・榛原は中南和チームとして、生駒・高の原・新大宮は北和チームとして取り組むものです。これには利用者が他事業所を訪問する練習になるということ、職員の負担を軽減できるというメリットがあります。中南和チームはすでにビジネスマナー講座とチャレンジプログラムを合同実施していたため、北和チームでは平成29年度4月の実施を目標に設定して準備を進めてきました。

4 成果と反省

平成28年度は、自立訓練・就労移行支援・就労継続支援の流れの見直しと、おおまかな役割を整理しました。自立訓練ができたことにより就労移行支援にいつそう就労に特化した訓練ができるようになったことをふまえ、法人内部の働く場実習について、実習可能な利用者は早期から実践経験を積むことができる仕組みを作る、ということを大きな流れに定めました。

また、訓練の場である自立訓練と就労移行支援の流れと役割をわかりやすくするための図を作成しました。就職準備性の図に対応させ、どの訓練を・どんな目的で・いつ行うのかを可視化しています。利用者一人ひとりの取り組みについて、何のために訓練しているのかが一目でわかるようになっていきます。



また、個々の訓練カリキュラムを作る前に運用ルールを定めました。各事業所は所長の管理のもとルールにのっとりプログラムを実施することとし、内容の改訂についてはWGに提案し、WGや研究開発委員会で検討することとしました。これにより、各事業所の判断で改修を行い徐々に独自のプログラムに変容していく、という事態を防ぐことができます。改訂の手順はフローチャートを作成し図示化しました。

北和3事業所での合同講座実施を目指し、まず訓練内容が統一しやすいジョブガイダンスを

実施することにしました。これは平成29年4月から実施することになっています。

課題としては、活動内容が多岐に渡るゆえにPortなどの未着手の部分が残っていることが挙げられます。平成28年度は訓練カリキュラムについて重点的に取り組んできましたが、今後は他部署やWGと連携しながら就労支援システム全般の整理と改修を行い、体系化してマニュアルを作成していきます。平成29年度は支援者がバイブルとして使えるテキストの作成を目指し活動に取り組みます。

広報・宣伝検討ワークグループ

1 ビジョン

法人について、対象者に必要な内容が伝わる媒体を作り、運用できるようにする。

2 目標

- ・ ホームページを対象者別に閲覧することができるように、リニューアルする。
- ・ 広報、宣伝に使用されている媒体について、「誰に」「何を」伝えたいのかを整理する。
- ・ 平成 29 年度に向けて各媒体の管理、更新のルールを明確にする。

3 活動報告

法人内に存在する広報物の中で、まずはホームページを新しくすることから取りかかりました。法人内のさまざまな事業や取り組みが増えていく中で、それぞれの目的や意味を今まで以上にしっかりと伝わるようにする必要があると考えました。

法人のホームページを見た人が「知りたい」と思っている情報を、得ることが出来るようにするためにはどのようにすれば良いのかという視点で取り組んできました。

4 成果と課題

平成 28 年度は法人設立 10 周年という節目に当たり、福祉の歴史や法人のこれまでの歩みを知ること、これからの 10 年を職員全員で考えることを大きなテーマとして設定しました。成果として、通常の業務や現場ではなかなか知ることのできない、今の取り組みの背景や法人が

目指していることを共有する非常に良い機会になりました。また、今ある仕組みを回すだけでなく、地域のこと、これからの福祉や法人のことを考え、職員それぞれが主体的になって事業運営や今後の事業展開に関わる土台ができたと考えています。

研修検討ワークグループ

1 ビジョン

研修検討 WG では、「福祉事業」「就労事業」「法人経営」に必要なスキル・経験を得て、職員一人一人が成長できる仕組みを作ることをビジョンとしています。具体的には、福祉の専門家として、利用者が「地域で生き生きと働き、生活すること」を支援する力をつけること、福祉制度・支援方法などを深く理解し、自信を持って支援できるようになることです。

平成 28 年度の目標は、ぶろぼのの理念や活動内容を理解し、自ら発信・活動することができ、人材を育むことです。年間の研修のテーマは、「ぶろぼのを知り、ぶろぼの職員としての意識・誇りを持ってもらう」「他の福祉事業を知り、視野を広げる。福祉職員として自信を持って支援できるようになる」です。

2 活動内容

1. 全体研修（ぶろぼの研修）

総合職員全員を対象に、「ぶろぼのを知る」「福祉制度を知る」をテーマに実施しました。月 1 回、毎週金曜日の 16:45～19:15 の時間です。

月	研修テーマ
4 月	平成 27 年度の成果と反省・平成 28 年度の事業計画
5 月	支援記録の書き方、計画相談について
6 月	カメラ講座
7 月	福祉の変遷についての講義、地域資源マップ作成
8 月	課題作文「ぶろぼのでやりたいこと」
9 月	メンタルヘルス
10 月	ぶろぼのの変遷
11 月	上半期の事業報告
12 月	夏の課題発表／これからの 10 年を考える
1 月	就労支援フォーラム報告／平成 29 年度方針共有
2 月	面談技法
3 月	先進事例見学報告

2. 内部交換研修

平成 29 年 1 月～3 月にかけて、法人内部の事業所で交換研修を実施しました。主に 2 年目～3 年目の職員が、配属先とは違う業務を体験しました。

目的は他事業を体験することで、法人全体のことを考える力と他から学び自分の事業をより良くする力をつけることです。

3. 外部交換研修

平成 29 年 2 月～3 月に、大阪にある NPO 法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク様 (以下、JSN) との交換研修を実施しました。主に 3～5 年目の職員を対象にしており、今回は管理職又はこれから管理職を担う職員が主に参加しています。

目的は、他の法人の取り組みや目指すことを知り、これからの事業運営、法人全体の取り組みに活かすことです。また、各参加者の課題を設定し、基礎的なことを学ぶ研修としても位置付けています。

4. 研修の体系化

職員研修の体系化を目指し、職員の評価項目の設定や研修体制・内容の整備に取り組みました。初年度である平成 28 年度は、福祉施設における研

修担当者講習で研修に必要なことや体制について学び、平成 29 年度には研修推進計画を策定することにつなげます。

3 成果と課題

平成 28 年度は法人設立 10 周年という節目に当たり、福祉の歴史や法人のこれまでの歩みを知ること、これからの 10 年を職員全員で考えることを大きなテーマとして設定しました。成果として、通常の業務や現場ではなかなか知ることのできない、今の取り組みの背

景や法人が目指していることを共有する非常に良い機会になりました。また、今ある仕組みを回すだけでなく、地域のこと、これからの福祉や法人のことを考え、職員それぞれが主体的になって事業運営や今後の事業展開に関わる土台ができたと考えています。

先進事例検討・働き方検討ワークショップ

1 ビジョン

障がいのある人が地域で自立した生活を送るために必要な障害福祉サービスのあり方について、先進事例の検討を踏まえて改善提案を行っていきます。その際、並行してぶろぼのの業務改善につながる提案ができるよう、先進的な事業所の事業運営方法についても調査・検討します。

2 活動内容

NPO法人み・らいず様（移動支援、若者支援、被災地支援など）、社会福祉法人グロー自立訓練ジョブカレ様（高機能自閉症を対象とした宿泊型・通所型自立訓練）の見学を実施しました。各法人の特色ある活動についてぶろぼの研修で報告しました。また、就労支援フォーラムに参加し、全国的な就労支援事業所とのネットワーク作りに取り組みました。各地方の特色ある取り組みや視点についてはぶろぼの研修で報告しました。

さらに、就労支援チェックリストを各事業所単位でつけ、法人としての強み、弱みについて検討しました。ぶろぼの就労移行事業所の職員業務に係る時間について調査し、業務の標準時間について検討しました。



3 成果と課題

制度を活用しながら、また制度以外の分野でも支援を展開している先進事例に触れ、法人のこれからの10年をどのような視点で作っていくかについて示唆が得られました。現在の利用者については、就職後の生活支援、老後の介護事業について、また、不登校、ひきこもり、生活困窮者などの社会的弱者に対してぶろぼのが取り組んでいくべき支援について、事業所見学で他事業所の取り組みお話をうかがいながら今後さらに検討していく必要があります。NPO法人み・らいず様、社会福祉法人グロー自立訓練ジョブカレ様の見学を通じ、地域課題に

ついてどのような仕組みで解決をしているかについては検討しましたが、奈良の現状を踏まえ、ぶろぼのの支援にどのように生かすかについてはまだ検討できていません。平成29年度は各事業所の見学報告に加えて事業の先進性についてまとめてデータベース化していく予定です。

就労支援フォーラムへ参加し、全国の就労支援の中でのぶろぼのの位置づけや取り組みの特徴を再認識しました。今後も全国的な就労支援のネットワーク作りと、各地域に密着した支援機関のネットワーク作

りを意識して、情報収集していきます。また、生活困窮者、社会的養護など就労支援の周辺分野や福祉以外のワークライフバランスなどの働き方についても情報収集していきます。

就労支援フォーラムで取り上げられた「就労支援チェックリスト」を自法人についてチェックし、平均値を算定しました。中長期目標設定、業界動向の把握、企業開拓、企業支援、定着支援の手順の明確化といっ

た視点について、平成 29 年度は先駆的な取り組みや事業所について情報収集し、改善提案につなげていきたいです。

宿泊型自立訓練ジョブカレ様の見学を実施し、ぶろぼのが提供するグループホームや生活支援のあり方について、今後も検討が必要と考えます。「働き続けながら幸せに生活する」ための支援について、就労支援の枠を超えて支援サービスを提供していく必要があります。

マテリアルチーム

1 ビジョン

第 4 次産業改革で、C S や S T E M 教育が重視されるようになり、プログラミング教育が日本でも初等中等教育への導入が非常に盛んになり、学習内容は高度複雑化し、障がい児と健常児との教育格差がますます拡大する可能性がある。

ぶろぼのでは、近い将来社会が大きく変化していく中で、障がいのある方へのキャリア教育の機会を形にしていく為、3 つの柱を軸に

取り組みます。

実践や体験を主とし、得た知識を各個人が総合的に体系化できる教育が、障がいのある方のプログラミング教育の実践で、地方の活性化の大きな起爆剤になる事を期待しています。

組織にとって、これらの能力を育成する土壌を創造することは将来を支える人材の育成、グローバル化する社会情勢を考える上で重要です。

◎ 3 本の柱

- ・ 未来の社会に必要な「仕事」を生み出す。(就労事業でのプログラミング制御事業など)
- ・ 未来の社会に必要な「人材」を生み出す。(スコラ・移行・自立でのプログラミング教育事業)
- ・ 未来の社会に必要な「構造」を生み出す。(障がいのある方の新しい働き方の創造)

2 目標

プログラミングキャリア教育・新技術開発研究の、2 つに分類し活動を行う。

プログラミングキャリア教育は、自立、スコラ事業で導入実績を作り、新技術開発研究は、S T E M 教育を活かしたイベントを拡大、Pepper / kintone の業務での活用実績を作る。

3 活動報告



- ・子ども夢基金補助事業により、プログラミング教材約10万円分を調達しました。
- ・プログラミング教室事業を実施しました。 スコラ8回 教育大付中連携2回 その他2回
→スコラテキストに「ぷろグラミング」の科目を導入しました。
- ・ソフトバンク社ソーシャルチャレンジ優秀賞を受賞し、躯体10台を調達しました。
- ・補助金申請を4件、申請しました。(うち1件不採択、3件審査中)
- ・外部団体との連携が強まり、平成29年度の連携体制を整えることができました。

◎奈良教育大学附属中学校科学部

教諭 葉山泰三先生

◎合同会社つながり

代表 齊藤 晃氏

◎Code For Nara

代表 石塚康司氏、他メンバーの皆さん

◎ぶろぼの評議員

西辻氏、日置氏

◎株式会社アーテック様、オージス総研様 他

3 Rセンターの新規事業やソフトバンク社との連携事業等、活動の規模が大きくなりました。反面、ワーキンググループとしての活動が行いにくく、平成29年度はマテリアルチームの概念の整理とWGの役割を明確化する必要があります。

4 成果と反省

プログラミングキャリア教育

ソフトバンクグループ株式会社が Pepper を非営利団体などに3年間無償で貸し出すことで社会課題の解決を支援する「Pepper 社会貢献プログラム ソーシャルチャレンジ」を実施され、企画を応募したところ優秀賞を頂く事

ができました。

大宮スコラ・アースカラーズで試験的運用が進み、カリキュラム取扱いが概ね整いましたが、事業所とのブラッシュアップが不十分であり検討の機会を増やす必要がありました。

新技術開発研究

発展途上国へパソコン寄贈するプロジェクトにおいて、寄贈先の電力事情が悪くパソコンを使用しにくい環境であることが分かり中古ソーラーパネルを再生できないか事業化を検討していました。日本国内では10年でパネルの耐久年数との事で入替えられていますが、廃棄処理

方法が国の方でも定めておらず割って破棄されている事がわかりました。しかし、海外製の場合だと製造させる過程で人体に有害な物質が含まれている場合がある事がわかり、再生事業を断念する事になりました。

平成 29 年度に向けて

ソフトバンクグループ株式会社より10台の Pepper が寄贈される事となりました。社会課題解決に役立てる事をテーマにしたハッカソン、行政や文化施設と連携しながらの世界的文化遺産をPRするアプリ、大学と連携した障がいのある方のヒアリング補助アプリ、開発を障がいのある方が関わることで新たな仕事の創造や雇用につなげる事業を計画しています。

また、2年後以降の計画に新たな働く場として事業展開を目標に、IoT技術の活用を中心に研究を行います。

*経済産業省、厚生労働省は「平成29年度介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業」を公表しており、要介護者の自立促進や介護従事者の負担軽減などロボット介護機器の新たな市場を促進するなど、今後第4次産業の市場発展が大いに見込めると考えられます。

※経済産業省 引用

(http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/robot/)

VIII 地域貢献活動の事業

平成 28 年度 主な地域貢献活動

1 障がい福祉活動

Design@Communities Award 2017 の大賞を受賞

Design@Communities（以下、D@C）Award 2017 に、地域をデザインするテーマで社会福祉法人ぶろぼのが参加している「あたつく組合」の取り組みについて応募。大賞を受賞しました。

提案プロジェクトは、行政などからの受注業務遂行のために「都度、福祉施設＋NPO＋企業で共同体をつくり対応し、そこに障がいのある方の働

く場をつくる仕組みづくりに特徴があり、それを可能にする、中小企業・NPO・就労者が連携するための異業種企業参加の事業協同組合としての活動が組織化されていることが高く評価されました。今後、当 D@C の支援もいただきながら、この活動を実のあるものにしていきたいと考えています。

2 地域貢献活動

自治会活動への参加

地元地域の自治会との繋がりから、いろいろな関わりを持たせていただいています。お祭りへの催し参加、広報やチラシの組み綴りからポスティング、公民館主催のパソコン教室との連携等々。地域のお祭りは、訓練生が住民の方と触れ合う大切な機会となっています。



クリーン活動

新大宮事業所では、奈良市が市民と連携する取り組み「さわやかクリーン奈良」に参加。毎月、ホテル日航奈良様横の花壇の手入れや道路のゴミ拾いを行いました。

生駒事業所では、事業所前の「まちなかふろーらむ」と呼ばれる花壇の管理を生駒市から受託し、草引きや苗の植え替え等を行いました。生駒市「花と緑の景観まちづくりコンテスト」においては、審査員奨励賞を受賞しました。



なら風パソコン教室

地域にお住いのシニアの方、子育て中の方、障がいのある方を対象に、パソコン教室を実施しました。

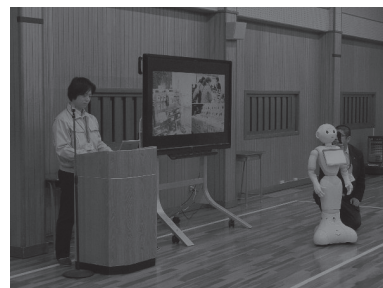
この教室は、NPO法人奈良シニアIT振興会（POAY）様と協働開催しています。POAY様では、シニアのPC指導者の活躍の場が生まれ、ぷろぼのでは、障がい者が指導補助として就労訓練の場が生まれ、地域にはPCを気軽に学ぶ場が生まれています。



奈良教育大学附属中学校の障害理解講座

12月、奈良教育大学附属中学校の障害理解講座に招かれ、ぷろぼの3Rセンターの事業報告を行いました。

スタッフ2名と一緒に登壇したPepperに、中学1年生の生徒さん155人が、大喜びの中、とても楽しく有意義な時間を共有できました。



ロボット・プログラミング教室開催

2月、奈良教育大学附属中学校の科学部の生徒さんと連携して、「ロボット・プログラミング体験教室」を開催しました。地元の小学生と中学生の学びあいによる交流ができた楽しいイベントでした。

田崎飛鳥絵画展開催

東日本大震災から6年を迎えた3月。記憶と祈りをこめて岩手県陸前高田市を描く田崎飛鳥さんの絵画展を開催しました。「田崎飛鳥絵画展」を奈良で実現する会様との共催で、ぷろぼの福祉ビルのセミナールームで実施しました。また、同時に、「ぷろぼの+ Photo展」も開催し、地域の方々に楽しんでいただきました。



3 企業団体連携活動

PC 寄贈活動オーグス総研様との連携

福祉 3 R センター事業では、オーグス総研様より企業で使われなくなったパソコンを再生し、福祉団体や東北被災者へ寄贈していく社会貢献活動「はじまるくん」プログラムに参加させていただいています。

平成 28 年度も、奈良県内・大阪府内の福祉施設に寄贈させていただきました。



PC 寄贈活動～ Class for Everyone 様との連携～

NPO 法人 Class for Everyone 様（以下、CFE 様）の「途上国への平等な教育機会を」という方針に賛同し、連携させていただき、2 年目を迎えた平成 28 年度も”パソコンリユース海外寄贈イベント”を開催しました。

小中高生とご家族の皆さん、奈良教育大付属中学校の先生や生徒の皆さんにご参加をいただき、14 台のノート型パソコンを再生しました。再生パソコンは、CFE 様を通じてパプアニューギニアの子ども達のもとに届けられました。



ソフトバンク社「ソーシャルチャレンジ」に参加

ソフトバンク社様のソーシャル活動「ソーシャルチャレンジ」に参加することが決まり、活動に利活用するため、Pepper を 10 台を貸与いただきました。

Pepper を活用した社会課題解決事業や障がい者就労づくりに 3 年かけてチャレンジしていきます。



Ⅸ 利用者の意識調査

平成 28 年度利用に関するアンケート 就労移行支援

ぷろぼのでは、訓練及び支援内容の評価と改善を目的に、平成 24 年度より利用者アンケートを実施しています。平成 28 年度の取り組みについて、アンケートで利用者みなさんから評価をいただきました。今後の訓練・支援の改善に活用していきます。

◆実施概要

実施期間は平成 29 年 2 月 13 日～2 月 17 日で、平成 29 年 2 月 1 日時点の状況を基に回答していただきました。実施対象は、平成 29 年 2 月 1 日時点で各事業所において就労移行支援サービスを利用している方です。

在籍者 101 名の内 89 名が回答し、回収率は 88%となりました。各事業所の内訳は、生駒事業所では在籍者 24 名の内 18 名が回答し、高の原事業所では在籍者 26 名の内 24 名が回答、新大宮事業所では在籍者 19 名の内 19 名が回答、大和八木事業所では在籍者 29 名の内 26 名が回答されました。また、平成 28 年度に開所した榛原事

業所では、在籍者 3 名の内 2 名が回答されました。

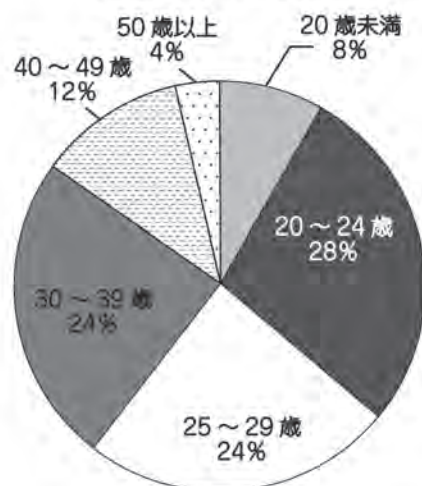
アンケート項目は、訓練・支援についての質問を 7 問、生活状況等についての質問を 3 問、その他ぷろぼのへの要望を 3 問で設定しました。基本的に集団実施とし、利用者の理解度や訓練スケジュールに合わせ、一部個人での実施を行いました。基本属性については、平成 27 年度までアンケート項目として設定し、回答者による記述を基に集計していましたが、平成 28 年度はアンケートからは削除し、利用開始時の聞き取りを基に集計しました。

1 基本属性

(1) 年齢

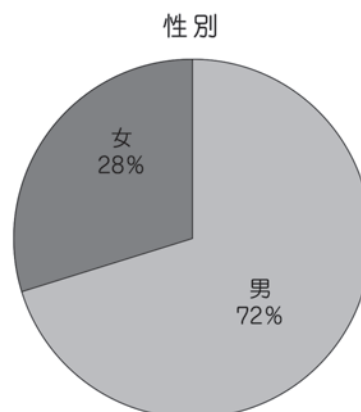
ぷろぼのには、幅広い年齢層の方が在籍しています。一番多いのは 20 代の方で、全体の 52%を占めており、平成 27 年度より増加しています。特に 10 代、20 代後半の利用者が増加しています。一方 30 代以上の方の利用は減少しています。

利用者の年齢分布



(2) 性別

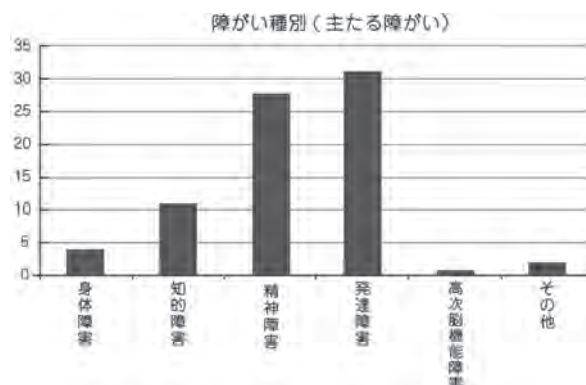
性別は、男性が72%、女性が28%で、男性の比率が高くなっています。



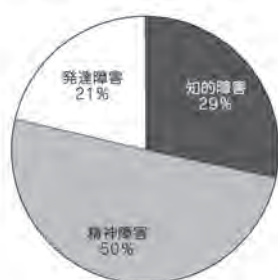
(3) 障害種別

主な障がいは、発達障害が一番多く、次いで精神障害、知的障害の順となりました。このうち8%（7名）の方が重複した障がいがあり、具体的には、発達障害と知的障害の重複や、精神障害と発達障害のある方等がいます。

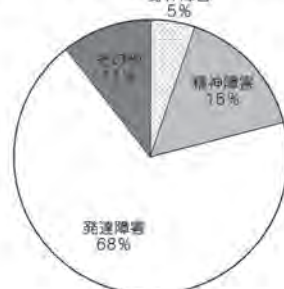
事業所別にみると、生駒事業所では精神障害の割合が大きく、全事業所の中で最も割合が高くなっています。高の原事業所・大和八木事業所では発達障害と精神障害の割合が多く、それぞれ約8割、約9割を占めています。新大宮事業所は発達障害で約7割と高くなっています。榛原事業所は3名全員が精神障害の方でした。



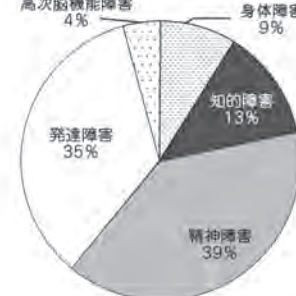
障がい種別（主たる障がい） 生駒事業所



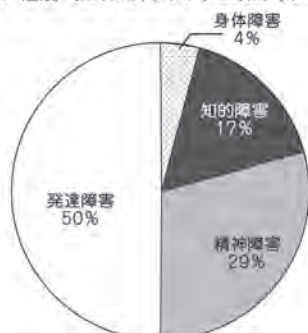
障がい種別（主たる障がい） 新大宮事業所



障がい種別（主たる障がい） 高の原事業所



障がい種別（主たる障がい） 大和八木事業所



障がい種別（主たる障がい） 榛原事業所

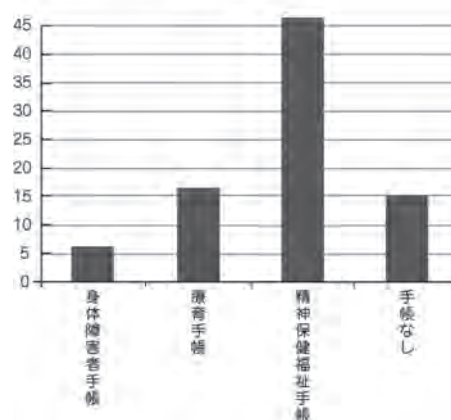


(4) 障害者手帳

手帳については、精神障害のある利用者の多さから、精神障害者福祉手帳を保持している方が多いです。また、発達障害のある利用者へ同手帳が交付されることも多いです。手帳のない方は平成 27 年度、同様一定数おられます(15名)。その背景として、これまでは支援機関を経由し、手帳を取得されてからの利用が多かったのですが、平成 28 年は特に 20 代の利用が多く診断後半年から 1 年以内で利用につながる方が増え、手帳取得は利用と並行して行う方が増えたことも一因です。

これまでも、手帳未取得者も利用開始後に職業相談をする中で手帳を申請することもあります。障害者雇用を目指す場合には、手帳を取得することも選択肢の一つとして考えられることなどの情報提供も行います。

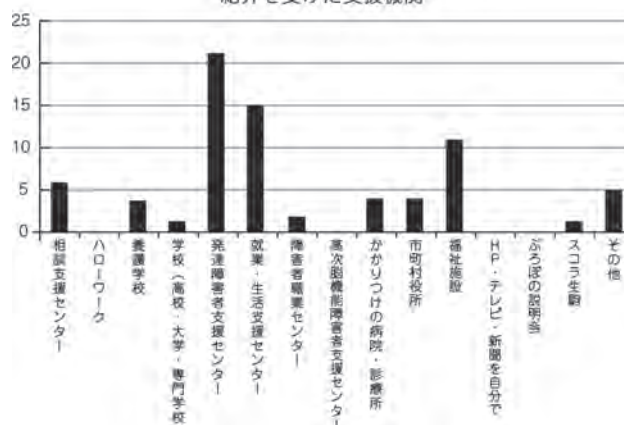
保持する手帳の種類



(5) ぷろぼの利用時の紹介機関

ぷろぼの利用するにあたって、紹介を受けた支援機関は、「発達障害者支援センター」が最も多く、次いで「就業・生活支援センター」が多くなっています。背景として、高の原事業所を中心に京都府内の「就業・生活支援センター」「発達障害者支援センター」からの紹介が増えたことも一因と考えられます。他にも相談支援センターや福祉施設などからも紹介を受けています。

紹介を受けた支援機関

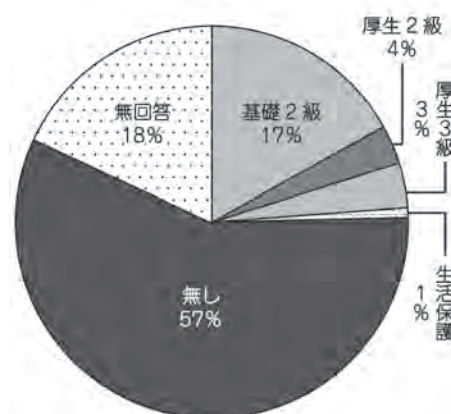


(6) 障害年金の受給有無

障害年金については、障害基礎年金や障害厚生年金を受給されている方が全体の 24%で、平成 27 年度より少なくなっています。一方で、年金を自給していない方が無回答を含め 70%いました。障害年金の受給要件に合わずに受給が難しい方もいれば、年金の申請を考えたことがない方もおり、情報提供が必要と考えられます。

20 代の利用者が多いため、金銭管理を家族が行っている場合も含め、生活上の不安を抱えている方も多くいます。障害年金を受給できれば、収入と年金を併せた生活設計が可能となり、短時間勤務や福祉的就労など障害の状況と合わせた就労も検討できます。より早い時期から、受給に関

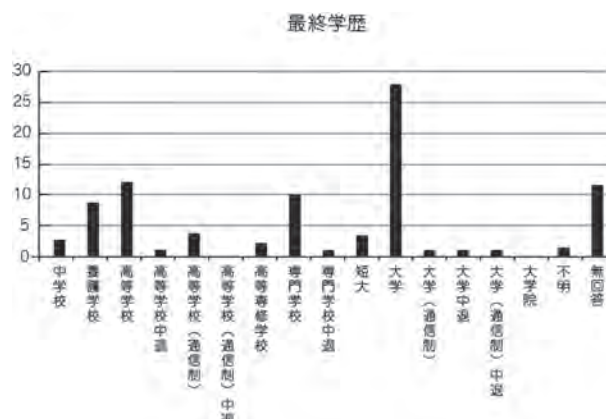
年金他



する情報提供や相談を進めていくことが必要と考えられます。

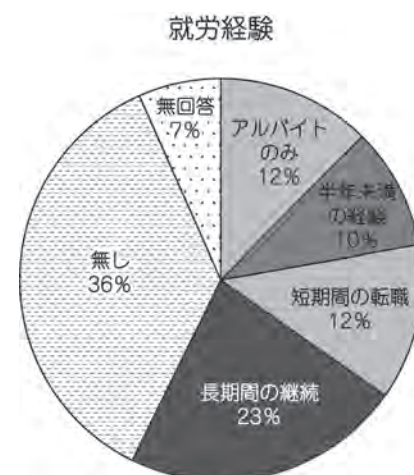
(7) 最終学歴

学歴としては、四年制大学卒業が最も多く 31% (28 名) でした。続いて高等学校卒業 (単位制含む) が 18% (16 名)、専門学校・短大卒業が 16% (14 名)、養護学校高等部及び高等養護学校を卒業が 10% (9 名) と続いています。



(8) 就労経験

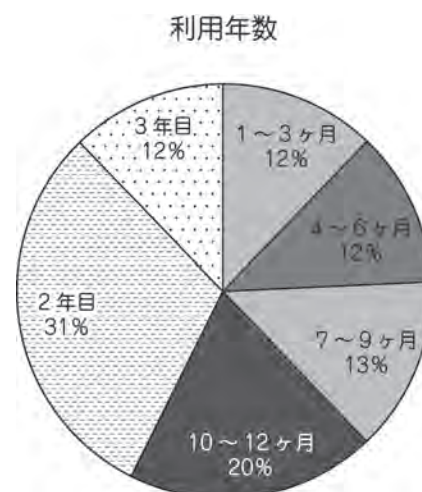
就労経験については、全く就労経験のない方も 32 名 (36%) と平成 27 年度より増加していました。20 代で就労をする前に利用されている方が多いことがわかります。51 名 (57%) が「あり」と回答しました。ただし、この中には短期間のアルバイト経験も含んでいます。



2 訓練・支援

(1) 利用年数

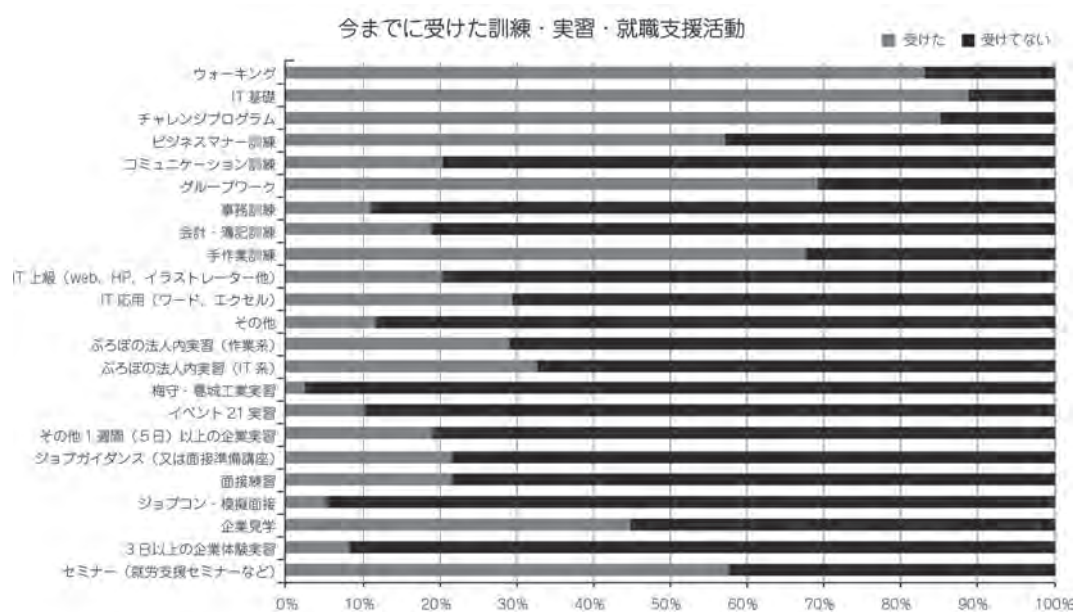
対象者の利用年数は、1 年目が 53%、2 年目が 28%、3 年目 11%となっています。無回答が多いものの平成 27 年同様の構成比となっています。



(2) 参加した訓練

基礎訓練である「IT基礎」「チャレンジプログラム」にはほとんどの方が参加しています。また、各事業所で基礎的な生活習慣及び体力づくりになる「ウォーキング」も参加割合が高いです。「手作業訓練」や「グループワーク」、「ビジネスマナー訓練」も各事業所で取り組んでおり、6割程度が参加しています。

コミュニケーション訓練、事務作業訓練や3日以下の企業実習の参加者が減り、法人内実習（作業系）（IT系）の参加者や1週間以上の企業実習が増えています。応用訓練を事業所で行うよりも積極的に実習へ定期的に送り出していることがわかります。

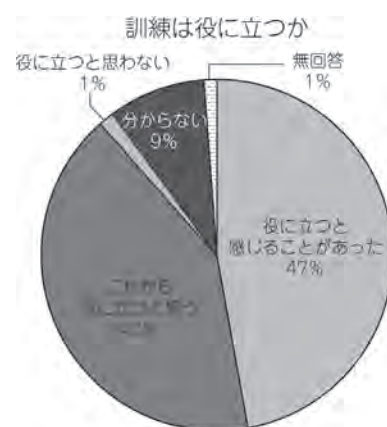


(3) 訓練の評価

訓練の効果について、「役に立つと感じることがあった」と「これから役に立つと思う」と答えた方は合わせ 89%でした。具体的には、「役に立つと感じることがあった」と答えた方は 47%となっており、訓練で学んだことを別の場面で役に立つと感じることがあるようです。

「これから役に立つと思う」と答えた方は 42%です。今後役に立つと思う理由としては、ビジネスマナーやパソコンスキル、生活リズムの改善など、就労上の課題が改善されたことや、訓練を通じて就労に向かっているという実感を得ることができるといことが挙げられました。

「役に立つと思わない」と回答した方は 1名 (1%) で、その理由として、記憶に残っていないのでわからないことを挙げていました。「分からない・無回答」と回答した方は 10%でした。職種もイメージできないので判断できないためや「やってみないと分からないと思う」という回答があり、障がい特性から経験していないことはイメージしづらいためと考えられます。平成 27 年度も「分からない」と回答した方は 11%とほぼ同じ割合でした。



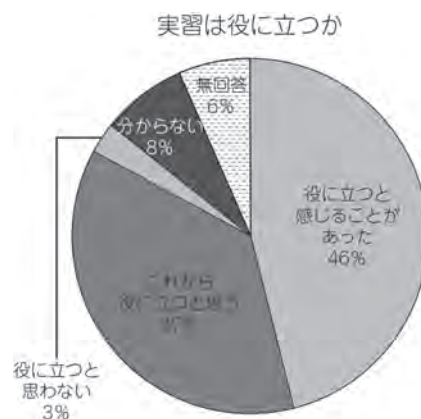
利用開始時には「分からない」と感じる傾向が高く、訓練が進む中で役に立つことを実感する機会が増えるため、「役に立つ」と回答する方も増えると考えられます。

(4) 実習の評価

実習について、「役に立つと思う・実感した」と答えた方は合わせて83%でした。平成27年より10ポイント高くなっています。具体的には、「役に立つと実感した」と回答した方は46%で平成27年より高く、実習に行く場面が増えたためと考えられます。「今後役に立つと思う」と答えた方は37%でした。理由としては、自分の今の力・状態が客観的に分かることや、職場に近い環境・雰囲気体験できることがよいという意見もありました。

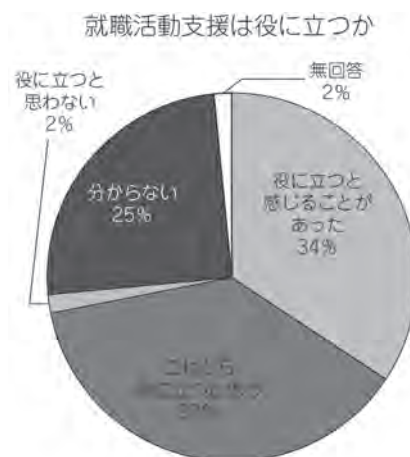
「役に立つと思わない」と回答した方は3%で、その理由としては、作業として疲れてしまった、よく覚えていないという意見が挙げられました。

また、「分からない」と回答した方は8%と平成27年度より減りました。その理由を実際に就職する時の仕事内容と同じか分からないためと回答しています。実習の機会を増やし、事前に目的や意味を十分説明して取り組んでいった一定の成果が出たと考えられます。



(5) 就職活動の評価

就職活動について、「役に立つと思う・実感した」と答えた方は合わせて71%でした。具体的には、「役に立つと実感した」と答えた方は34%となっており、「今後役に立つと思う」と答えた方は37%でした。今後役に立つと思う理由としては、就職支援セミナーを通じて、就職活動や生活に必要な知識を得ることができたことを挙げていました。また面接練習の機会を得たことなど、就職活動の具体的な支援が役に立つと挙げられていました。「役に立つと思わない」と言う方も2%おり、「何をしたら覚えていないから」と答えていました。「分からない」と回答した方は25%おり、平成27年度より増加しました。まだ講座等を受けていないので、就職活動を始めていない中で実際の就職活動に役立つかどうか分からないことを挙げています。



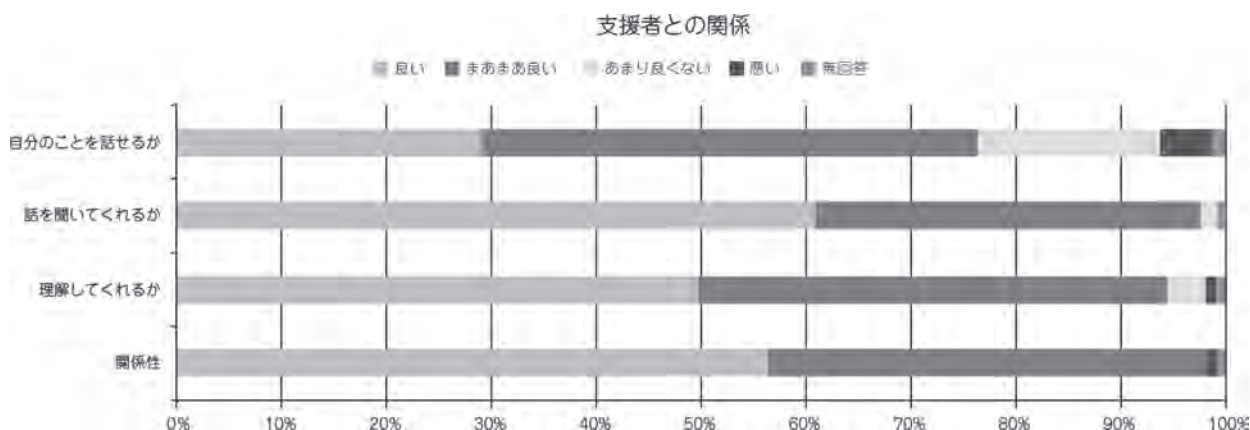
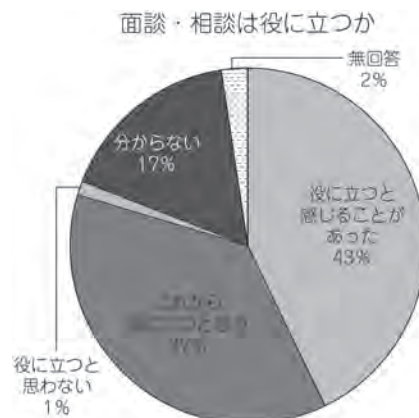
(6) 面談・相談の評価

面談・相談について、「役に立つと思う・実感した」と答えた方は合わせて80%と平成27年度より10ポイント増加しました。

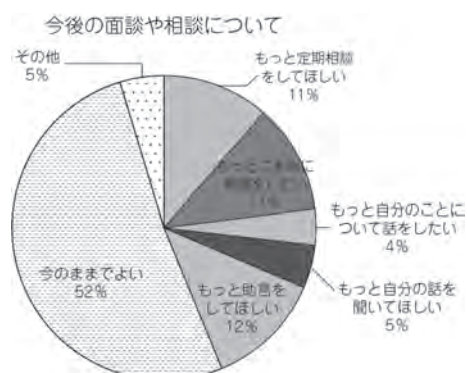
具体的には、「役に立つと実感した」と答えた方は43%で、面談を通じて自分の状況や課題を整理できたことや、問題となる状況に陥った時に客観的で適切なアドバイスをもらったことを理由として挙げていました。

「今後役に立つと思う」と答えた方は37%でした。理由としては、就職に関する情報提供やアドバイスをもらったことや、面談で整理したことや分かったことが就職する時に役に立つと思うことが挙げられました。

「役に立つと思わない」と答えた方は1%（1名）で、その理由として役所に書類を出すための定期面談しかしていないことを挙げていました。また「分からない」と回答した方は17%で、その理由としては、利用期間が短くまだ面談の機会が少ないことや、就労に向けての相談が始まっていないことが挙げられました。理由の回答がない人も数名いました。



支援者との関係について、関係性が良いかどうか、自分のことを理解してくれるかどうか、よく話を聞いてくれるかどうか、自分のことを良く話せるかどうか、の4点について尋ねました。上記3項目については良い、まあまあ良いを合わせると約90%以上の利用者から概ね良い評価を得ています。一方、自分のことを話せるか、については、あまり話せない・話せないの割合が24%（21人）と一定数ありました。今後の面談や相談についての希望は、「今のままでよい」が52%と半数を占め、平成27年よりも割合が大幅に増加しました。「もっと助言をしてほしい」が平成27年（21%）から12%と減り、必要な場面で助言ができていることがうかがえます。



(7) 必要な訓練・支援

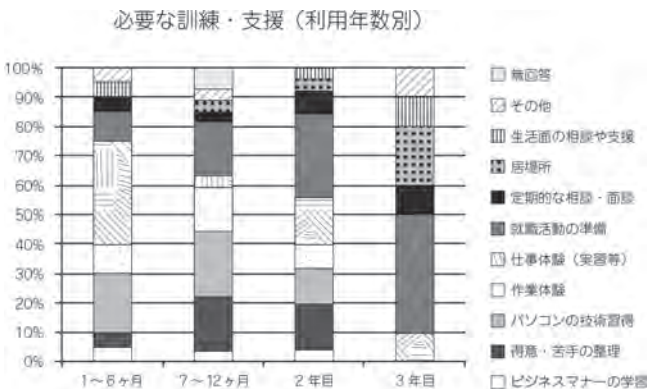
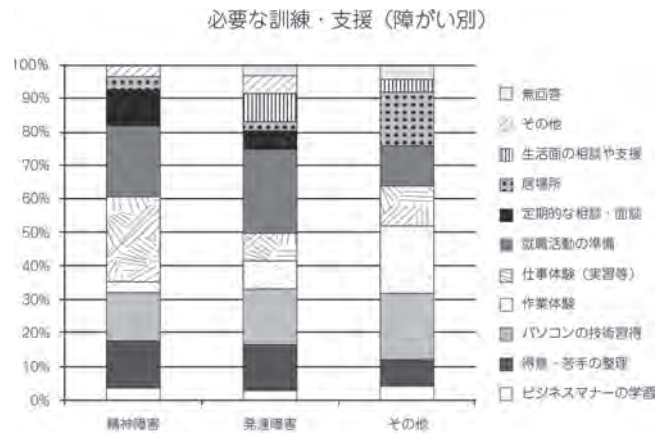
今自分に一番必要だと思う訓練・支援を1つ回答してもらったところ、次のような結果となりました。全体の傾向としては「就職活動の準備」が多く、「パソコンの技術習得」、「実習等の仕事体験」が次いで多くなっています。平成27年度に比べて仕事体験の割合が減っています。実習の充実を行ってきたためと考えられます。

障がい別にみると、精神障害のある方は「就職活動の準備」、2番目に「パソコンの技術習得」を挙げています。「パソコンの技術習得」の回答が多い理由は、資格やスキルが就職に有利だという考えを持つ方が多く、事務職を希望している方が多いのも理由として考えられます。

発達障害のある方も「パソコンの技術習得」と答える方が次に多く、「得意苦手の整理」と続きます。

背景として、就労経験のないまたは半年以内の経験の方が増えていることが考えられます。就労経験はあるが上手いかず、どの職業だと長く続くのか分からないため、パソコンスキルを付けることと得意苦手の整理をして仕事について考えたい方が多いと推測されます。

その他の障がいについては対象者の人数が少なく、今回は傾向の抽出はしませんでした。が、「パソコンの技術習得」、「作業体験」のニーズが高かったです。



利用年数別にみると、利用1～6ヶ月の方は、「仕事体験（実習）」を回答する人が多く、7～12ヶ月となるといったんパソコンの技術習得や得意・苦手の整理、就職活動の準備が多くなります。これは1年以内に実習に行く機会が増え、ふりかえりの中でパソコンスキルや得意・苦手の整理が課題として上がってくるためと考えられます。2年目、3年目になると「就職活動の準備」を選ぶ方が多い傾向にあります。

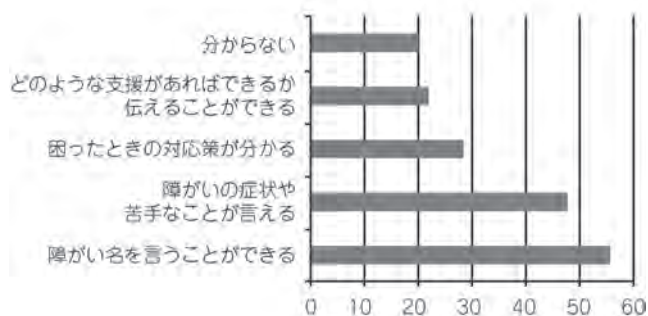
(8) 障がいの自己理解

障がいをオープンにして支援を受けながらの就労を目指す場合には、自分の障がいを理解し、必要な配慮点をきちんと相手に伝えられることは非常に重要なことです。

アンケートでは、平成 27 年同様に、多くの方が「障がい名を言うことができる」(56 名)や「障がいの症状や苦手なことが言える」(52 名)と回答しています。また、「困った時の対応策が分かる」と回答した方は 28 名(平成 27 年 37 名)、「どのような支援があればできるか伝えることができる」と回答した方は 20 名(平成 27 年 21 名)であり、「わからない」方も 20 名いました。

半数以上の方が『困った時の対応策』又は『必要な支援・配慮事項』が分からない状態であることが明らかになりました。平成 27 年度よりも答えられる人の数は減少しており、引き続き何らかの取り組みが必要と考えられます。

自分の障がい理解について



(9) その他要望・改善点

訓練や実習、就職活動支援、面談・相談に関する自由記述欄では、以下のような要望・改善点が挙げられました。

訓練	専門的な IT スキルや簿記などの力を身に付けるためのテキストや講座の整備／実務に近い訓練がしたい
実習	自分の希望職種に合わせた実習先を増やしてほしい／体験的に参加できる短期間の実習／近場の実習先／一般事務などの実習先
就職活動支援	希望職種の見学に行きたい／書類作成、面接練習を繰り返し教えてほしい／自分の障がいに合った働き方について相談したい
面接・相談	就職活動時には面談の機会を増やしてほしい／面談を希望してからできるだけ早くに時間をとってほしい

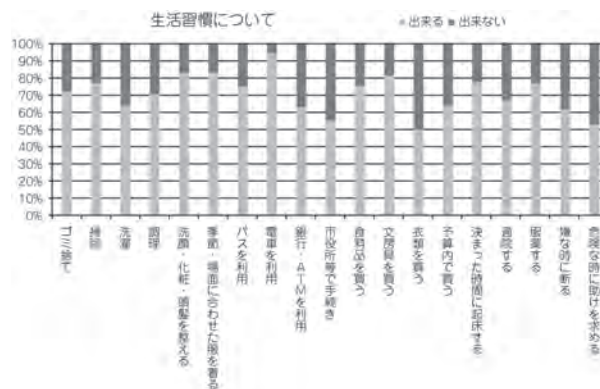
3 生活について

(1) 生活習慣

家事、身だしなみ、公共サービスの利用、買い物、健康管理、危機管理の 6 種類について、自分で、または支援サービスを利用してできることを回答してもらいました。

項目によってばらつきがありますが、どの項目も概ね 6 割以上の方が自分でできると回答しています。衣類の購入は経験が少ないため、選び方がわからないことが考えられます。危機管理の項目は、障がいに関

生活習慣について



係なく苦手・できないと感じる方も多いようです。

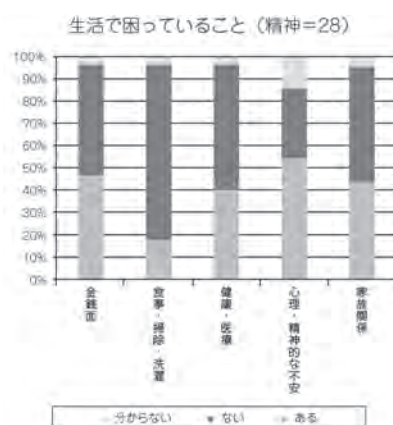
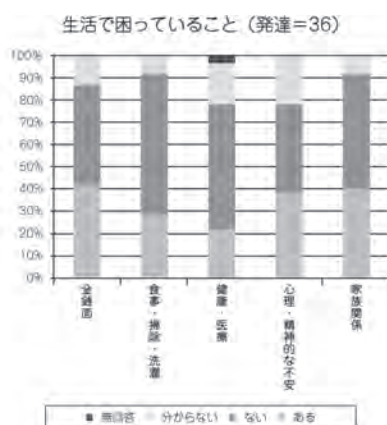
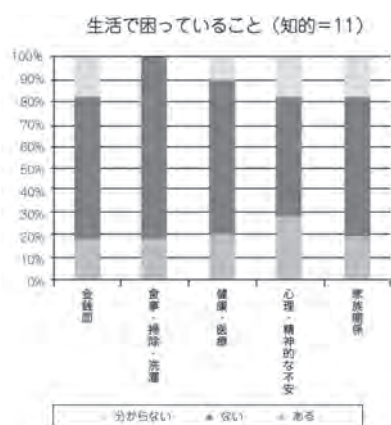
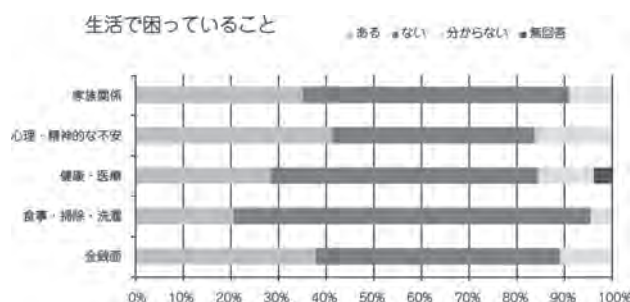
安定した就労生活において生活面の自立も課題となりますが、体験不足の方に対して、家事や買い物などの生活スキルを経験する機会を提供することも、訓練期又は就労後の生活におけるニーズ

として明らかになりました。危機管理の項目（嫌なことを断る・危険な時に助けを呼ぶ）については、就労生活に必要なスキルでもあり、訓練で取り組むとともに就職支援セミナーとして、情報提供をしています。

(2) 生活で困っていること

全体的には、何らかの困り感を抱えている方が多かったことから、就労に向けた訓練だけでなく、生活面の支援へのニーズも高いことが分かります。また、家族関係で困っていることが「ある」方が平成 27 年度に比べて増加しています。診断を受けてから期間が短く 20 代の方が多いので、自分の障がいのことや就職について、家族に打ち明けることが難しい可能性があります。逆に衣食住に関する困り感の割合は減少しています。

これは家族との同居などから困った状況に置かれていないことや、経験のない場面でイメージを持ちづらく、困ると予想しにくい特性もあると考えられます。



障がい別に見ると、精神障害のある方は、全体的に困り感が強い傾向にあります。特に心理・精神的な不安は精神障害の特性の一つと考えられます。発達障害や知的障害のある方は、家事（食事・掃除・清掃）についての困り感が

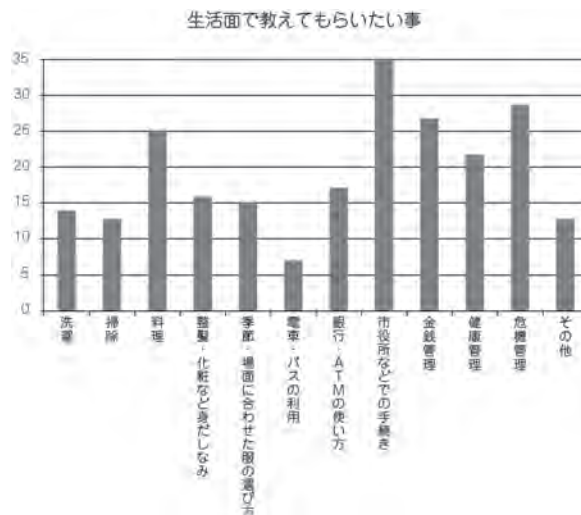
少ない傾向にあります。また、平成 27 年より家族関係の困り感が 10 ポイント程度上がっています。知的障害のある方では「困っていない」という回答が多く、困るという感覚の持ちづらさもあると考えられます。

(3) 生活面で教えてもらいたい事

生活面で教えてもらいたい事を尋ねると、「市役所などでの手続き」、「危機管理」を選ぶ方が多く、「金銭管理」、「料理」への回答が多かったです。「危機管理」については平成 27 年より回答数が減っており、就職支援セミナーなどで定期的に情報提供してきた成果が一定現れていると考えられます。「市役所などでの手続き」については、ぶろぼので初めて障害福祉サービスを利用する方が多く、窓口や手続きの手順が多いことが考えられます。障害者手帳やサービス受給者証の更新など、生活に必要な手続きについて情報提供し

たり、危機管理や金銭管理などについては、支援機関と連携しながら支援していく必要があります。

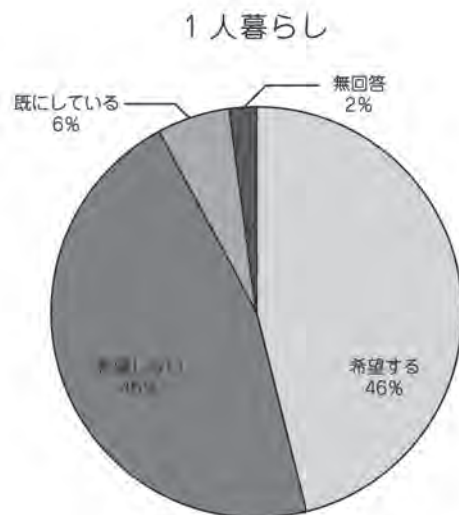
また料理についてはグループワークで取り組んでいる事業所もありますが、スキルだけでなく、栄養管理も含めた情報提供も行っていくことも検討できます。要望が多かったものについては、平成 29 年度に情報提供などの取り組みを検討します。



(4) 住まい

現在の生活体系は、92%の方が家族と同居しており、6%の方が一人暮らしをしています。一人暮らしについては、5名の方が「既になっている」と回答しています。また 41 名の方が「一人暮らししたい」と回答し、今後一人暮らしをすることを希望されていました。

「一人暮らしをしたい」と希望している方のうち 9 名が、「グループホームの案内があれば利用を相談したい」へ「はい」と回答していました。一人暮らしに向けて、家事・買い物等の生活習慣についての練習や支援へのニーズがあると考えられます。



4 その他

(1) イベントへの要望

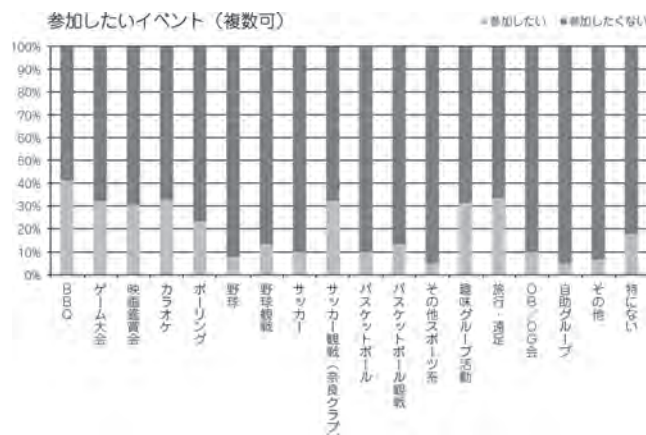
ぶろぼのでは現在、各事業所における余暇活動・イベントの他、全事業所を対象としたイベントも開催しています。

アンケートでは、「特にない」と答えた 17 名

以外の方が、何らかの余暇活動・イベントへ参加したいと回答していました。最も多かったのが B B Q で、次に、映画鑑賞会やカラオケ、ゲーム大会でした。これらは現在事業所のイベント

として行っています。また次に趣味グループ活動、サッカー観戦（奈良クラブ）、ボーリングが上がっていました。いただいたご意見を参考

にして、今後の余暇活動・イベントを企画していきます。



5 まとめ

平成 27 年度に引き続き、全体を通じてぷろぼのの提供している支援・訓練への「役に立っている」という満足度が高いことから、ぷろぼのの取り組みが、利用者みなさんのニーズに応じて実施されていると言えます。

具体的には、法人内実習に半年～1年の間に参加する体制ができてきたこと、外部実習の機会が増えたこと、面談・相談体制が綿密に取れるようになってきたことなど、働き続ける力を伸ばすための取り組みとして充実したことが挙げられます。

一方で、平成 27 年度同様就職者が少なかったことも傾向の一つです。理由として、ぷろぼの内での働く場（就労継続 A 型・B 型）における就労が充実し、定着したことから、A 型・B 型で支援を受けながら働くことが選択肢となったことが挙げられます。就労経験の少ない 20 代の利用者が増え、ニーズとして「就職活動の準備」を多く上げるなど就労意欲は高いものの、「働くとはどういうことか」など、より基礎的なところから講座と体験で訓練していく必要のある利用者が増えていることも考えられます。また、ぷろぼので働きたいと思って利用を

希望する方も増え、地域の中で魅力的な仕事や職場を作りだしていることを支援機関や利用者にも評価してもらっていると考えられます。

また、平成 28 年度のアンケートでは、新たな要望・改善点も挙げられました。

訓練としては、「専門的な IT スキルを丁寧に学びたい」「実務に近い訓練がしたい」「より高度なビジネスマナーを学びたい」など、応用的・実践的な訓練の要望があります。これらの要望は実習により対応できることであり、実習に関する要望（実習先を増やしてほしい／体験的に参加できる実習／早めに実習に行きたい）ともつながります。実習については、特に事務の仕事を希望する方も多く、内部実習での対応検討や事務の外部実習の開拓を今後も続けていく必要があります。

面談・相談については、必要時の面談は一定できており、より丁寧に利用者に関わっていることがわかります。働き続けるためには支援者や会社の方と面談、相談をしていくことが必要であるという認識が利用者の中に根付きつつあると言えるのではないのでしょうか。

これまで「就職したい」と思い、資格や技術

習得を目指して利用につながるが多かったですが、現在はぷろぼのの訓練・実習を通じて「働き続けることができるようになりたい」「自分に合う仕事がしたい」と思う方が利用につながるようになりました。そのため実習のニーズが増し、6 か月程度での実習参加を仕組みとして平成 28 年度は推し進めて参りました。今後は各事業所に在席する就労支援員を中心に、特

定の利用者を想定した実習の開拓を進めていく必要があります。マッチングのできる実習、就職をぷろぼのの強みにしていきたいと考えています。

いただいた評価や改善のご意見をもとに、平成 29 年度での対応を検討していきたいと思えます。ご協力をいただき、ありがとうございました。

平成28年度利用に関するアンケート 就労継続支援

平成28年度より就労継続支援A型・B型の利用者の方々を対象に、仕事や生活に関するアンケートを実施しました。アンケートの結果をもとに、障がい者の「はたらく場」の環境改善や生活の支援、就労移行での支援体制の充実に活用させていただきます。

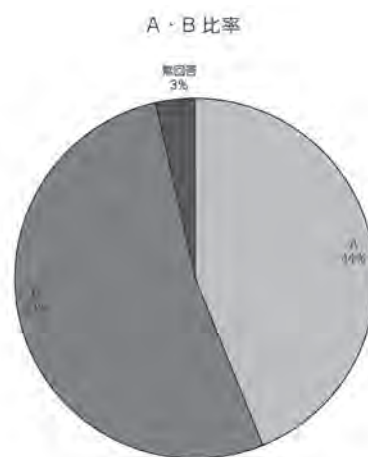
◆実施概要

実施期間は平成29年3月15日～3月31日で、平成29年3月1日時点の状況を基に回答していただきました。実施対象は、平成29年3月1日時点でITセンター奈良およびITセンター大和八木において就労継続支援A型サービスおよび就労継続支援B型サービスを利用している方です。

在籍者90名のうち57名が回答し、回収率は63%となりました。57名のサービス内訳は、就労継続支援A型利用者が25名、就労継続支援B型利用者が30名、無回答が2名です。

アンケート項目は、仕事についての質問を8問、就労移行支援在籍時に受けた訓練・

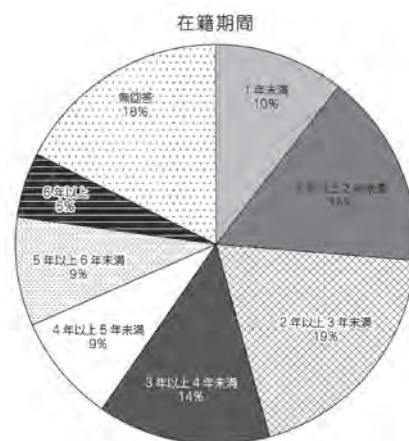
支援についての質問を2問、生活状況等についての質問を2問、その他の質問を3問で設定しました。基本的に個別に実施し、無記名で回答してもらいました。



1 仕事について

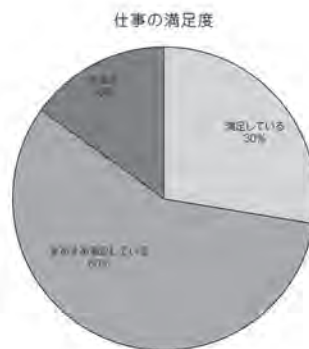
(1) 在籍期間

対象者の就労継続支援サービスの在籍期間は、1年未満が10%、1年以上2年未満が16%、2年以上3年未満が19%、3年以上4年未満が14%、4年以上5年未満が9%、5年以上6年未満が9%、6年以上が5%、無回答が18%です。



(2) 仕事の満足度

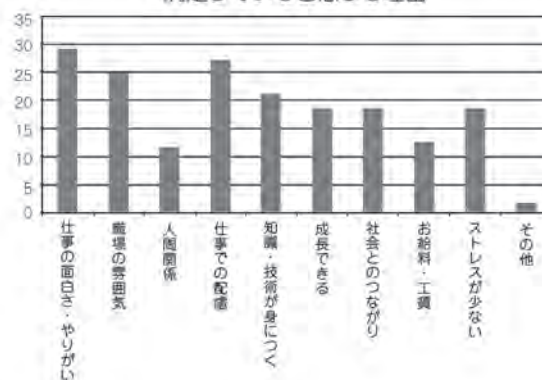
現在の仕事について、「満足している」と回答した方は30%、「まあまあ満足している」と回答した方は60%、「不満足」と回答した方は10%でした。全体の90%の方が現在の仕事におおむね満足していることがわかりました。



「満足している」と感じる理由としては、「仕事の面白さ・やりがい」と答える方が29名と最も多く、続いて「職場の雰囲気」(25名)、「仕事での配慮」(27名)、「知識・技術が身につく」(21名)、と続いています。

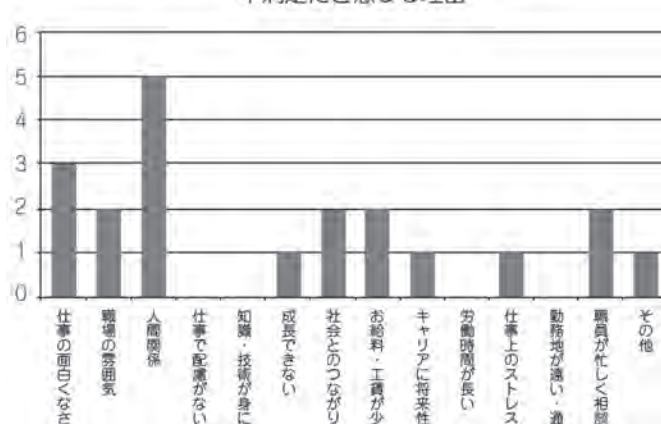
利用されている方にとって、「仕事の面白さ、やりがい」が重要であり、「配慮が得ること」などの働きやすい「職場の雰囲気」も長く働き続けるために大事な要素であることが明らかになりました。

満足していると感じる理由



一方で「不満足」と回答した10% (6名) の中では、「人間関係」を理由とする方が最も多かったです。個別の課題や理由もあると考えられますが、定期面談等で本人の想いや状況を聞き取り、上司や同僚、他の利用者との「人間関係」を良好に保てるように支援していく必要があります。

不満足だと感じる理由



(3) 仕事をしていて感じること

利用者の方々が日々、仕事をしてどのようなことを感じているのか知るために、満足度

と合わせて「仕事をしていて感じること」を尋ねました。

回答としては「仕事を通じて自分が成長している」「ぷろぽの中で役立っている」と感じる人が最も多く、多くの人にとって、ぷろぽのの仕事が成長のきっかけになっており、それが職場の中で役に立っているという実感につながっていると言えます。次に「社会の中で役に立っている」「やり遂げた際に達成感を感じる」、「働き甲斐がある」「仕事の内容が面白い」と答える人が多く、仕事の「やりがい」「面白さ」が働く動機につながっていると思われます。

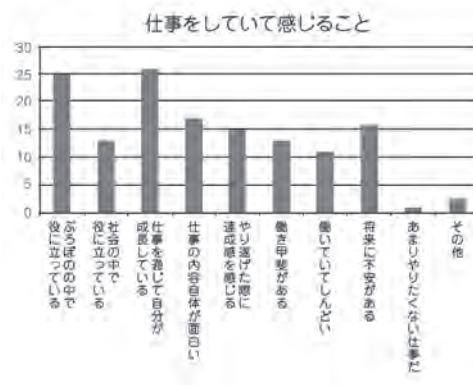
一方で否定的な意見としては、「将来に不安がある」と答える方が最も多く、次に「働いてしんどい」と感じる方もいらっしゃいました。それぞれの事情もありますが、生活面や経済面、業務内容など、将来に対する不安・希望などは定期面談を通じて適宜把握することが必要です。

仕事をしていて「やりがい・面白さ」を感じるときを尋ねた設問（自由記述）では、「仕事ができるとき」「できることが増えたとき」など、「自分の成長」に関する意見や、「お客様に喜んでもらえたとき」「商品が売

れたとき」など、「役に立つ・人を喜ばせること」に関する意見が多かったです。

特にぷろぽで働いていて成長できたと感じることは、「作業力の向上」、「コミュニケーションをうまく取れるようになったこと」、「自分を客観的に見れるようになったこと」を挙げていました。

上記のように「自分の成長」や「役に立つ・人を喜ばせること」を大切にしたい事業運営に今後も取り組むことで、利用者の方々に仕事で「やりがい・面白さ」を引き出し、それが成長につながることであります。

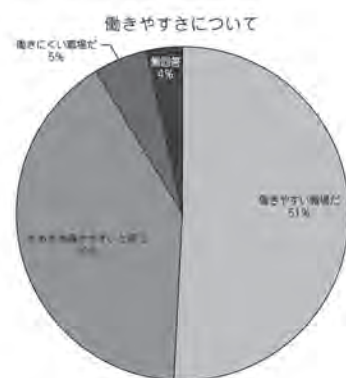


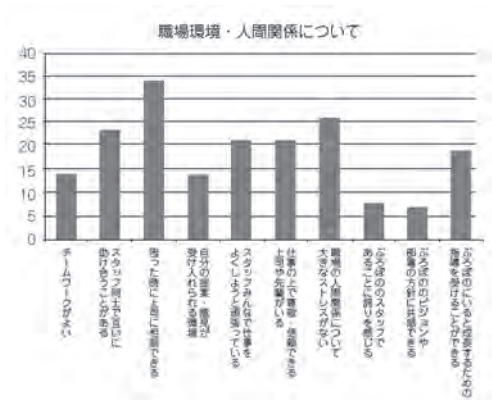
(4) 職場環境について

職場環境として、働きやすい職場かどうか、および職場の人間関係についての質問を設定しました。

働きやすさについては、「働きやすい職場だ」と答えた方が51%、「まあまあ働きやすいと思う」と答えた方は40%です。「働きやすい職場だ」「まあまあ働きやすいと思う」と答えた方の理由としては、「配慮・サポートが得れること」と「職場の人間関係」を挙げる方が多かったです。引き続き、それぞれの特性に応じた配慮・サポートを行い、働く場として職場の人間関係・雰囲気をよくするための取り組みを進めていきます。

「働きにくい職場だ」と答えた方は、理由として「仕事場面以外での人間関係」や「障害者ばかりの職場である」ことなどを挙げていました。個別の定期面談を通じて希望をうかがいながら、それぞれが希望する働き方に向けた支援の仕組みも今後検討いたします。





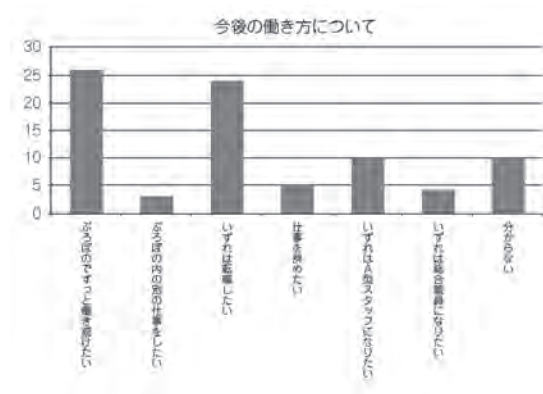
職場環境・人間関係について、「困った時に上司に相談できる」と答える方が最も多く、次に、「職場の人間関係について大きなストレスがない」「仕事の上で尊敬・信頼できる上司や先輩がいる」と答える方が多かったです。これらは「働きやすさ」にも関係しているところが多く、今後の働きやすい環境づくりとして現場で考慮することが大切です。

(5) 今後の働き方について

今後の働き方について、「ぶろぼのですずっと働きたい」と答えた方が最も多かったです。中には「A型スタッフ」や「総合職員」を目指している方も多く、ぶろぼの中でどのように成長し、キャリアアップできる仕組みをつくるかが課題になります。また、「いずれは転職したい」と考えている方も約3分の1いることがわかりました。

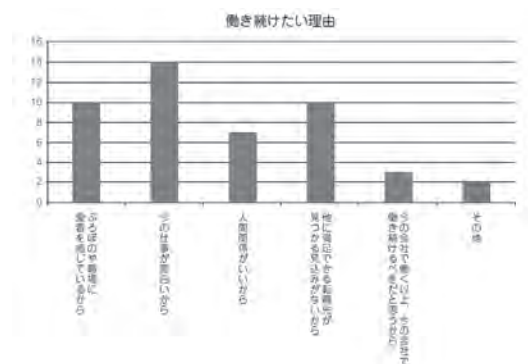
A型スタッフ・総合職員を目指す理由や転職を希望する理由について今回捉えることができていませんが、将来希望する暮らしや働き方(例: 工賃・給料や時間等)という要素からも仕組みを検討することが重要です。A型・B型をステップとして一般就労を希望する方も一定数いると思われ、ご希望に応じた支援を整備することも必要です。

一方で「わからない」と答える方もおり、現在の状況・状態からは将来についてイメージを持ちづらいことがうかがえます。



働きたい理由としては、「今の仕事が面白いから」「ぶろぼのや職場に愛着を感じている」「人間関係がいいから」と答える方が多く、仕事を満足だと感じる理由(配慮が得れる／やりがい・面白さ／人間関係など)と同じ傾向でした。仕事に満足を感じているからこそ、ぶろぼので働きたいと感じていただけていると考えられます。

一方で、「ほかに満足できる転職先が見つかる見込みがないから」と回答する方もおり、本人のニーズを聞きながら、必要に応じて一般就労をサポートするための仕組みも重要です。また職場として、働き続けるために魅力的な仕事や職場環境にすることも引き続き目指していきます。



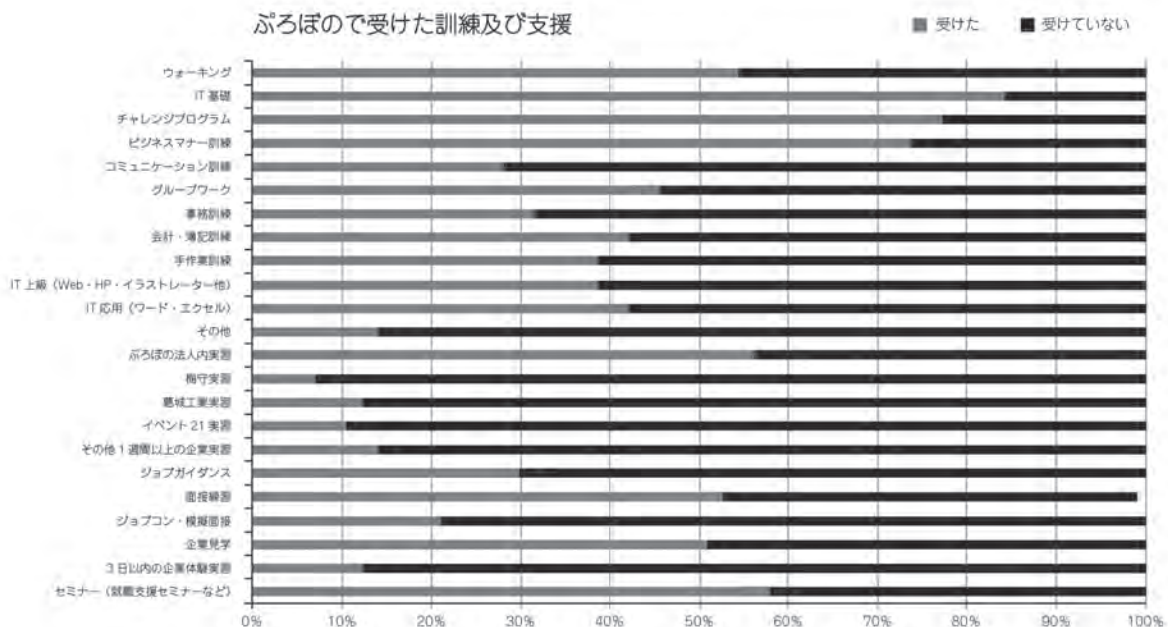
2 訓練の評価

就労移行支援サービス利用時に受けた訓練及び支援が、実際に働くときにどのように役に立っているかを評価するために、訓練・支援に関する項目を設定しました。

約8割は仕事に役に立っていると感じていますが、一方で「特に役に立たない」「●●の訓練がどう生かされているのかわからない」と答える方もいました。

訓練と働く場の間で訓練・支援内容の共有とそれを踏まえたフィードバックをすることも重要ですが、一方で、訓練提供時の目的・意識付けも影響していると思われます。

訓練の改善点として、より実践的なパソコンスキルを上げる方もいましたが、多くの方が訓練内容に特に不満はありませんでした。

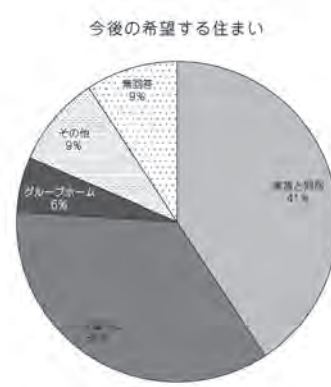


3 生活面について

現在の生活について困っていることや希望する暮らしを尋ねる項目を設定しました。

(1) 現在の住まいと今後の暮らし方の希望

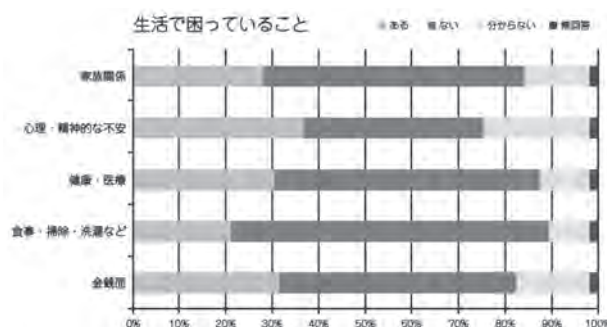
現在は「家族と同居」している方が82%と最も多く、次に「一人暮らし」が11%、「グループホーム」が2%です。それに対して、今後希望する住まいについては、「一人暮らし」が35%、「グループホーム」が6%とそれぞれ増加しており、いずれ自分で暮らしたいと考えている方が多いことがうかがえます。



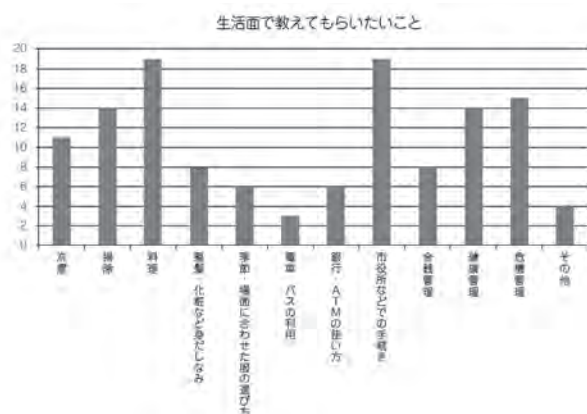
(2) 生活で困っていること

現在の生活について、約4分の1から半数の方が、何らかの状況について困っていると感じていることがわかりました。

その中でも「心理・精神的な不安」を挙げる方が最も多く、次に「健康・医療」「金銭面」を挙げる方もいました。10～30%ほどの方は、「わからない」と答えています。生活面について相談支援所も含めて、生活面のニーズの聞き取り・対応の検討が必要な場合もあることがわかります。



(3) 生活面の支援の希望



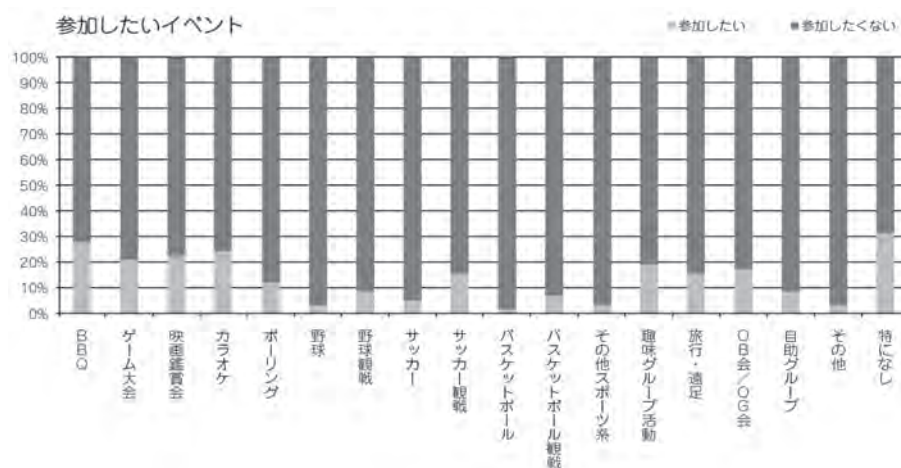
生活面で教えてもらいたいこととしては、「料理」「市役所などの手続き」が最も多いです。次に「危機管理」「健康管理」を希望される方もいました。生活支援・グループホームなどの案内や、就職支援セミナー等を通じた情報・学習の場の提供も引き続き行います。

(4) 余暇活動について

余暇活動のイベントを聞いたところ、「特にない」、無回答の方を除く 65%（26 名）の方が何らかのイベント、余暇活動に参加したいと考えていることがわかります。就労移行で開催している「BBQ」「カラオケ」「映画」「ゲーム大会」に卒業生として引き続き参加したいと

思っている方が10名前後おり、余暇支援として定着していると思われます。

一方でそれぞれ自分のペース・余暇活動を楽しみたいと考えている方も多いと考えられます。今後もイベントの企画・余暇活動提供も継続して行っていきます。



4 まとめ

全体を通じて、現在のぷろぼのでの仕事や職場環境について「満足・良い」と感じている方が多く、平成 27 年度に引き続き高い評価を得ることができました。働く場としてのぷろぼのが「働きがい・やりがいのある仕事」を提供し、「配慮を得やすい」雰囲気「働きやすい職場」となっていることは、事業運営側として大変嬉しいことです。この評価は事業運営によるものだけでなく、働いている利用者の方々の意識や頑張りによってなされているものです。

今回いただいた意見を基に、働いている利用者の方が「働きがい・やりがい」と感じる仕事や、「働きやすい」と感じる職場づくりに向けた、仕組み・組織づくりに今後も継続して励んでまいります。

良い評価だけでなく、仕事としての配慮以外の人間関係についてなどの働きにくさや仕事で不満を感じていることなどの意見も明らかになりました。これらの意見については、働く現場で改善に努めていきます。また、定期面談等により利用者の希望・ニーズをより丁寧に捉えていき、その人らしくやりがいをもって働き続ける・暮らし続けるための支援や仕事・職場環境

を今後も検討いたします。

生活に関するご意見については、他の支援機関と連携しながら、ぷろぼのとしても働いている方に向けた中期的・長期的な生活支援に関する取り組みや情報提供の検討が必要と思われます。

就労移行支援に在籍時に受けた支援・訓練についても、「役に立っている」という満足度が高いことから、ぷろぼのの就労移行支援の取り組みが利用者みなさんのニーズにこたえ、就労に活かしていると実感できていると言えます。

就労移行支援事業においては、ぷろぼの内での働く場（就労継続 A 型・B 型）における就労が充実し、定着したことから、A 型・B 型で働くことが選択肢として広がっています。

今後ぷろぼので働きたいと思って利用を希望する方も増えることが予想され、地域の中で魅力的な仕事や職場を作りだしていると支援機関や利用者に評価していただけるように、今後も引き続き、仕事・職場環境の向上と情報の発信に取り組んでいきます。協力をいただき、ありがとうございました。

X 計算書類

法人単位資金収支計算書

第一号第一様式

(自) 平成28年4月1日 (至) 平成29年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		予算（A）	決算（B）	差異 (A)-(B)	備考		
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	43,000,000	46,420,207	△3,420,207		
		障害福祉サービス等事業収入	356,120,000	355,664,933	455,067		
		その他の事業収入	400,000	16,370	383,630		
		経常経費寄附金収入	1,100,000	730,000	370,000		
		受取利息配当金収入	60,000	13,138	46,862		
		その他の収入	1,200,000	2,130,303	△930,303		
		事業活動収入計（１）	401,880,000	404,974,951	△3,094,951		
	支出	人件費支出	228,148,000	221,480,194	6,667,806		
		事業費支出	47,556,200	42,387,579	5,168,621		
		事務費支出	28,092,380	20,591,152	7,501,228		
		就労支援事業支出	77,510,000	77,825,922	△315,922		
		支払利息支出	360,000	348,360	11,640		
		その他の支出	1,340,000	1,351,740	△11,740		
		事業活動支出計（２）	383,006,580	363,984,947	19,021,633		
事業活動資金収支差額（３） ＝（１）－（２）		18,873,420	40,990,004	△22,116,584			
施設設備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	0	244,000	△244,000		
		設備資金借入金収入	284,000,000	204,000,000	80,000,000		
		固定資産売却収入	500,000	18,636,000	△18,136,000		
	施設整備等収入計（４）		284,500,000	222,880,000	61,620,000		
	支出	固定資産取得支出	465,135,600	462,736,000	2,399,600		
		施設設備等支出計（５）	465,135,600	462,736,000	2,399,600		
施設整備等資金収支差額（６） ＝（４）－（５）		△180,635,600	△239,856,000	59,220,400			
その他の活動による収支	収入						
		その他の活動収入計（７）					
	支出	積立資産支出	3,000,000	3,000,000	0		
		その他の活動支出計（８）	3,000,000	3,000,000	0		
	その他の活動資金収支差額（９） ＝（７）－（８）		△3,000,000	△3,000,000	0		
	予備費支出（１０）			—			
当期資金収支差額合計（１１） ＝（３）＋（６）＋（９）－（１０）		△164,762,180	△201,865,996	37,103,816			
前期末支払資金残高（１２）		242,704,777	242,704,777	0			
当期末支払資金残高（１１）＋（１２）		77,942,597	40,838,781	37,103,816			

法人単位事業活動計算書

(自) 平成28年4月1日 (至) 平成29年3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)-(B)	備考
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	46,420,207	34,275,032	12,145,175
		障害福祉サービス等事業収益	355,664,933	182,005,874	173,659,059
		その他の事業収益	16,370	4,571,822	△4,555,452
		経常経費寄附金収益	730,000	50,000	680,000
	サービス活動収益計 (1)		402,831,510	220,902,728	181,928,782
	費用	人件費	221,480,194	100,873,044	120,607,150
		事業費	42,387,579	20,278,213	22,109,366
		事務費	20,591,152	13,331,086	7,260,066
		就労支援事業費用	79,604,082	45,628,594	33,975,488
		減価償却費	14,242,328	1,493,480	12,748,848
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△4,472,759	△54,999	△4,417,760
	サービス活動費用計 (2)		373,832,576	181,549,418	192,283,158
	サービス活動増減差額 (3) =(1) - (2)		28,998,934	39,353,310	△10,354,376
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	13,138	13,034	104
		その他のサービス活動外収益	2,130,303	961,758	1,168,545
		サービス活動外収益計 (4)	2,143,441	974,792	1,168,649
	費用	支払利息	348,360		348,360
		その他のサービス活動外費用	1,351,740	238,640	1,113,100
		サービス活動外費用計 (5)	1,700,100	238,640	1,461,460
	サービス活動外増減差額 (6) =(4) - (5)		443,341	736,152	△292,811
経常増減差額 (7)=(3)+(6)		29,442,275	40,089,462	△10,647,187	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	244,000	170,110,000	△169,866,000
		固定資産受贈額	2,376,721	7,769,755	△5,393,034
		特別収益計 (8)	2,620,721	177,879,755	△175,259,034
	費用	国庫補助金等特別積立金積立額	2,547,621	170,110,000	△167,562,379
		特別費用計 (9)	2,547,621	170,110,000	△167,562,379
	特別増減差額 (10) =(8) - (9)		73,100	7,769,755	△7,696,655
	当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)		29,515,375	47,859,217	△18,343,842
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額 (12)		87,345,944	39,486,727	47,859,217
	当期末繰越活動増減差額 (13) =(11)+(12)		116,861,319	87,345,944	29,515,375
	基本金取崩額 (14)				
	その他の積立金取崩額 (15)				
	その他の積立金積立額 (16)		3,000,000		3,000,000
	次期繰越活動増減差額 (17) =(13)+(14)+(15) - (16)		113,861,319	87,345,944	26,515,375

法人単位貸借対照表

平成 2 9 年 3 月 3 1 日 現在

第三号第一様式

(単位：円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	120,529,509	258,906,179	△138,376,670	流動負債	78,278,478	15,380,952	62,897,526
現金預金	45,982,522	41,350,138	4,632,414	事業未払金	3,047,485	14,427,424	△11,379,939
事業未収金	60,482,023	34,985,252	25,496,771	買掛金	1,425,464	392,173	1,033,291
売掛金	3,667,960	5,091,989	△1,424,029	未払費用	135,563	246,190	△110,627
未収補助金	244,000	171,973,500	△171,729,500	預り金	2,531,243	14,460	2,516,783
貯蔵品	0	1,500	△1,500	前受金	123,423	300,705	△177,282
原材料	1,412,250	820,450	591,800	仮受金	15,300	0	15,300
未収入金	738,987	0	738,987	法人間未払金（社福）	71,000,000	0	71,000,000
立替金	70,342	329,124	△258,782				
前払金	4,735,710	4,354,226	381,484				
法人間未収金（社福）	3,195,685	0	3,195,685				
固定資産	480,478,411	49,393,636	431,084,775	固定負債	204,000,000		204,000,000
基本財産	440,424,965	10,000,000	430,424,965	設備資金借入金	204,000,000		204,000,000
建物	378,561,912		378,561,912	負債の部合計	282,278,478	15,380,952	266,897,526
建物附属設備	51,863,053		51,863,053	純資産の部			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0	基本金	35,000,000	35,000,000	0
その他の固定資産	40,053,446	39,393,636	659,810	第 1 号基本金	10,000,000	10,000,000	0
建物附属設備	4,274,758	4,846,542	△571,784	第 3 号基本金	25,000,000	25,000,000	0
機械及び装置	2,380,772	2,668,504	△287,732	国庫補助金等特別積立金	166,868,123	170,572,919	△3,704,796
車輛運搬具	2,199,901		2,199,901	その他の積立金	3,000,000		3,000,000
器具及び備品	22,714,319	7,480,737	15,233,582	施設・設備整備積立金	3,000,000		3,000,000
建設仮勘定	0	18,636,000	△18,636,000	次期繰越活動増減差額	113,861,319	87,345,944	26,515,375
権利	88,836	178,836	△90,000	（うち当期活動増減差額）	29,515,375	47,859,217	△18,343,842
差入保証金	4,431,000	4,431,000	0				
ソフトウェア	933,860	1,122,017	△188,157	純資産の部合計	318,729,442	292,918,863	25,810,579
施設整備等積立資産	3,000,000		3,000,000				
その他の固定資産	30,000	30,000	0	負債及び 純資産の部合計	601,007,920	308,299,815	292,708,105
資産の部合計	601,007,920	308,299,815	292,708,105				

財産目録

平成29年3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
Ⅰ 資産の部						
1. 流動資産						
現金預金		—	運転資金	—	—	45,982,552
現金	(福) 社福本部 他 14 口	—	運転資金	—	—	329,546
普通預金	(福) ア-スカーズ 入金用 2157811	—	運転資金	—	—	128,394
	(福) 食堂 入金用 2157808	—	運転資金	—	—	4,228,902
	(福) スコ新大宮 入金用 2157793	—	運転資金	—	—	159,180
	(福) 新大宮 自立訓練 2156894	—	運転資金	—	—	41,503
	(福) スコ新大宮 2156909	—	運転資金	—	—	10,010
	(福) 生駒 リそな 0336136	—	運転資金	—	—	11,542
	(福) 榛原 その他 2154067	—	運転資金	—	—	60,000
	(福) 榛原 入金用 2148827	—	運転資金	—	—	120,919
	(福) 榛原 小口 2150929	—	運転資金	—	—	3,779
	(福) 生駒 小口 2150814	—	運転資金	—	—	2,802
	(福) 生駒 その他 2150827	—	運転資金	—	—	136,095
	(福) 生駒 入金用 2150830	—	運転資金	—	—	124,049
	(福) スコ生駒 入金用 2150856	—	運転資金	—	—	245,569
	(福) スコ生駒 小口 2150869	—	運転資金	—	—	40,027
	(福) 八木 入金用 2150872	—	運転資金	—	—	79,903
	(福) 八木 小口 2 150885	—	運転資金	—	—	35,259
	(福) ITY その他 2150898	—	運転資金	—	—	627,415
	(福) ITY 入金用 2150903	—	運転資金	—	—	219,961
	(福) スコ八木 入金用 2150916	—	運転資金	—	—	198,203
	(福) 八木 自立支援 小口 2165964	—	運転資金	—	—	100
	(福) 八木 自立支援 入金用 2165951	—	運転資金	—	—	100
	(福) スコ八木 小口 2150932	—	運転資金	—	—	20,100
	(福) 本部 運営 2109753	—	運転資金	—	—	29,131,110
	(福) 本部 寄付 2114361	—	運転資金	—	—	780,006
	(福) 高の原 その他 2114358	—	運転資金	—	—	509,336
	(福) 高の原 小口 2114390	—	運転資金	—	—	152,977
	(福) 新大宮 小口 2114345	—	運転資金	—	—	10,630
	(福) I T C その他 2114374	—	運転資金	—	—	8,212,485
	(福) 奈良中央信金 0287656	—	運転資金	—	—	10,189
	(福) 高の原 入金用 2118263	—	運転資金	—	—	113,854
	(福) 新大宮 入金用 2118250	—	運転資金	—	—	238,607
小計						45,653,006
事業未収金		—		—	—	60,482,023
事業未収金	国保連未収金	—	国保連合 2,3 月分	—	—	60,472,793
	その他の未収金	—	個人分	—	—	9,230
小計						60,482,023
売掛金		—	Pac,proide 等の売上分	—	—	3,667,960
未収補助金		—	奈良県補助金	—	—	244,000
原材料		—	3 R 材料費	—	—	1,412,250
未収入金	給食費	—	利用者さん食費他	—	—	191,750
		—	職員分	—	—	547,237
小計						738,987
立替金	その他の立替金	—		—	—	70,342
前払金		—		—	—	2,648,106
		—		—	—	2,087,604
小計						4,735,710
法人間未収金(社福)		—		—	—	3,195,685
流動資産合計						120,529,509
2. 固定資産						
(1) 基本財産						
建物	(ぶろぼの) 奈良県奈良市大宮町 3 丁目 5-41	2016 年度	第 2 種社会福祉事業に使用	388,069,617	9,507,705	378,561,912
建物附属設備	(ぶろぼの) 奈良県奈良市大宮町 3 丁目 5-41	2016 年度	第 2 種社会福祉事業に使用	20,670,756	807,881	19,862,875
	(ぶろぼの) 奈良県奈良市大宮町 3 丁目 5-41	2016 年度	第 2 種社会福祉事業に使用	26,413,329	1,032,320	25,381,009
	(ぶろぼの) 奈良県奈良市大宮町 3 丁目 5-41	2016 年度	第 2 種社会福祉事業に使用	6,855,098	235,929	6,619,169
小計						51,863,053
定期預金		—		—	—	10,000,000
基本財産合計						440,424,965

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額	
建物附属設備	(ぶろぼの)	2013 年度	第 2 種社会福祉事業 就労移行支援事業に使用	259,588	144,589	114,999	
	(ぶろぼの)	2013 年度		323,891	154,494	169,397	
	(ぶろぼの)	2013 年度		880,955	420,213	460,742	
	(ぶろぼの)	2013 年度		465,841	222,205	243,636	
	(ぶろぼの)	2014 年度		924,707	238,880	685,827	
	(ぶろぼの)	2015 年度		885,600	64,279	821,321	
	(ぶろぼの) 奈良市大宮町 3－5－4 1 ぶろぼの福祉ビル	2016 年度		215,741	5,285	210,456	
	(社福 本部)	2015 年度		391,629	78,325	313,304	
	(生駒 移行)	2015 年度		262,296	43,803	218,493	
	(生駒 移行)	2015 年度		625,118	125,023	500,095	
	(生駒 移行)	2015 年度		265,315	44,307	221,008	
	(八木 移行)	2015 年度		145,639	24,321	121,318	
	(八木 移行)	2015 年度		226,560	32,398	194,162	
	小計					4,274,758	
	機械及び装置 車輛運搬具	八木レーザーカッター 他 1 件	－	第 2 種社会福祉事業 就労継続支援 B 型事業に使用	2,668,504	287,732	2,380,772
		農芸車両 他 1 件	－		2,493,771	293,870	2,199,901
	器具及び備品 権利 差入保証金 ソフトウェア	基盤整備設備(引継) 高の原 他 27 件	－		30,106,597	7,392,278	22,714,319
		グループホーム礼金 他 2 件	－		342,168	253,332	88,836
		定期借地権 敷金 他 7 件	－		4,431,000	0	4,431,000
		基盤整備ソフト(引継)	－		2,414,912	1,481,052	933,860
PAC 会計ソフト 他 4 件		－					
施設整備等積立資産 その他の固定資産		－		－	－	3,000,000	
		－		－	－	30,000	
その他の固定資産合計						40,053,446	
固定資産合計						480,478,411	
資産合計						601,007,920	
Ⅱ 負債の部							
1. 流動負債							
事業未払金 買掛金 未払費用 預り金		－		－	－	3,047,485	
		－		－	－	1,425,464	
	その他未払費用	－		－	－	135,563	
	雇用保険料	－		－	－	1,802,590	
	源泉所得税	－		－	－	633,349	
	その他の預り金	－		－	－	95,304	
	小計					2,531,243	
前受金		－	家賃分	－	－	41,141	
		－	家賃分	－	－	41,141	
		－	家賃分	－	－	41,141	
小計						123,423	
仮受金	P 検定	－		－	－	15,300	
法人間未払金(社福)		－		－	－	71,000,000	
流動負債合計						78,278,478	
2. 固定負債							
設備資金借入金	福祉医療機構 0.35%	－		－	－	204,000,000	
固定負債合計						204,000,000	
負債合計						282,278,478	
差引純資産						318,729,442	

XI 法人概要

法人概要・役員紹介

法人名称	社会福祉法人ぶろぼの
事業の種類	第二種社会福祉事業 (1) 障害福祉サービス事業の経営 ・就労移行支援事業 ・就労継続支援事業 A 型・B 型 ・自立訓練（生活訓練） ・共同生活援助事業 (2) 相談支援事業の経営 (3) 障害児通所支援事業の経営 ・放課後等デイサービス事業
理事長	山内民興
理事	米田英雄（当法人管理者 N P O 法人ぶろぼの理事） 南部英治（N P O 法人チャレンジ企業支援隊理事） 梓川一（関西学院大学人間福祉学部准教授） 奥脇学（有限会社奥進システム代表取締役） 林田五郎（（元）近畿労働金庫地域共生推進部上席推進役）
監事	岩本洋二（岩本税理士事務所所長） 梅屋則夫（（元）学校法人奈良学園常勤監事）
評議員	川端章代（川端運輸株式会社代表取締役） 阪本佳央（N P O 法人 AtoMs 理事長） 佐野まこ（かなえ経営株式会社取締役） 西辻茂（（元）株式会社オーグス総研社会貢献活動推進室室長） 平岩良一（N P O 法人奈良シニア I T 振興会理事） 吉岡正志（奈良市大宮地区自治連合会長） 坂本大祐（デザイナー） 高田雅文（養護学校教諭） 日置慎治（大学教授） 皆川信一（会社代表） 阿南雅昭（当法人管理者 N P O 法人ぶろぼの理事） 磯野滋昭（当法人管理者 N P O 法人ぶろぼの理事） 藤原純子（当法人管理者 N P O 法人ぶろぼの理事）
第三者委員	梅屋則夫 佐野まこ

まとめ

平成 28 年度はぷろぼのにとって大きな節目の年でした。一つ目に NPO 法人設立から 10 年を迎えたこと、そして 2 つ目に法人本部の「ぷろぼの福祉ビル Fellow Ship Center」を設立したことです。

国税局の統計によると、起業から 10 年で残る会社はわずか 6.3% と言われています。ぷろぼのは平成 28 年度無事 10 周年を迎えることができましたが、この先 10 年も法人が存続し、成長し続けることは容易ではありません。これから 10 年先を考えて、「大切に守り続ける『ぷろぼのらしさ』」「目指す社会に向けて変革し、挑戦すること」という大きな方針を考える最初の一年でした。

これからの 10 年の土台作りとして最初に取り組んだことは、法人事業の基盤である就労移行支援事業の運営力強化です。各所長と福祉部長を中心として、事業運営や利用者支援に必要なポイントの改善・向上を図りました。特に支援機関との信頼関係の重要性を改めて確認し、定期的な訪問活動や連絡を行うことにしました。平成 28 年 8 月には自立訓練を設立したことで、支援のすそ野が広がり、より多くの支援を必要とする方々と地域でつながることができるようになったと感じています。また、ありがたいことに、ぷろぼのの就労移行支援の仕組みへ共感していただく方も増え、法人への見学、研修受け入れも多くなっています。私たち自身も他法人や他業界から学ばせていただきながら、就労支援システムをより良いものにすべく、平成 29 年度は標準化をテーマにマニュアル作りに取り組めます。

一方、障がいのある方の仕事づくり（就労継続支援事業）では、世間の企業と同じく、社会情勢、経済状況などと連動して、一部既存事業で売り上げが伸び悩み、事業改善や新規事業立ち上げに取り組んだ 1 年でした。その中でも、ロボット事業やプログラミング教室を中心として、将来の IT 事業を見据えた取り組みを始めたことは一つの成果と言えます。ソフトバンク社から Pepper を 10 台寄付いただくことも決定し、平成 29 年度には地域や企業を巻き込んだ事業展開を進める予定です。また、IT 企業と共同したシステム開発事業では事業売り上げも雇用数も増大しており、今後も事業の中心を担っていく見込みです。モノづくりの事業では、法人オリジナルの商品の販売先増加やコラボ商品制作など、これまでとは全く異なる業界とつながり、様々な場所でお客様に届く機会が増えています。

もう一つの取り組みである、「ぷろぼの福祉ビル Fellow Ship Center」の設立は、設計・建設に当たり、単に入れ物としてのビルを作るのではなく、建物から広がる「価値」を考えながら検討してきました。その結果として、このビルは障がい者福祉の分野だけでなく、環境分野、地域活動など、社会全体に精力的につながり、かかわっていくための拠点として大きな価値を発揮しています。設立以降、様々な分野からご見学いただき、ビルをきっかけに新たに全国とつながり、始まった事業などにその成果が表れてきました。今後 Fellow Ship Center 設立をステップとして、法人の今後 10 年に向けさらに大きな一歩を踏み出していきたいと感じています。

統括施設長 米田英雄

法人が運営をする福祉サービス事業所は以下のとおりです。

【放課後等デイサービス】

ぶろぼのスコラ 生駒校

〒630-0257 奈良県生駒市元町2丁目1-19
元町ストレートビル
電話/FAX 0743-85-6397

ぶろぼのスコラ 八木校

〒634-0078 奈良県橿原市八木町1丁目7-3
かしはらビル3階305号
電話 0744-47-4763

ぶろぼのスコラ新大宮校

〒630-8115 奈良市大宮町3丁目5-41
ぶろぼの福祉ビル3階
電話 0742-81-3423

【自立訓練(生活訓練)】

アースカラーズぶろぼの新大宮

〒630-8115 奈良市大宮町3丁目5-41
ぶろぼの福祉ビル3階
電話 0742-81-3069

【就労移行事業所】

テクノパークぶろぼの生駒

〒630-0257 奈良県生駒市元町2丁目1-19
元町ストレートビル1階
電話/FAX 0743-85-5658

テクノパークぶろぼの高の原

〒631-0805 奈良県奈良市右京1丁目2番地
サントウンアカデミー隣り
電話/FAX 0742-72-2207

テクノパークぶろぼの新大宮

〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-41
ぶろぼの福祉ビル4階
電話/FAX 0742-35-3353

テクノパークぶろぼの大和八木

〒634-0078 奈良県橿原市八木町1丁目7-3
かしはらビル6階
電話 0744-22-0308 / FAX 0744-22-0310

【就労継続支援事業所】

IPFactoryぶろぼの(A型)

〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-41
ぶろぼの福祉ビル2階
電話 0742-35-3232 / FAX 0742-81-7320

ITセンター大和八木(A・B 多機能型)

〒634-0078 奈良県橿原市八木町1丁目7-3
かしはらビル5階
電話 0744-47-2681

ITセンター榛原(B型・移行 多機能型)

〒633-0254 奈良県宇陀市榛原高萩台78番地
グリーンスクエア榛原駅前1番館105号
TEL 0745-96-9012 / FAX 0745-96-9013

SCファームぶろぼの(B型)

〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-39
第3やまと建設ビル201号
電話 / FAX 0742-81-7218

【指定特定相談支援事業】

特定相談支援事業所ぶろぼの

〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-39
第3やまと建設ビル201号
電話 0742-81-7164 / FAX 0742-81-7032

【共同生活援助事業】

GHぶろぼの 奈良市

《地域活動支援センターⅢ型事業》

特定非営利活動法人 ぶろぼの

〒630-0257 奈良県生駒市元町2丁目1-19
元町ストレートビル1階
電話/FAX 0743-85-5658

詳しくは、各事業所又は事務局までご連絡ください。
事務局 〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-39
第3やまと建設ビル201号
電話/FAX 0742-81-7032



表紙デザインについて

表紙に使用されている文様は、正倉院に収められている宝物に描かれた宝相華文や連珠文、唐華文などの文様（デザイン）を、写真などをもとに時間をかけてデータ化した「天平文様」です。

「天平文様」を利用したデザインは、奈良女子大学 社会連携センターと、奈良の福祉グループぷろぼのとの共同研究によるものです。